

－ 発刊にあたって －

戦後50年、人々は豊かな生活を求めてひたすら働いてきた。そして、国民一人ひとりの手で今の生活を築いて来たと自負している。過去を振り返ることなく、未来の栄華ばかりを夢みて…。

しかし、物質的繁栄を勝ち取ったと思った日本国民に、今一度あの悲惨な戦後を思い起こさせてくれた。それは真冬の暁の冷気を破る巨大な爪を振りおろした自然という神である。一瞬の死、建物の下敷きで苦しさにうめきながら、めらめらと燃えさかる火の海の中で焼かれ死んで行った人々、生活の拠点である家屋の倒壊、いまだにPTSD（心的外傷後ストレス障害）に悩む人々など、筆舌に尽くせない悲惨な思いを胸にたたき込まれたのである。

自然と共生を忘れたおろかな人間のもとに、いつどこで起こるかわからない神の怒りに備えて、誰もが経験したことのないあの恐ろしい悲しい苦しい思いをひとりでも多くの人に共有していただきたく、この記録誌を編纂した。

これが昼間の保育中だったらと思うと、身の毛もよだつ思いである。失ったものは計り知れないが、この地震は人の心の暖かさ、ぬくもりをいっぱい教えてくれた。義援金、救援物資、ボランティア活動など物心両面からご支援くださった全国の同志の皆さん一人ひとりに、心から“ありがとう”と言いたい。そして、この記録誌が今後の保育園の危機管理の一助となれば、望外の幸せである。

会 長 黒 川 恭 眞

目 次

1	1995年1月17日、午前5時46分	7
2	被害の状況	17
	・園舎	
	・子どもと職員	
3	子どもたちの疎開と緊急仮入所	33
4	さしのべられた救援の手	47
	・保育救援活動	
	・義援金について	
	・救援物資について	
5	神戸市私立保育園連盟の活動	57
	・緊急会議	
	・園長会	
	・保育総合でのアピール	
	・倒壊園職員の雇用	
	・避難所として	
	・仮設園舎が建って	
6	復旧をめざして	79
	・行政への対応	
	・園の復旧	
7	子どもの心のケア	97

◆ 手記「震災を乗り越えて」 107

◆ シンポジウム「保育ボランティアとは」 125

◆ 防災マニュアル -もしもの時にそなえて- 143

ゴォーッ、それは地底から響いてきた。まるで、地球が唸り声を上げているようであった。ドーン、上に向かってはじき飛ばされるような強い力で、たて揺れが起こった。つづいて、グラグラと激しい横揺れが襲ってきた。1995年1月17日、夜もまだ明けやらぬ午前5時46分、兵庫県淡路島の北淡町を震源地とする、マグニチュード7.2の直下型大地震が、兵庫県南部を襲ったのである。

実際に揺れていた時間は20秒だったといわれたが、体で感じたかぎりでは、ずいぶん長かったと、多くの人が口をそろえて言っている。

あの瞬間、人々が味わった恐怖は、到底、活字では表すことのできないものであろう。

一瞬にして家屋が倒壊し、その下敷きとなった人、火の手が上がり、逃げようにも閉じ込められて身動きができなかった人、救助の時を待たずして息絶えた人の数の多さに、この地震の規模の大きさを思い知らされる。

とりわけ、神戸に住む者は、〈神戸には絶対、地震はない〉と、妙な確信をもっていたがゆえに、この度の大地震には驚愕せずにはいられなかった。ラジオ、テレビから、次々と流れてくる被災状況に、わたしたちは言葉を失った。もう、驚く気力すらなかった。

自分が、今、何をなすべきかを考える力も湧いてこない。

目の前に広がる、わが街・神戸の、見るも無残な姿に、涙があふれる。

何が起こったのか、まのあたりに現実を見ながらも、認めようとしないう強い力が内部に働くのがわかった。

日を追うにしたがい、被害の甚大さが明らかとなり、街も人もパニック状況を呈していった。

+++++

• 強い揺れにおそわれ、周りの物が次々に壊れていく中で、私は、何が起ったのか分からずただ呆然とし、死の恐怖を味わった。
(つぐみ保育園 井上 育美 保母)

• 周りの変化に驚きました。まず自分で出来ることを考えて、友人と一緒に避難所へ水を運ぶお手伝いを、させていただききました。
(弁天保育園 小松富美子 保母)

• 大阪の自宅から救援物資を持参して長田へ入りました。最初は少人数の援助者が3月末には延べ9千人を数えました。感謝です。
(西神戸YMCA 高田 裕之 園長)

★ 被災の状況

- ・ 1月18日現在（神戸新聞、朝刊紙上）

死亡者	1,311人
負傷者	4,241人
行方不明者	1,048人
- ・ 1月20日現在（神戸新聞、朝刊紙上）

死亡者	4,039人
負傷者	21,600人
行方不明者	727人
- ・ 1月30日現在（神戸新聞、朝刊紙上）

全半壊家屋	83,000戸
死亡者	5,092人
行方不明者	14人

1月18日付

神戸新聞朝刊記事



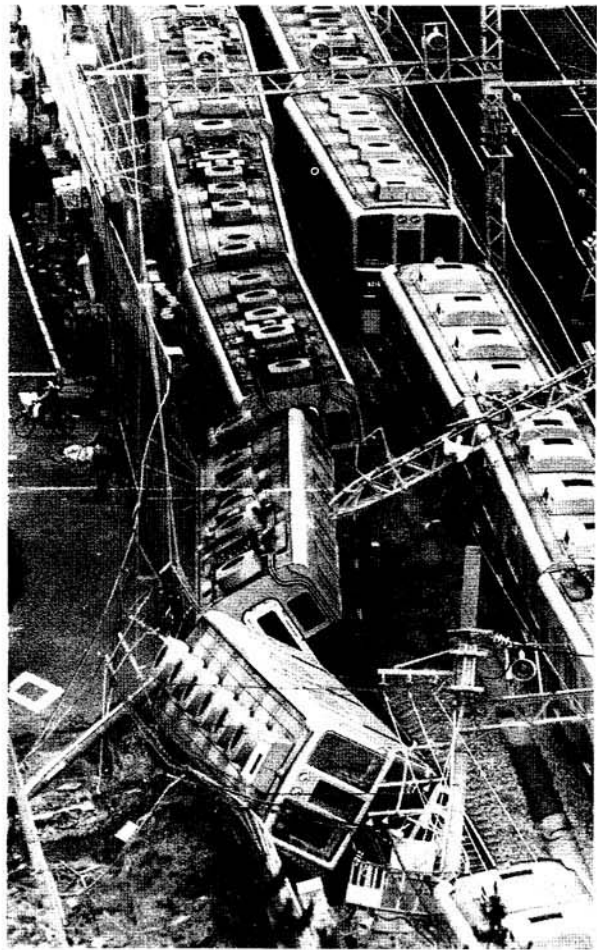
+++++

- ・ 何度も災害にあってきたにもかかわらず、この度も用意ができてないので日頃から身の回りの物とはとのえて置いて床に置くようにと強く感じました。 (明照保育園 平山己巳代 雇用員)
- ・ 激震の暗闇、家具倒壊の恐怖の中、震源地が気になりラジオのスイッチをさぐる。頭の中は真っ白。音声からあの惨状は見えなかった。 (明照保育園 浦井真知子 主任保母)
- ・ 激しい揺れの中頭から布団をかぶり早く揺れが収まるように願った。数10秒が長く感じられた。地震の揺れは収まっても私の体は震えていた。 (明照保育園 南 広子 保母)



淡路島で地震のため倒壊した民家 17日午後、兵庫県芦屋市名取北浜町

(倒壊した民家・淡路島)



(脱線した阪神電車)



(崩れ落ちた阪神高速道路)

(いずれも1月18日付)
(神戸新聞朝刊から)

+++++

• 突然の揺れに、何が起きたのかわかりませんでした。ラジオではローソンで物が落ちただけ、ところがTVはすごい映像。驚きました。
(明照保育園 勢川 和代 保母)

• 地震がグラッと来た瞬間何が何んだかわからずただ大声で子どもの名を呼びつづけ頭の中は大パニック、さすが父さん冷静で見直す。
(明照保育園 桐山あつ子 調理員)

• 何事が起こったのか祖母の声が異様に聞こえ地震であることに気がつき我が子にふとんを頭からかぶりなさいと大声でさけぶことしかできませんでした。
(明照保育園 松本 公子 栄養士)

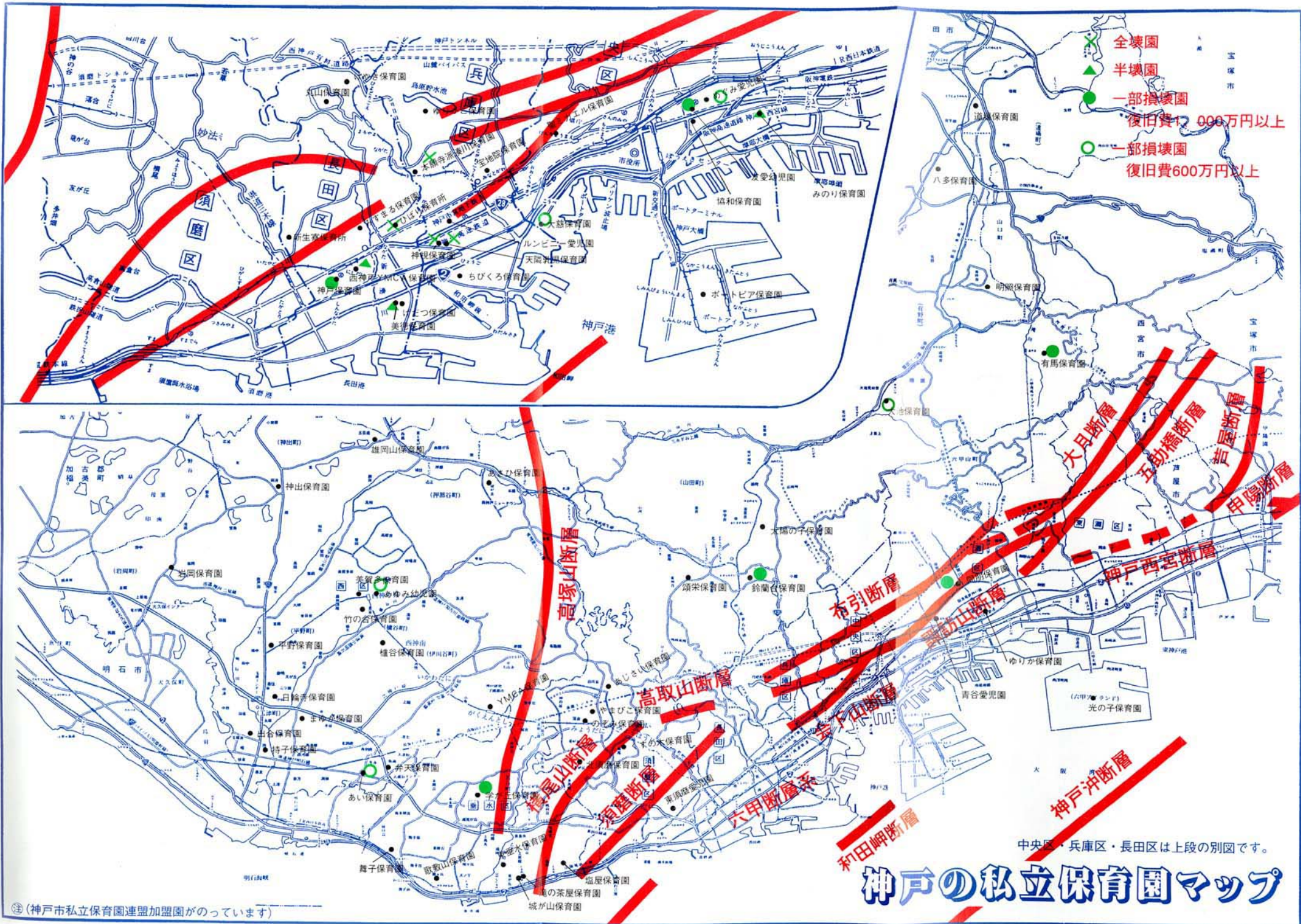
- 見慣れたビルが、無残に倒壊し、道はでこぼこ！三宮のあまりの変わりように言葉もなく自然の破壊力の恐ろしさを改めて思った。 (ポートピア保育園 河村 澄子 保母)
- 保育再開したが、またいつ大きなのがくるかと思うと、不安でした。地震がきたら、子どもたちを、こう守ろうといつも考えていました。 (鈴蘭台保育園 宮本ゆかり 保母)
- 私の保育園は被害が少なかったため、1週間後には保育が再開されたが、子どもたちが不安定で、食べ物を受けつけない子どももいた。 (つぐみ保育園 山田 美穂 保母)
- いつも元気がよすぎて保母を困らせていたYくん(2歳児)。園再開後2、3日はおもしろも多く、午睡も必ず保母が側にいないと眠れずにいた。 (つぐみ保育園 枳尾 珠美 保母)
- 「地震だ！地震だ！」遊びの中で遊具をゆらし表現する。2歳児までが地震という言葉の意味を知り、表現することに戸惑いを感じた。 (つぐみ保育園 湯井 恵子 保母)
- こんなに大きな揺れ(地震)が神戸にくるわけがない。何度も自分にそういい聞かせながら、恐怖と緊張を押さえるのに必死だった。 (つぐみ保育園 大西 博代 保母)
- 子どもたちがいない中で保育再開へ向けていろいろやってきましたが、子どもたちがいてこそ保育園、また私たちが生かされると思いました。 (西神戸YMCA保育園 秋定 奈保 保母)
- こんな時だからこそ子どもたちに暖かい食事をとりました。野菜中心メニューで便秘が治った子どもがいたのは、うれしかったです。 (西神戸YMCA保育園 田中 敦子 栄養士)
- 子どもが一日の中でどれだけ心地良く過ごし、好きな友だちや保母やボランティアの人がいる場所として保育園に来てもらいたいと思った。 (西神戸YMCA保育園 福永英由子 保母)
- ガス、水、電気の使えない不便さ、食材料の確保の難しさ、その中での給食提供は、体力精神的に限界に近いものがありました。 (西神戸YMCA保育園 廣垣 裕子 栄養士)
- この震災後に子どもたちに何ができるかと思った。しかし、全員無事で元気な姿と笑顔を見れることだけで幸せなんだと、実感した。 (くすの木保育園 西本 純子 保母)
- 死亡者の名前を、一つ一つ指でなぞりながら読んだ。順調に進んでいた指が止まったのは友だちの名前の上だった。信じられなかった。 (あゆみ幼児園 戸上亜紀子 保母)
- 半数の職員が避難通勤不可能の中、がんばろうのかけ声で保育再開。子どもたちの元気な声、笑顔に助けられ、頑張ることができました。 (やまびこ保育園 田丸 靖子 園長)

- 負傷した手、足の踏み場もない家の中。1カ月余の避難生活。職場に行けた喜び、子どもたちの笑顔に支えられ勇気づけられ頑張っています。 (やまびこ保育園 芦野 和代 保母)
- 3時間から1時間と通勤時間が短くなるが人波の中を早歩きで駅へ急ぐ。嫌な風景を見ながら毎日、繰り返し。二度と歩きたくない。 (やまびこ保育園 橋本 昌美 保母)
- 震災直後、交通手段のない時期に友人知人がいれかわりたちかわり救援物資を届けてくれた。不安疲労の中人の気持ちが出来良かった。 (やまびこ保育園 谷口美智子 保母)
- ゆれている状況の中で自分の上に重たくのしかかる物があり身動きがとれなかった。母の声やし必死の思いでにげ家族の無事を祈った。 (やまびこ保育園 谷迫 峰子 保母)
- 実家が香川県にあるため、地震の時は家族と離れていたもので、少し不安だったが、帰省して家族の顔を見ると、とても安心できた。 (やまびこ保育園 新野奈緒美 保母)
- 家は幸い被害をまぬがれた。お風呂に入れず、1日水くみにおわれる話を聞き、あたり前に使っていた水やガスの大切さを感じた。 (やまびこ保育園 高内 早苗 保母)
- 保育再開の中でたくさんの方々からの救援そして子どもたちの笑顔に支えられ、つらいことも乗り越え、ここまでやってこれたと思います。 (やまびこ保育園 竹中 明子 保母)
- 突然の激震で、何が何だかわからず、うろうろするばかりでした。生活が普通になってきたが、今回のことは、絶対忘れてはならない。 (やまびこ保育園 木村亜希子 保母)
- 未曾有の大震災で、避難し、多くの人々の手助け、優しさを感じ、決して忘れず、今後も人との関係を、大切にしていきたいと思う。 (やまびこ保育園 江見二三枝 保母)
- 元気な顔が増える喜びと共に、いつ起こるか分からない揺れに怯える日々でした。そんな中子どもたちの明るい声、笑顔が支えてくれました。 (やまびこ保育園 別名 文恵 保母)
- 5時46分、10分前に目をさまし出勤の準備をしていました。地震が後、15分遅かったら私はどうなっていたかと思うと恐ろしいです。 (やまびこ保育園 横山 陽子 保母)
- 震災直後、水道がとまり、6カ月の子どもがいたので、水の確保に手まどった。普段からの準備が大切だと反省した。 (やまびこ保育園 中谷真由美 保母)
- 地震後、こどもの名前を呼ぶと、元気な返事に、ほっと一安心。無事を確認し、あらためて、家族の絆の大切さを、感じた。 (やまびこ保育園 鍵谷 和美 保母)

- 「ガタガタガタ」と、いきなり、部屋中が、ゆれだした。母は私の上に乗リタンスから、私の身を守ってくれた母の力は、偉大だ。(やまびこ保育園 田丸 悦子 保母)
- その時私は、体を突き動かすような振動で目覚め、何が何だか分からなかったが、妹と声をかけ合い、布団に深くもぐりこんでいた。(やまびこ保育園 小曳 資子 保母)
- 子どもの無事、職員の無事を祈り「元気です安心して下さい」の声にがんばれよと一言自分に云い聞かせるように伝える。(歌敷山保育園 田丸 泰邦 園長)
- 今までに神戸には、地震は起きないものだと思っていた。地震後、命あることに感謝し今を後悔しないように、生きていかなければと思った。(歌敷山保育園 吹田美佐子 保母)
- 恐しさの余り布団をかぶりうずくまったままの私でした。平素から持出袋ラジオライトの準備や家具の安全な配置も心掛けるようにしたいです。(歌敷山保育園 橋本万亀子 調理員)
- 「まさか神戸で地震が起きるなんて」と驚きましたがそれが現実でした。火事で私の家の方にも火の子がとんできて？それが雑誌の端だったのでぞっとしました。(歌敷山保育園 谷口 美佐 保母)
- 家、高速道路などをあんなにも簡単に壊してしまうなんて信じられませんでした。また大きな地震がきたらと思うと怖くてたまりません。(歌敷山保育園 伊藤栄味子 保母)
- 人の人生が一瞬で変わってしまうという恐ろしい現実と、人間にとって水はなくてはならない。水を大切に大事にしようと思う。(歌敷山保育園 柴田 美幸 保母)
- 大なり小なりいろいろ問題をかかえていますが、亡くなった方のことを思えば、微力ですが今後私でも役に立つボランティア参加を思っています。(歌敷山保育園 岡田 養子 保母)
- 地震にあって家族の大切さをより知りました。ひとりひとりが自分のできることを行い、自然に役割分担ができました。いい経験でした。(歌敷山保育園 田丸 敬子 保母)
- 関西は地震がないと安心していて地震が起きた時、ラジオの電池がなく情報が入ってこなかった。普段からの備えが大切だと痛感した。(歌敷山保育園 所 恭子 保母)
- このまま、以前の生活には戻れない。でもこのままではいけない、と思っていたある日、母が作ってくれた大根の煮物。忘れられない母の味となりました。(歌敷山保育園 正井三友紀 保母)
- あっ家がこわれる!!と思った瞬間子どもの名前を悲鳴に近い状態で叫んでいた。あれから半年、世間でも自分の中でも地震が風化しつつある。(神視保育園 益留 和子 調理員)

- 午前10:30、私は園に向う車の中にいた。長田に近づくとつれ、私の不安はつのる一方!! 到着し無残な園の姿を見た時、言葉を失った。
(神視保育園 牧野 紀子 保母)
- 地震当日、明るくなって父が車で出かけ帰ってくると、「お前の保育園ベッチャンコやぞ」と報告してくれた。ガーン、なんてことだ…
(神視保育園 河原ともえ 保母)
- 地震直後暗闇の中、家具食器の倒れる音の中で、子どもを励げまし部屋から逃げ、地面に足が付いた時、助かったと、体が震えました。
(北須磨保育園 市川 節子 調理員)
- 早朝ドンと言う音で目が覚めた時激しいゆれが起きた。言葉では言い尽せない異常音が響き、ただ恐ろしく布団の中にもぐり震えていた。
(北須磨保育園 福本 正枝 調理員)
- 情報が入るたびに増えていく死者の数。生きていることが幸福に思えた日々はありません。与えられた命のある限り生きぬきたい。
(北須磨保育園 岡本 繁美 園長)
- その時私はスキー旅行帰りで新大阪でした。地震自体は大丈夫でしたが、東灘に帰る途中火の海の街、壊れた家、われた道は地獄絵でした。
(北須磨保育園 土居 典子 保母)
- 保育再開によって、毎日子どもに会える喜びを確認し、またしばらくの間今までとは違う緊張を感じて保育することになりました。
(北須磨保育園 亀村 恵子 保母)
- 強い揺れを感じた瞬間無意識のうちに布団にもぐり込んでいたが、まるで洗濯機の中に入れているような、そんな感じだった。
(同朋保育園 和田 順子 保母)
- 震災により、水や電気やガスの大切さ、人間の優しさを知りました。今後は、震災後の子どもの心のケアをしたいと思います。
(同朋保育園 黒岩 加恵 保母)
- 「まさか」という気持ちで布団から飛び起き、ただ物が倒れ落ちるのを見ているだけだった。その後の物凄い事態を知るよしもなく。
(同朋保育園 前淵 明子 保母)
- いつにもなくなぜか起きており、テレビを見ていました。急にゆれ出し身動きがとれずベッドにしがみついていた。
(同朋保育園 尾崎 恵理 保母)
- 地震が起った時私は布団の中に潜りました。ふと見てみると落ちてきたワープロが頭の横にあり命中してたらと思うと怖くなりました。
(同朋保育園 赤江 福美 保母)
- 言われるがままに、割れた食器に布団を掛け、その上を不安と恐怖感の中、走り避難したその時私は、何も知らない『20歳の子供』であった。
(同朋保育園 狭間 理穂 保母)

- 助かった命に喜んでいいのか住まいが全壊し、淋しかったが、人の思いやり優しさを教えられた。頑張って前進したいと思う。
(同朋保育園 山川喜美子 調理員)
- まさか！地震、地震すぐ保育園に行く。帰宅して、我が家の乱れに驚く。園児の無事を祈る。「備えあれば愁いなし」を心に刻む。
(舞子保育園 林 ツルミ 主任保母)
- 友だちと連絡がとれず、名前がないことを願いながらも見た新聞。そこには、友人の父親の名前。悲しいよりも悔しくて涙が出た。
(舞子保育園 入水 玲子 保母)
- H6年12月に入院し、足の手術を受け丁度松葉杖に変わった所。窓からは、西の空がサーモンピンクで燃えようと、建て物はガシャンと。
(同朋保育園 松田 多代 主任保母)
- 全国の皆様方の御厚情とボランティアの方々のお援助により、一日も早く保育所再開にむけて職員一同心を一つにして、がんばっています。
(新生寮保育所 山本 武志 所長)
- 震災の時、私は無意識に自分の子を庇っていました。なるべく私自身が落ち着くようにと思いながら安全なところに避難しました。
(新生寮保育所 永松 正子 調理員)
- その時私は、身体が動かさない暗い怖い、隣室で大声がする。タンスが…いけない孫が…頭が混乱していて何もできなかった。
(新生寮保育所 平瀬 裕子 保母)
- この世の終わりかと思った。亡くなった人。血だらけの人。ペチャンコの家。せまりくる炎。なのに人は皆やさしかった。心ってあるんだ。人間ていいな。と思った。
(新生寮保育所 山中 悦子 保母)
- あの地震がいった時私は保育園へ向う途中でした。あと4分遅くに地震がいたら私は電車の中でした。考えるとふるえてきます。
(光の子保育園 菱池 陽子 保母)
- 地震発生時眠っていた私。保育園に行かなければ、と楽譜の用意までしていました。その後のTVの映像に恐怖が募るばかりでした。
(光の子保育園 石川 智美 保母)
- 私は、早番で身じたくをしていました。目の前でタンスがゆれ、物が落ちてきました。外へ出ると街灯もきれてしまい真っ暗でした。
(光の子保育園 中野 都 保母)
- 地下鉄新神戸にいた。ドーン！縦横交互の揺れ。停電。谷上から電車がきた。地上に急行す。交通は寸断身動きがとれない。園長に連絡密に。
(あじさい保育園 小山 恵子 保母)
- 避難所で迎える夜、続く余震に体育館が大きく揺れる。その度に寒さと恐怖で浅い眠りの我が子が何度も必死でしがみついてくる。
(あじさい保育園 栗下 道代 調理員)



● 全壊園
 ▲ 半壊園
 ■ 一部損壊園
 復旧費1,000万円以上
 ○ 一部損壊園
 復旧費600万円以上

中央区・兵庫区・長田区は上段の別図です。

神戸の私立保育園マップ

④ (神戸市私立保育園連盟加盟園がのっています)

阪神大震災に伴う

会員保育園の被災状況について

(1月26日午後12時30分現在)

保育園名	定員	施設	職員関係・その他
光の子	120	建物少しいたんだ	近隣住民の避難所(約40人)
同朋	60	ひび有り	職員の父1人死亡、家屋全壊(4人) 近隣住民の避難所(約50人)となり、保育不可
ゆりか	60	建物少しいたんだ 亀裂1カ所	近隣住民の避難所(約20人) 園児死亡(1歳児)、園児2人連絡不可
青谷	90	ひび割れ3カ所	職員の母1人死亡、職員家屋倒壊2人園で避難生活 医師、看護婦の父母から開園の問合せ多し
友愛	120	園舎、柱亀裂 道路ひび割れ	園児で家をなくし避難中(10人連絡不可) 水道使用可
めぐみ	120	建物は大丈夫	園児で連絡のついた限りケガなし、若干連絡が取れていない 近隣住民の避難所となっている 園の周辺家屋の全半倒壊等で通園不可
協和	30	建物ひび割れ多し	園児は連絡ついていない
みのり	60	建物全壊	園児で連絡のつかない子が多いが、聞いた限りではケガもない
聖ミカエル	90	建物ひび割れ多し 水道管破裂使用不能、電気使用可	修理業者の手配ができない 保育しばらく不能 職員5人家屋全半倒壊
大慈	120	建物ひび割れ 園舎前地割れ	園児の安全確認(2人未連絡) 職員の安全確認
ポートピア	210	建物は大丈夫	園児の安全確認(50%)範囲内では全員無事 水ダメ、保育は不可 職員の長男死亡
ゆりかご	90	建物少しいたんだ程度 (光熱水ダメ)	園児の安全確認 職員の安全確認

+++++

• 立ってられない程の揺れで家具が倒れ、陶器が割れる音。家族と布団の中でじっとしているのが精一杯。自然の恐しさを痛感した。
(明照保育園 鶴崎 宏 保父)

• 20秒間、その激震の中で、全てが終わった!と思った。3日め、職員達と焼土と化した街を1日中歩いた。黙視、涙、命ある幸福。
(弁天保育園 逸見嘉代子 園長)

• 5時30分いつものように目覚め、ストーブをつけていれば大変だったなー。まわりの人にどんなに迷惑をかけていたことだろう。
(弁天保育園 腰越ミナ子 調理員)

宝地院	120	建物少しいたんだ程度（光熱水ダメ） 本堂が痛んでいる	園児の安全確認（3人未連絡） 職員の安全確認
湊川	60	建物崩壊 市から「使用禁止」 シールが張られる	園児1人死亡
ルンビニー	120	園舎は無事 園長の自宅倒壊 （園舎と続き棟）	園長の娘さんと子ども圧死（東京から帰家中） 保育しばらく不可 周辺の民家の被害多大
ちびくろ	45	園舎は無事 園長の自宅倒壊	近隣住民の避難所となっている 水は出ないが保育中
新生寮	60	園舎の瓦落ちる ガス、水道ダメ	内部使用できない（保育不可）
美德	45	園舎半壊	保育不可 周辺の民家の被害多大
げだつ	90	建物内部クラック ガス、水道ダメ	職員の祖父母死亡
神戸	90	園舎の内部使用不可、 壁ひび割れ	保育中 園児の家族5人死亡（園児2人含む）
ひばり	60	建物半壊、隣家の建物 よりかかり	園長の自宅全壊、周辺の民家の被害多大 保育不可、園児安全確認
丸山	90	建物亀裂多し 園庭、崖崩れの可能性大	周辺の民家の被害多大 保育不可
西神戸 YMCA	60	園舎フロント部崩壊	当分保育不可 周辺の民家の被害多大、 救援活動に入っている
神視	120	園舎倒壊	園児2人（5、6歳児）死亡、 職員の安全確認 保育不可、神視保育園と天隣乳児は 上下階の保育園（両園とも立入禁止） 保育不可、職員の安全確認
天隣乳児	60	園舎倒壊	

+++++

●震災がおきた時、私はまだ学生で、とにかく動揺するなかで、卒業にむけ試験をうけること、就職活動に必死でした。他、何もできずでした。
（弁天保育園 杉尾しのぶ 保母）

●「ドーン」…何事??一呼吸してから家中ねじれる感じがした。ただ頭の中は真白でこのまゝ家と共に倒れると思ったただけでした。
（弁天保育園 喜多 洋子 調理員）

●とりあえず、カバンを持って外へ出ました。車の中でラジオをきいて、びっくり！一体どうなったのだろうと不安で一杯だった。
（弁天保育園 友楽 一美 保母）

け や き	60	園舎被害なし (光熱水ダメ)	職員の安全確認 (通勤が困難)
みすまる	120	園舎被害少ない 裏の塀10m崩れる	園児の安全確認 周辺の民家の被害多大、近隣住民の避難所
東 須 磨	60	園舎一部損壊 (光熱水ダメ)	1/23 から保育をしている
北 須 磨	60	園舎壁等ひび割れ (別棟1棟地割れ調 査必要)	1/23 から保育をしている (公立保育園から数人受入れ) 職 員の家被害あり (職員3人避難中) ガス管修理
あじさい	90	園舎壁等ひび割れ ガス、水道ダメ	1/23 から保育をしている 園児の安全確認済、職員の安全確認済
のぞみ	150	ひび割れ1カ所 ガラス2枚割れ	1/23 から保育をしている。他園から保育問合せ 職員の家被害あり
やまびこ	150	外壁ひび割れ 水道ダメ	保育をしている (1/23 から緊急児のみ) 職員1人死亡。園児の安全確認済 (避難家族あり)
くすの木	180	被害なし	1/23 から保育をしている 職員の確保が困難
舞 子	90	被害なし 水道ダメ	保育をしている 職員の確保が困難
滝の茶屋	90	被害なし ガス出ない	保育をしている (1/23 から緊急児のみ) 職員の安全確認済 (職員1人家屋倒壊・焼失)
歌 敷 山	60	地盤沈下 (5~ 10cm) ひび割れ 門柱倒れかけ ガス、水道ダメ	1/24 から保育をしている (6人)
東 垂 水	60	被害なし ガス出ない	1/23 から緊急児のみ保育中 職員1人家屋倒壊・焼失
塩 屋	60	被害なし ガス、水道ダメ	1/23 から緊急児のみ保育 園児の安全確認済 職員の安全確認 (避難職員あり)
城 が 山	60	被害なし ガス、水道ダメ	1/23 から緊急児のみ保育 園児の安全確認済 職員の安全確認 (避難職員あり)

+++++

• 2階がそのまま落ちて1階がペッチャンコに壊れている。その中に義母がいる。義父がいる。どうすることもできず、ただ祈るのみ。 (くすの木保育園 藤沢 初美 主任保母)

• その時、私は、家族が無事だった安心感、親せきや友人、子どもたちの安否を願いながら、余震への不安を抱いて何日もすごしていた。 (くすの木保育園 久次米美香 保母)

• 地震の直後から開かなくなったドアをやっとの思いで開け外に出ると、道には人があふれていた。戦争中の風景を思い起こした。 (くすの木保育園 三宅 千夏 保母)

学が丘	150	増築部分に地盤沈下あり、ガスダメ	1/23から緊急児のみ保育 園児の安全確認済 職員の安全確認済（避難職員あり）
八多	90	被害なし	1/17から緊急児のみ保育（1/24から通常保育） 園児の安全確認済 職員の安全確認済
道場	90	建物一部ひび割れ 問題なし	1/17から緊急児のみ保育（1/23から通常保育） 職員の安全確認済
有馬	90	石垣崩れ給食室に入る。余震による崩れ不安、園庭のすみの石垣崩れる	保育不可 園児の父親1人死亡 職員安全確認済
大池	60	園舎被害なし 門扉、壁、花壇等崩壊	園舎周辺の道路地割れ、今後の注意が必要 6家族が近隣の中学校に避難 住居を焼失した職員あり、保育園に避難全員無事 保育開始未定
鈴蘭台	60	建物ひび割れ 専門家の診断がある (光熱水ダメ)	大工が入り修繕中、1/30から保育可能
明照	120	建物被害なし 1/25周辺ガスもれによるガスストップ (修理2月中)	1/17から緊急児のみ保育 園児の安全確認済 職員の安全確認済
太陽の子	120	被害なし	緊急児のみ保育 職員の安全確認済 父母と協力してボランティアを行っている
頌栄	90	園舎一部被害 使用不可能（2部屋使用不能）	1/23から緊急児のみ保育 園児の弟、祖父母宅で死亡 職員の安全確認済
日輪寺	150	園舎亀裂あり 本堂の瓦が落ちる 水道ダメ	園児の安全確認済 職員の安全確認済 1/17から看護婦等の緊急児のみ保育中
岩岡	60	園舎一部亀裂あり 井戸水を使用	1/19から保育中 園児の安全確認済 職員の安全確認済（職員1人家屋崩壊避難中）

+++++

- あの時、あの朝の揺れは口ではいいあわせないほどのすごいもので、ただ揺れがとまるのを待つしかない恐しい朝でした。
(くすの木保育園 余田智恵子 保母)
- これほどの事態になるとは想像もつかなかった大震災。新採用でまだ勤務していなかった私は避難所でボランティア活動漬けでした。
(くすの木保育園 町本 祥子 保母)
- 園舎は被害もなく感謝しています。職員でテント村や避難所に行き炊き出しをさせていただき、職員の和が、確かなものになりました。
(くすの木保育園 川添 良子 園長)

弁 天	60	園舎一部亀裂あり 水道ダメ	一部保育中 園児の安全確認済 職員の安全確認済
神 出	90	園舎亀裂あり	職員1人避難中 園児の安全確認済 通常保育
雄 岡 山	90	園舎亀裂あり 一部基礎部分破壊	園児の安全確認済 職員の安全確認済 1/23から緊急児のみ保育
平 野	120	園舎一部ひび割れ 水道ダメ	園児の安全確認済 職員の安全確認済 緊急児のみ保育
出 合	120	園舎一部ひび割れ 水道ダメ	緊急児のみ保育 園児の安全確認済 職員の安全確認済 (職員1人避難所から通勤)
つ ぐ み	60	門柱タイル剥がれ点 検必要	園児の安全確認済 緊急児のみ保育 職員の安全確認済 (職員1人避難通勤難)
あ さ ひ	120	園舎被害なし	園児の安全確認済 職員2人家屋全半壊 通常保育、延長保育中
あ ゆ み	120	建物一部損壊 園庭、道路亀裂	園児の安全確認済 職員の安全確認済 1/23から緊急児のみ保育 給食1/25開始
持 子	60	建物亀裂、玄関地割 れ天井一部損壊	園長宅半壊 1/23から緊急児のみ保育 園児の安全確認済 職員の安全確認済
あ い	120	地盤沈下、園舎亀裂 あり (今のところ使用に たえる) 園庭の 水道利用	1/17から緊急児のみ保育 (15~20人) 職員の安全確認済 (避難中の職員あり) 園児1人タンスの下敷きになりあごにケガ
Y M C A	120	園舎被害なし	園児の安全確認済 職員の安全確認済 (家屋倒壊で避難中の職員あり) 1/19から緊急児のみ保育 1/23から通常保育
竹 の 台	120	園舎一部ひび割れ	園児の被害の連絡なし 職員の安全確認済 (家屋倒壊で避難中の職員あり) 1/17から緊急児のみ保育 1/24から7時~19時の保育を予定
美 賀 多	90	園舎被害なし	園児の被害の連絡なし 職員の安全確認済 (家屋倒壊で避難中の職員あり) 1/17から緊急児のみ保育

+++++

•大きな音、つき上げる様なゆれ、電球が振り子の様に揺れ、停電。何かが壊れる音、何が何だかわからず恐くて布団の中で収まるのを待っていた。(まゆか保育園 樋口 治美 調理員)

•1月17日5時46分、私は洋服ダンスが足の上に倒れてきて夢中で足を抜き、布団をかぶって震えて夜が明けるのを待っていました。(まゆか保育園 高崎 典子 調理員)

•ドーンと同時に目が覚めました。何かかと思いましたが、地震だと気付くとまず、恐ろしくなり、身動きも出来ず、声も失いました。(みすまる保育園 辻 公恵 雇用員)

まゆか	60	園舎数カ所ひび割れ、園舎亀裂、液状化現象あり ガス、水道ダメ	園児の安全確認済 職員の安全確認済（家屋倒壊で避難中の職員あり）
-----	----	-----------------------------------	-------------------------------------

(注) 各ブロック役員及び園長からの報告をまとめている。

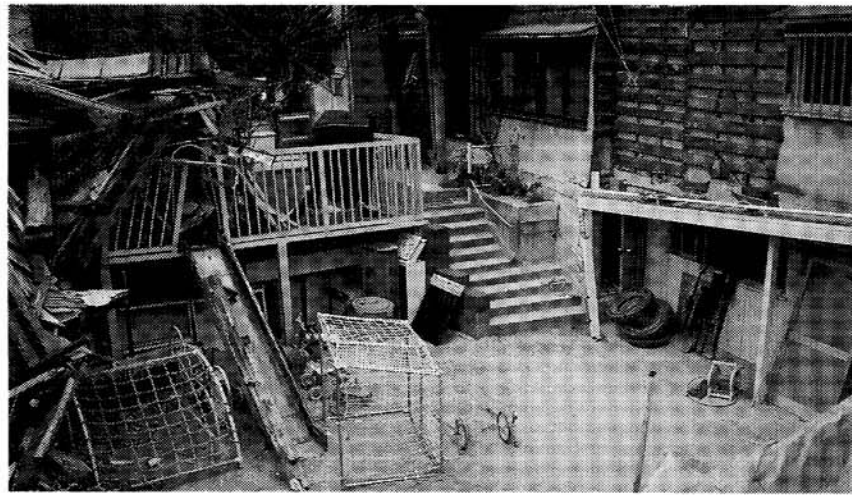
☆1月23日、藤本、横山の2人で地下鉄板宿駅～神戸市私保連事務局まで徒歩で行く。

途中、神戸、西神戸YMCA、神視、天隣乳児、ルンビニー愛児園に立ち寄るが、保育園の損壊はもちろん、周辺の民家の被害には声も出ない。

全国の仲間から、救援の申し出、お見舞の電話などがあるが、何分にも市全体が破壊的であり、対応ができない状態である。一日も早く保育ができるよう全員でガンバっている。

救援の申し出については、申し訳ないが、今しばらく落ち着いてから何が必要かを報告したい。

こうして、報告書を作成中に余震がある。どうか、全国の仲間の皆様、よろしくお願いします。



+++++

- ゴーッという音と共に揺れを感じ、気付いたら和ダンスが倒れてき死ぬと思いました。人の死は案外あつけないのだなあと思いました。
(みすまる保育園 濱田 貴子 保母)
- その瞬間、あわてて実家へ戻り、皆の名前を叫んだ私。倒れかけたドアのすき間から祖父ののぞく姿を見た時には、力がぬけた。
(みすまる保育園 西田由加里 保母)
- その時、私は、布団の中にいた。初めのゆれで、地震!! その後すぐ、部屋のものが次々に倒れ、落ちてきた。私はその中に埋れた。
(天隣乳児保育園 高木 真理 栄養士)

1 園舎について

神戸市内には私立保育園が70カ園あり、全壊した数は5カ園、半壊した数は3カ園、また一部損壊した園は60カ園で損傷無は2カ園であった。

中でも被害の大きかったのは市街地で、中央・兵庫・長田の3区であった。一瞬にして崩壊してしまった園舎、また他の建物が倒れおしつぶされた園舎、外観は大丈夫であってもロッカー、ピアノ、本棚など立っているもの全てが倒れ散乱している保育室。

また埋め立て地に建てた保育園では地盤沈下がおき、運動場と園舎に10cmもの段差ができたなど、地域や活断層があるなしでは被害の大きさは違っているものの、神戸市内にある園では少なからずとも被害を受けたことは事実である。

地震があったのは1月17日、しかしその後もまだまだ続く余震、そのためか園舎の壁に増えている無数のクラック、また目に見えない所で水道のパイプがずれ、水が流れ出ていたことに気づかなかったなど、地震後も日がたつにつれ被害箇所が増えていった。

阪神・淡路大震災による被害状況総括表

神戸市私立保育園連盟

		園舎等の被害状況					保育の実施状況				人的被害
		全壊・解体	半壊	一部損壊	柱・壁等損壊	損傷無	保育中	保育可	保育不可		死亡
									建物関係	避難所	
運営主体	社福	3	2	14	23	11	42		6		職員 1人 児童 7人 家族 27人
	宗教	1			6	1	7	1	1		
	財団	1	1	2			1		1		
	個人			2	2	1	3		1		
計	70	5	3	18	31	13	56	1	9	4	35人
公立	88	2	5					2			

(1995.2.3 現在)

+++++

- 「早くふとんに潜り！」子どもたちに叫んだが私は大きな揺れと恐怖とで一歩も歩けなかった。ガスの元栓を閉めることさえできなかった。(明照保育園 林 由利子 調理員)
- 「ゴォー」という音で目が覚めた直後にもものすごい揺れを感じました。妻よりも子どもを必死で守り、後でプーブー文句を言われました。(明照保育園 川村 宙 保父)
- 起きたばかりで大きく揺れたななんて思っただけで、それがあんなに大きな被害をもたらしていたなんて考えもつきませんでした。(明照保育園 山脇 由佳 保母)

〔全壊園〕

1. 湊川（兵庫区） 2. 新生寮（長田区） 3. 神視（長田区） 4. 天隣乳児（長田区） 5. ひばり（長田区）

〔半壊園〕

1. みのり（中央区） 2. 美徳（長田区） 3. 西神戸YMCA（長田区）

〔一部損壊園〕

- ・光の子・青谷・同朋・ゆりか・誠仏・大石・光（東灘区・灘区7園）
- ・友愛・協和・めぐみ・聖ミカエル・大慈・ポートピア（中央区6園）
- ・ゆりかご・宝地院・ルンビニー・ちびくろ・神徳館（兵庫区5園）
- ・八多・道場・有馬・大池・鈴蘭台・明照・太陽の子・頌栄（北区8園）
- ・神戸・丸山・げだつ・けやき・みすまる（長田区5園）
- ・北須磨・あじさい・のぞみ・やまびこ・くすの木・東須磨・若木・若竹
（須磨区8園）
- ・舞子・滝の茶屋・歌敷山・東垂水・塩屋・城が山・学が丘（垂水区7園）
- ・日輪寺・岩岡・弁天・神出・雄岡山・平野・出合・つぐみ・あさひ・持子・あい
・あゆみ・YMCA・竹の台・美賀多・まゆか（西区16園）

（注）建物の被害状況、人的被害などは速報分であり、その後、詳細な調査によって被害状況が変わる。



+++++

● 突然の出来事で悲鳴と共に布団にくるまった。家族や親戚、職場の人々の無事を祈った。地震を身に受け、天災の恐しさを知らされた。
（明照保育園 中西 洋子 保母）

● 一体何が起きたのか分からず、ただふとんにもぐり震えていたが、目をあけて歩いてみると一瞬の悲惨な様子にびっくりした。
（明照保育園 白井 恭子 保母）

● 突然大きな揺れに襲われた時、ああこの世の終わりかと思いました。普段から何の備えもしていなかったことを反省し、命あることに感謝します。
（明照保育園 小原貴代江 保母）

2 子どもと職員

大震災の爪跡はあまりにも大きく、その被害は園児や職員にも及び、地震の激しかった東灘、灘、中央、兵庫、長田区等の園児7人と職員1人がその被害者となった。

それは家屋や家具の下敷きになっての圧死や、下敷きになったところに火災に巻き込まれた焼死であり、と聞く者の胸に突きささるような報告を受け、関係者一同絶句したのである。

未来を約束された幼い命が奪われ、保育を再開した時、ポツカリ空いた席を見て担任はどんな思いにかられただろうか。

また、同僚を失った職員の心痛は言葉にたとえようもない。

彼や彼女たちの死を無駄にしてはならないと心に固く誓うものである。

振り返れば大地震を体験したことがなかった神戸の保育園では、平常の避難訓練の想定は、「火災」が主で、年に1~2回申し訳程度に「地震」を想定し「机の下に隠れる」訓練だけであった。そのような状況のもとでもし保育中に、震度7の地震が起きていたらその被害はまことに悲惨なものとなっていたであろうことは考えるまでもない。

関係者は今後の対策、対応に被害者の面影をだぶらせながら真剣に取り組んでいかねばならないと肝に命じている。

亡くなった園児、職員の冥福をお祈りする。



++++
●あの地震の時、私の頭に真っ先に浮かんだのは「家がつぶれる！もうだめだ！」ということでした。もう二度と経験したくありません。
(みすまる保育園 前 真佐美 保母)

●流行していたインフルエンザの40度の熱で、なにがなんだかわからず、子どもみたいに大きな大きな声で『おかーさん』とさげんだ。
(美徳保育園 山田 理香 保母)

●長い揺れに耐えた後家具の下敷に。「苦しい！助けて」と私の下で叫ぶ息子の声。私が揺れてころがってきたと思っていたらしい。
(美徳保育園 小屋敷真由美 主任保母)

• その時私は布団に潜り込むことしかできなかったが、その瞬間にも命を落した方が何人もおられ安穩とした生活の中で初めて生命の危機を思い知らされた。

(あじさい保育園 石井あゆみ 主任保母)

• 炎に包まれた家、必死に救助している人々を目の当たりにしました。その時人間はひとりで生きられないということを実感しました。

(あじさい保育園 小田 和泉 保母)

• 出勤途中の地下道で「ドーン」という音。脱線事故? 「伏せろ!」気がつく私の下に老女、上には男性…園に向かってフラフラと歩く私。

(光の子保育園 菱池 陽子 保母)

• 地震直後、一体何が起きているのだろうと考える余地もなく、恐怖のあまり、人間の本能で四つ這になって、逃げようとしてしました。

(あじさい保育園 曾我部しのぶ 保母)

• 大地震を体験し恐怖でたまらなかった。電話不通で保育園へ直行、保育園に着き玄関を見るなりキレッツが入って驚き園長先生にすぐ報告。

(あじさい保育園 井上マスエ 調理員)

• その瞬間家が菱形に歪んでみえ、真暗な中で稲光が走り、気がついた時私の横すれすれにテレビが落ちていた。命びろいをしました。

(あじさい保育園 小松 隆子 調理員)

• 暗闇の中で何が起きているのか自分はどうなるのかもわからず、どこからともなく飛んでくる物の中でひたすらおさまるのを待った。

(光の子保育園 内山 奈美 保母)

• 家で起きかけた私は何が起ったのかも理解しないまま外へ出ました。周りは火の海で今までの炎と違う街並をぼう然とみていました。

(光の子保育園 小南 奈々 保母)

• 未聞のショックの一瞬階下の母の安否を気遣い暗黒の中大声を出す。困難を思い身軽な服を2着宛着用し園へ直行。時に午前6時ガスもれ多し。

(あじさい保育園 石井 郁代 園長)

• 激しい揺れの中で、何をすることも考えることもできずに、その「時」が過ぎ去るのを待つしかなかった。恐ろしく不安な長い時間だった。

(本願寺派湊川保育園 正徳 桂子 雇用員)

• 私はその時は、何が起ったのか理解できませんでした。命の大切さ、水、ガスの大切さを改めて感じました。このことは一生忘れません。

(本願寺派湊川保育園 森本こずえ 保母)

• いつになく早く起きた朝。ドドドという地鳴りが近づき、次の瞬間一人住まいの狭い部屋で初めて本当の孤独と死への恐怖を知った。

(光の子保育園 田口 雅代 保母)

• 地震の後辺りが明るくなった頃、園がどうなっているか気になり駆け付けた。門の所がデコボコしていたがその他は大丈夫で安心した。

(光の子保育園 掘井 君枝 保母)

● 「ドスン、ガタガタ」とともになにがおこったのかわからず、夜明けとともに家の中のすごさと周りの光景にあせんとするばかりでした。 (本願寺派湊川保育園 大森 静代 調理員)

● 充分過ぎる程分かっていたことなのに、あの瞬間私は孫のことも忘れ、布団をかぶっていました。揺れの中姪を気づかってくれた息子にただ感謝！ (本願寺派湊川保育園 原野 律子 調理員)

● 地震の時やはりすぐに顔が浮かんだのは子どもたちの顔。2日目にやっと確認に行けて顔を見ると安心しました。本当に子どもたち、よかった。 (友愛幼児園 和田万智子 保母)

● 家は屋根がずれる程度。17日は早出。保育園の鍵を開けた。書類のロッカー、机の引き出しが開け放し。無気味な1日が始まった。 (岩岡保育園 山崎 由貴 保母)

● ガタガタ家が揺れる、棚の物が落ちる、一瞬何が起きたか理解できない、大声で家族の名を呼び起す、ほんの何十秒が何と長く感じられたことか。 (岩岡保育園 坂本三重子 保母)

● ベッドからとびだして気がつくとも三面鏡を押さえて震えていた。暗闇の中でガラスの壊れるカラカラという音が今も耳についている。 (岩岡保育園 永野美智子 主任保母)

● 子どもたちの安否確認へと急いだ。子ども達やお家の方々の顔を見つけた。今まで生きてきた中で一番の心からの“よかった”だった。 (友愛幼児園 三好美佐子 保母)

● ガスや水道が止まっている中で保育が始まり大変でしたが子どもたちの明るい顔、沢山の方々から温かい救援をして頂き感謝でございます。 (友愛幼児園 瀬能 愛子 保母)

● 福井地震の時電車の駅で、大野地震の時実家で、今度の地震で3回目。いつ、どこで起きるかわからない。非常持ち出し袋も何も役にたたなかった。 (舞子保育園 松田 好子 調理員)

● 地震の日、今日はよく揺れる風だなと思いながらのんきに寝てた私。外へ出ると地震で止まった信号などを見て地震は怖いと思った。 (舞子保育園 小篠美由紀 保母)

● 早や6カ月、あの日を忘却しようとする私。あの朝ただひたすら歩く。生々しく亀裂した道を！不気味に崩れいく建物の横を友愛に！今思う。保育中に起っていたら…。 (友愛幼児園 近藤美智子 主任保母)

● 今思うと、あの大地震が、夢であってほしかったです。でも地震の時、我が子をしっかりと抱きしめていたぬくもりは、忘れられません。 (舞子保育園 福井美佐保 保母)

● こんなに激しい揺れと恐怖を感じたのは生まれて初めてだった。弱い私は、ただ布団の中で声も出せずに震えているだけだった。 (舞子保育園 高嶋 淳子 保母)

- 震災当日、私は早出出勤のため、台所で用意していると、突然すべての荷物が落ちたり等しましたが、家族もケガせずに、無事でした。
(舞子保育園 田代 忍 保母)
- その時大学病院に入院しており一瞬何事が起ったのかわかりませんでした。大変な時に休職していてもみなさんに申し訳ないと思いました。
(頌栄保育園 池澤美奈子 調理員)
- 寝ぼけまなこで電車に乗っていた私は、その大きなゆれで、スキー荷物と一体化し、上下左右に、はじきとばされた。電車脱線だ。
(学が丘保育園 西田あゆみ 保母)
- 揺れが止まり、玄関を開けた時、山の方に火が何か所か見えたがまだ、事の重大さが理解できず、落ち着くことに必死でした。
(学が丘保育園 緒方 由起 保母)
- 地震が起こった時、私は今何が起っているのかわからずただ布団にくるまっていました。そして急いで下に寝ている犬を見に行った。
(学が丘保育園 土井 幸 保母)
- 部屋に閉じこめられた時は、もうダメだと思い、何とか家族の顔を見た時は安心した。サイレンの様な異様な音をただきいているだけ。
(学が丘保育園 三浦 真紀 保母)
- 大きな揺れと共に目を覚まし、「何これ！」と布団に潜り込んだ。「怖い！誰か助けて！皆大丈夫やろか？」と種々なことが頭に向け巡った。
(学が丘保育園 大西 敬子 保母)
- ガタガタと揺れを感じ「速く降りてきて。」という声を聞き、暗闇の中コンセントを全部抜いて家の外へ出た。意外にも冷静だった。
(学が丘保育園 佐藤 美紀 栄養士)
- 大きな横揺れとともに目を覚ました私は、地震に気づきました。食器が割れて散乱していたりするのを見て怖さでいっぱいでした。
(学が丘保育園 奥村 広美 栄養士)
- 早出出勤のため、私は起床していました。ドン、グラグラ！動揺する私に父は平常心を保ち声をかけ家族を集めました。父の偉大さに感動。
(学が丘保育園 中崎 友紀 保母)
- ドン、第一の衝撃。地震を察知、傍のコタツに潜む。本棚、鏡台の倒れる音、蛍光灯の割れる音、揺れが終わり外へ出ると部屋は散々。
(学が丘保育園 成末 晴美 保母)
- けたたましいごう音と激震で私は目覚めた二段ベッド上段で寝ていた私はいつやむかわからない震動に身をゆだね転がりつづけていた。
(学が丘保育園 藤本麻貴子 保母)
- 起こるはずのない大地震が神戸を襲い何ごとかと少しとまどいました。TVで神戸のひどい状況を目にした時恐怖感を覚えました。
(日輪寺保育園 藤岡 百合 保母)

太平洋戦争以来50年振りに「疎開」という言葉が私たちの目や耳に飛び込んできた。

今回の震災では、家を失い、親や親戚を失った幼児の多くが親類や知人宅に預けられ、その数は3月7日現在で3,342人に達していた。その中には、保育園が全壊し通園できなくなった子どもたち、保育園が避難所になったため、保育を受けられなくなった子どもたちも含まれている。

疎開先は、市内や県内はもちろんのこと、全国各地に広がり、それぞれの疎開先で保育を受けた。全国の市町村が被災児を無審査で即日入所児として受け入れ、最寄りの保育園に措置入園させたのである。

保護者が負担すべき保育料は減免され、国や神戸市の負担となって園児たちの保育が確保されたのは心から喜ぶべきことであった。

今回の震災で行政側の対応として、いち早く「緊急仮入所」という措置がとられたことは極めて適切だったと思う。

震災による「都道府県別緊急市外措置児童数」は表1のとおりである。また、措置の要件は次のとおりであった。

- 1 現在（震災前まで）保育園に措置されていた児童
- 2 震災のために新たに保育に欠けることとなった児童
 - ① 倒壊および焼失家屋の修復のため
 - ② 保護者の死亡、負傷などのため
 - ③ 親族の被災による傷病の看護のため
 - ④ 生活基盤確立のための就業
 - ⑤ 救援、復旧活動に従事するため（ボランティアを含む）
 - ⑥ 一時的に祖父母宅などに預けられた児童で入所希望のあるとき
 - ⑦ その他、災害にともない保育に欠けると認められるとき

神戸市内で緊急仮入所の状況は3月の調査では1,557人、そのうち震災前から措置児であった児童が1,117人、震災後保育が必要になった児童が440人であった。

+++++

• 「あ地震だ」と無我夢中で布団をかぶったその時、私は何を考えたか今だに解らない。余震のたび命だけは守り抜くかのように反射的に体が動く。
(天隣乳児保育園 山崎 悦子 調理員)

• あの日、早出だったので、そろそろ起きる時間でした。横ゆれの前に目を覚まし、すごくこわい思いをしました。
(天隣乳児保育園 富嶋美和子 保母)

• 目が覚めると、ブランコに乗っているようで恐さが通りこしていた。その後、外に出ようと思って、壁などが落ち、出られなかった。
(天隣乳児保育園 西本 理恵 保母)

(表1) 都道府県別緊急市外措置児童数

	公 立			民 間			合 計 人 数		公 立			民 間			合 計 人 数
	他都市	委託	計	他都市	委託	計			他都市	委託	計	他都市	委託	計	
札幌市	0	0	0	2	0	2	2	山梨県	1	0	1	0	0	0	1
仙台市	1	0	1	0	0	0	1	長野県	6	2	8	0	0	0	8
千葉市	0	0	0	0	0	0	0	岐阜県	1	7	8	2	1	3	11
東京都	19	7	26	0	0	0	26	静岡県	0	3	3	3	0	3	6
川崎市	0	2	2	0	0	0	2	愛知県	3	6	9	3	2	5	14
横浜市	5	0	5	1	0	1	6	三重県	6	8	14	1	1	2	16
名古屋市	3	0	3	4	0	4	7	滋賀県	0	16	16	0	8	8	24
京都市	10	0	10	26	0	26	36	京都府	7	27	34	2	21	23	57
大阪市	4	57	61	6	210	216	277	大阪府	24	163	187	12	54	66	253
広島市	2	0	2	3	0	3	5	兵庫県	54	206	260	10	213	223	483
北九州市	5	0	5	0	0	0	5	奈良県	9	25	34	1	7	8	42
福岡市	0	0	0	5	0	5	5	和歌山県	2	15	17	4	8	12	29
北海道	1	1	2	1	0	1	3	鳥取県	9	25	34	0	1	1	35
青森県	0	0	0	0	0	0	0	島根県	5	7	12	2	12	14	26
岩手県	0	0	0	0	0	0	0	岡山県	12	23	35	2	32	34	69
宮城県	0	0	0	0	0	0	0	広島県	3	18	21	2	6	8	29
秋田県	0	6	6	0	0	0	6	山口県	5	9	14	0	10	10	24
山形県	1	0	1	0	0	0	1	徳島県	1	11	12	1	4	5	17
福島県	0	1	1	0	0	0	1	香川県	0	9	9	0	5	5	14
茨城県	0	2	2	0	0	0	2	愛媛県	7	23	30	1	7	8	38
栃木県	3	0	3	1	0	1	4	高知県	0	9	9	0	13	13	22
群馬県	3	2	5	0	1	1	6	福岡県	2	4	6	2	4	6	12
埼玉県	1	3	4	0	1	1	5	佐賀県	0	4	4	0	5	5	9
千葉県	0	5	5	0	0	0	5	長崎県	0	9	9	1	2	3	12
神奈川県	0	3	3	0	0	0	3	熊本県	0	6	6	0	14	14	20
新潟県	1	2	3	0	1	1	4	大分県	7	0	7	2	2	4	11
富山県	0	1	1	0	5	5	6	宮崎県	5	0	5	11	0	11	16
石川県	9	0	9	8	0	8	17	鹿児島県	3	16	19	1	14	15	34
福井県	0	9	9	0	5	5	14	沖縄県	0	1	1	0	3	3	4
小 計	68	101	169	57	223	280	449	小 計	172	652	824	63	449	512	1,336

総計:1,785

•何も見えない暗闇の中、遠くの空だけが明るさを増し、不気味な静けさが辺りを包み、ただ祈ることしかできない無力さをかみしめていた。(あさひ保育園 池田 清美 保母)

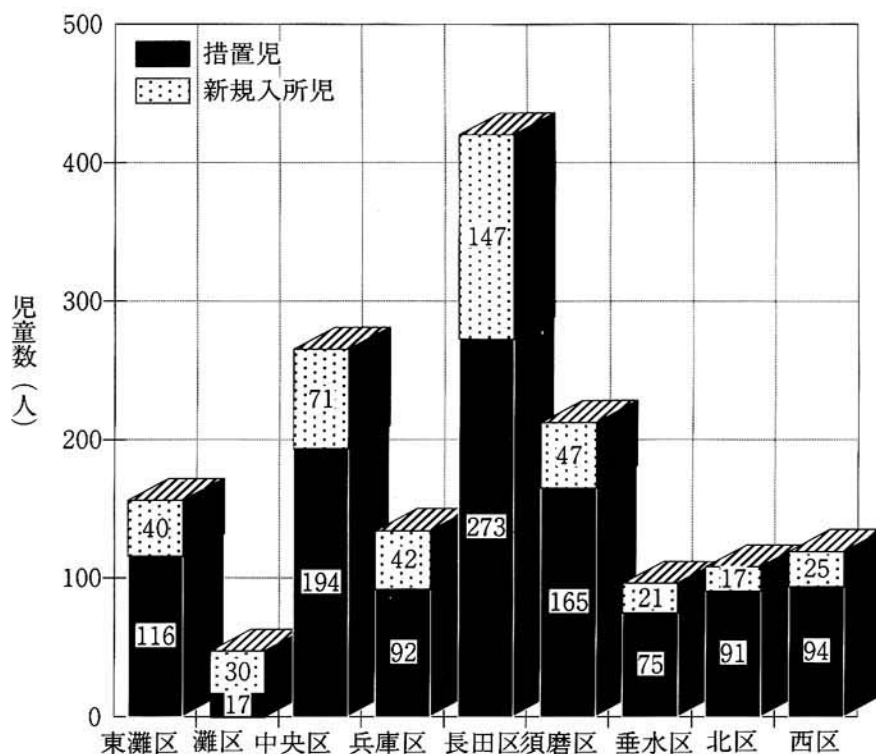
•暗夜に音が響く。音をたて近づいて来る。繰り返しやってきた。私の心を脅やかす。時がたっても耳につく発車音に安堵する。(あさひ保育園 内野たまき 調理員)

•グラグラッと揺れると同時に食器が割れる音。「動いたらダメ。」という声がし、布団でじっとしていました。本当に恐い思いをしました。(あさひ保育園 小川やよい 栄養士)

(表2) 市内緊急仮入所児

平成7年3月

	措置児	新規入所児	計
東灘区	116	40	156
灘区	17	30	47
中央区	194	71	265
兵庫区	92	42	134
長田区	273	147	420
須磨区	165	47	212
垂水区	75	21	96
北区	91	17	108
西区	94	25	119
合計	1,117	440	1,557



+++++

• 電気がピカーッと光って消え、ミシッというすごい音に目を覚ました私はわけが分からず、ただ誰かが家を壊しに来たのかと思った。
(あさひ保育園 小林 有希 保母)

• 出勤するため(そろそろ家を出よう)と思った時揺れました。何も解らず園に着き、電話も通じない、子どもの声も聞こえない状況に驚くばかりでした。
(あさひ保育園 梅原めぐみ 保母)

• 心臓の高鳴りが止まらず口から飛び出しそうでした。TVを見て事の恐しさを知りました。友人からの電話で声を聞き涙がでてきました。
(あさひ保育園 福永 郁子 保母)

〔資料〕

平成7年1月29日付、神戸市民生局からの通知
「兵庫県南部地震に伴う保育所入所措置の取扱い方針」

I 児童の受入れについて（個人の申請分）

(1) 申請受付—入所希望保育所または所管福祉事務所

市民が利便の良い方を選択し、いずれでも受付を行う。

(2) 申請書類—「保育所緊急入所申請書・緊急仮入所決定」（別紙のとおり、以下「緊急申請書」）により受け付ける。

その他の挙証資料、実地調査等は不要。本人の申請により判断する。

(3) 緊急仮入所決定—災害により保育に欠ける事由が認められる場合（別紙措置要件のとおり）は、申請を受けたその場で仮入所決定を行う。

決定した際には、「緊急申請書」を複写し、福祉事務所長または保育所長の押印のうえ、保護者に手渡すこと。

なお、福祉事務所と保育所双方で受入れ状況を把握しておくため、決定当日中に電話による連絡を行うとともに、後日「緊急申請書」の写しを相互に送付すること。

また、受入れについて即座に判断しかねるケースで、福祉事務所と保育所の連絡がつかない場合は、調整したうえで後日、保護者に決定の連絡を行うこと。

(4) 事務の流れ—別記のとおり

(5) 受入児童数—保育に支障がない範囲で受入れを行うこと。

原則として、(1)現在（震災前）まで保育所に措置されてい

+++++

•あの瞬間、息子に布団をかぶせ、暗闇の中を手探りで息子を捜し、抱きしめ、布団をすっぽりかぶった中で、主人の声を待っていた。
(あさひ保育園 三浦 知香 保母)

•目前に迫った結婚式、震災で全てが狂ってしまったが、回り道した分大切な物を見つけ、ほんの少し前より違った自分があるような気がする。
(あさひ保育園 米澤 国香 保母)

•目が覚めると風の音と共にすごい揺れが。「地震だ」と思った瞬間隣に寝ている我が子に覆いかぶさりました。こんな大惨事になるとは。
(あさひ保育園 田中 晶子 保母)

た児童、(2)震災のために新たに保育に欠けることとなった児童は、全員受け入れること。

保母の確保が困難な状況が生じた場合は、保育課へ協議のこと。

(6) 受入児童の年齢—生後7ヵ月に満たない児童であっても、諸事情を勘案のうえ、可能な範囲で受入れに配慮すること。

また、乳児指定保育所以外の保育所においても、乳児の受入れについて可能な範囲で努めること。

(7) 措置期限—当面は3月末日まで（更新は別途検討）

(8) 措置日数—日数を問わない

3月末日以前に退所する場合は、通常の「保育所関係届」により処理すること。

(9) 保育料—3月末日まで徴収を猶予する。

保育料の決定及び減免については、後日決定する。

(10) 保育時間—可能なかぎり通常の保育時間内は保育を行うよう努めること。

(11) 避難所との関係—保育所が避難所となっている場合は、避難所の機能を最優先すること。また、一部の部屋で保育を行う場合は、避難住民に十分配慮すること。

+++++

• 震災後すぐ私たちにできることがあればしたいと言い出した職場の仲間達。あの時は皆が一生懸命で心が一つ。私も全てに“感謝”でした。
(あさひ保育園 高橋 由起 主任保母)

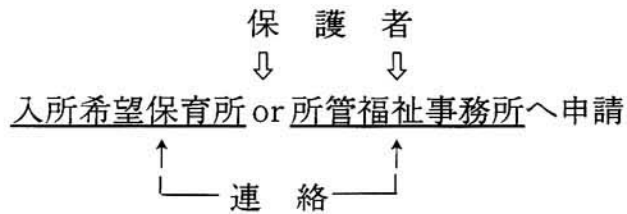
• もう起きようと思った時、今までにないゆれと音で天井がゆれ、こわくて起きることなどとてもできず、布団をかぶってじっとしていた。
(出合保育園 森本 輝代 調理員)

• 1月17日、激しい揺れを感じた時、体が動かなかった。その後、テレビなどでその恐しさを知り、夜、眠ることができなかった。
(出合保育園 寺尾 育代 保母)

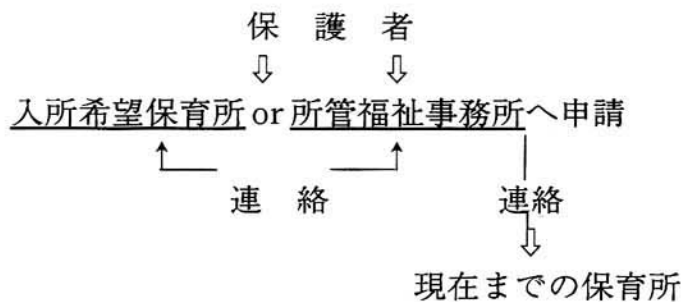
・措置事務の流れ
〔神戸市内での動き〕

① 災害措置児童

(保育所に通っていなかった児童)



② 既に措置されていた児童が同区内の他の保育所に移る場合



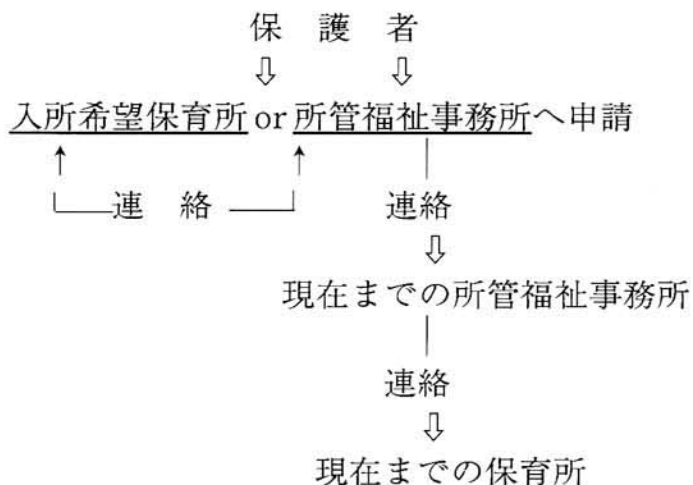
+++++

・家の被害はほとんどなく、テレビの報道番組を見て事の重大さを把握しました。この地震で水やガスの大切さを身にしみて感じました。
(出合保育園 村井真由美 保母)

・私は職場から近いので地震当日から勤務につけました。何もかもひっくりかえった事務所と休憩室を見た時は言葉がなかったです。
(出合保育園 毛利由貴子 保母)

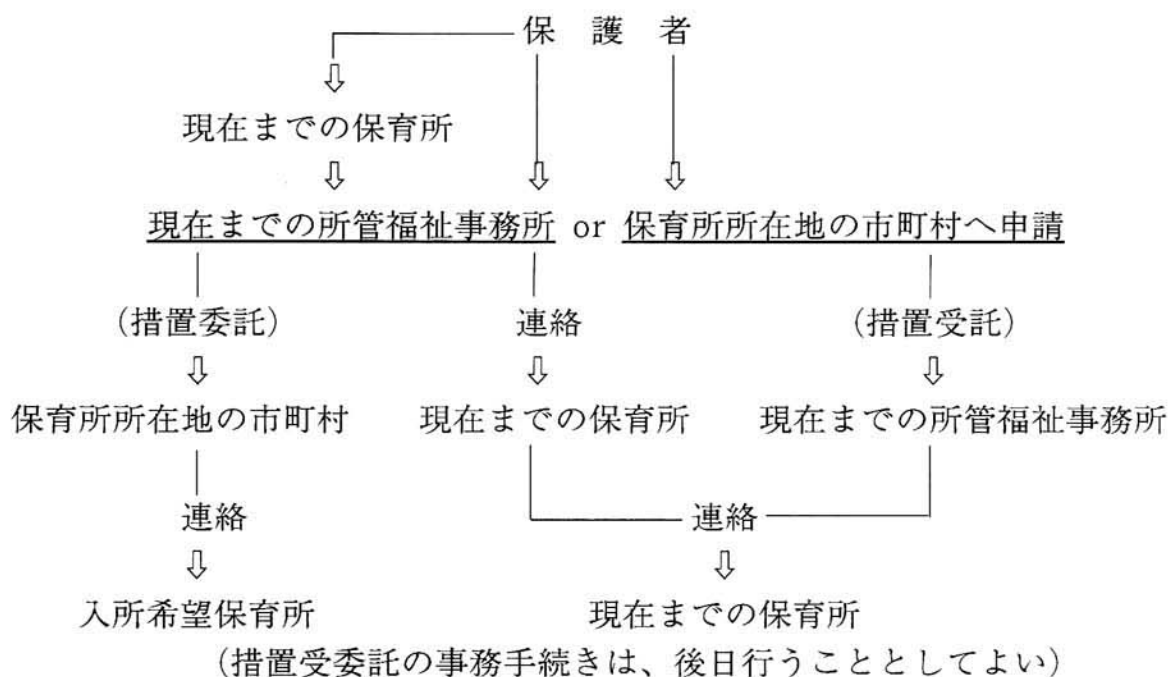
・何が起こったのかわからなかった。ぼう然としていると、家族の声が耳に入り安心した。この時、改めて家族の大切さを感じた。
(出合保育園 鹿田 淳子 保母)

③ 既に措置されていた児童が
他区の保育所に移る場合



〔市域を超える動き〕

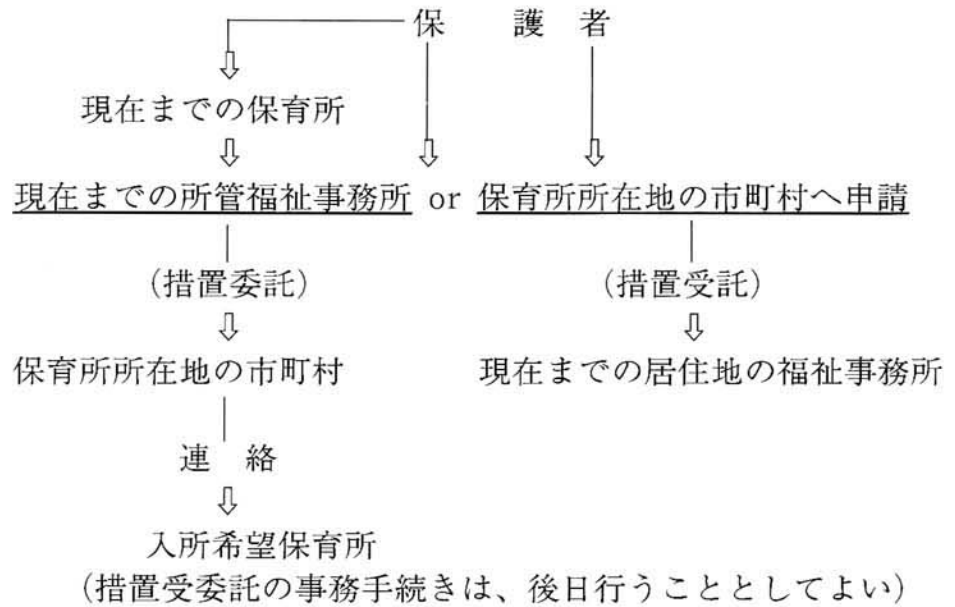
④ 既に措置されていた児童が他市町村の保育所に移る場合



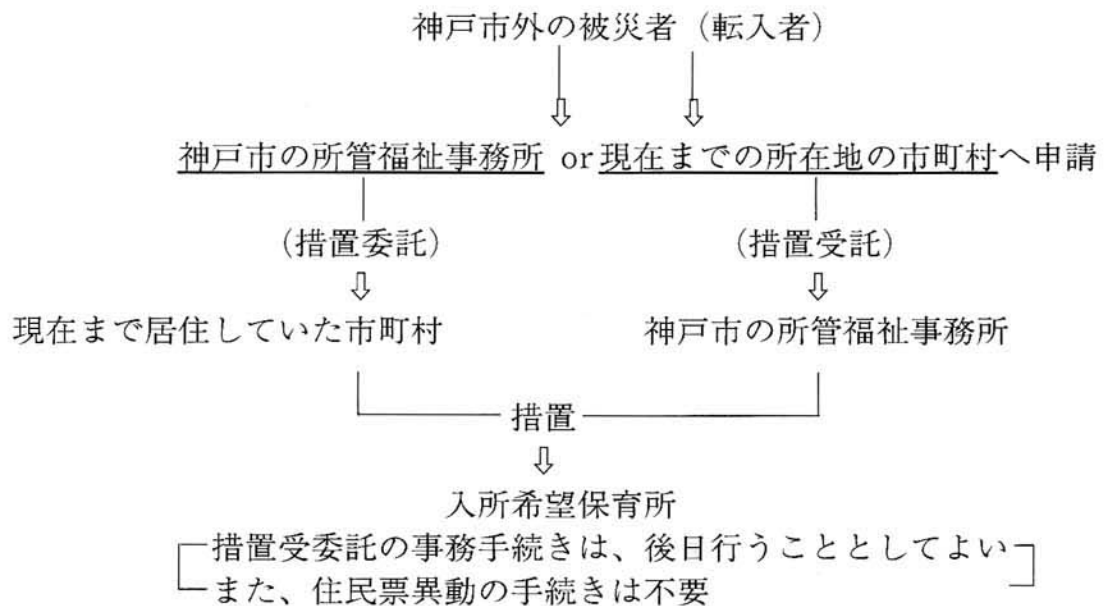
+++++

- 大きな爆音のような音がし家が壊れると思い布団にもぐり叫んだ。主人のことでなく自分のことだけ守っていた自分に後で気がついた。
(出合保育園 谷村 千晶 保母)
- 何かにゆさぶられて起こされた、と思えば大地震。あたりまえだと思っていたことが、あたりまえではなくなった。価値感が変わった。
(出合保育園 小林佳津子 保母)
- 仕事場に向う途中気づく。東の方の黒い空、その下に広がる橙色のにおい色。須磨、長田の大火だと思うと鳥肌がたち恐ろしくなった。
(出合保育園 八木佳代子 主任保母)

⑤ 被災措置児童（保育所に通っていなかった児童）を他市町村の保育所に措置する場合



⑥ 神戸市外の被災児童を神戸市内の保育所に措置する場合



+++++

- ドーン、ドーン、ガタ、ガタ、とび起きたが何が起きたのかしばらく呆然としていた。地震とわかり戸を開けベッドの横に座り込む。 (出合保育園 宮崎 芳江 保母)
- ランマーのような震動何かがおきた。あ、地震だ家族の安否を確かめ保育園に直行。水道の破裂処理、連絡網にて職員園児の安否確認。 (出合保育園 橋本 敏治 園長)
- 仕事・家庭・主任保母・母親と揺れ動かされた心。どれも大切、責任を持ち、今をどう生きるか自分に問いながら過ごした日々です。 (青谷愛児園 松村 恭子 主任保母)

II 保育所間の児童の受入れについて

保育所の被災状況が著しく当該保育所での保育が不可能な場合、近隣の他の保育所にある程度まとまった人数で児童を移し、受入先の保育所で代替的に保育を行うことが必要な場合があると考えられる。

については、措置児童の保育継続のニーズを把握し、対応策を検討するため、下記の要領で調査を行う。

記

1 当分の間（概ね2月末頃まで）保育が不可能な保育所と東灘区、灘区、中央区、兵庫区、長田区、須磨本区の全ての保育所の長は、措置児童の保護者に保育の継続を希望するか意向確認を行うこと。

また、継続の希望があった場合には、別に示す保育所（後日提示）に移ることについてその意向確認を併せて行うこと。

2 当該保育所長は、その結果を当該区における保育開始日までに保育課へ報告すること。

3 所管福祉事務所、関係する保育所、保育課において、児童の受入れについて調整を行う（受入先の保育所の運営・保母の確保、及び元の保育所の保母の派遣等体制確保）。

4 決定した対応策について、元の保育所の長は、保護者に連絡を行う。

5 所管福祉事務所において、「緊急仮入所児童」のリストを整理しておくこと。

+++++

•何もできず、ただひたすらに、皆の無事を祈り、手に汗をにぎるばかり。

（青谷愛児園 西村 尚子 保母）

•「地震だ」と思った時頭を両手でかかえていた。でも死なないと思った。それは、同じ場面（アジャブ）を見たことがあったから。

（青谷愛児園 藤井 愛 保母）

•その日、突然50年以上前にタイムスリップした。便利になりすぎた生活、物を粗末にしてきた自分を反省し、人の暖かさ愚かさを感じた。

（青谷愛児園 梶山 陽子 調理員）

- 地震の時わけがわからず布団にもぐりこんでしまいました。天災はいつ起こるかわからないので気をひきしめて生活しようと思います。(日輪寺保育園 重黒木ゆかり 保母)
- 私は揺れ始めた瞬間、起き上がり揺れがおさまるのを待つだけでした。その後はとっさに家をでていき立ちすくんでいました。(日輪寺保育園 中村 恵子 保母)
- 稲美町在住の私は、半分寝ていたので、大きな地震だと思っただけでした。通勤時間は通常40分位ですが、2時間程かかりました。(日輪寺保育園 池田 愛 保母)
- 地震が発生した時、寝床の中で布団にしがみつくと以外、何もできなかった。周囲は真っ暗で、しばらく怖くて身動きできなかった。(日輪寺保育園 忠井 明枝 保母)
- 生まれて始めてタンスが動くのを見た。あの重い物体が勝手に…ただ、ただ、恐くて動くことのできなかった自分がそこにいた。(ルンビニー愛児園 辻本さおり 保母)
- 地震により、目がさめ今までにない震度、長さ、ゆれに驚いた。とっさに、ふとんを頭までかぶり、終わるのを待った。恐かった。(ルンビニー愛児園 平岡 良子 調理員)
- 突然、下からつきあげてくるような震動がきて驚いたのであわてて妹と一緒にこたつの中にとび込みました。地震は本当に恐ろしい。(ルンビニー愛児園 藤本 由香 調理員)
- 私は、ピアノの下にかくれ、天井や家具が落ちてくるのを、暗やみの中で、じっと見ていました。本当に恐ろしく、怖かった。(ルンビニー愛児園 辻原美也子 保母)
- 電車が突然ゆれ脱線した。あわただしい駅員の行動に心臓がドキドキしはじめる。降りて別世界の景色に涙がとまらない自分を感じた。(大慈保育園 射場 美穂 保母)
- 私は、あの大きなゆれで目をさまし、一瞬なにがおきたのかわかりませんでした。あの地震をおもいだすだけでもおそろしいです。(大慈保育園 田端 恵美 保母)
- 私は、旅行帰りの電車の中。そこから歩いても歩いてもつかない家をめざし8時間。あんなに家族のことを思ったのは、始めてでした。(大慈保育園 大沢 茂子 保母)
- 「ドンキキキィー。」の音と共に、電車が大きくゆれて脱線した。大震災のはじまりだった。家族に会いたいがために必死に歩いて帰った。(大慈保育園 小畑 朋子 保母)
- ゴー音と共にガラスが揺れ、停電が解除になると2人の息子が食器棚を支えてました。幸い被害は少く、他区の被害に驚きました。(丸山保育園 大坪 陽子 用務員)

• 1月10日親友の一人息子が16歳で突然死！涙に明け暮れて連休に。明けたら気合を入れて働こうと、目覚めたらいきなりグラグラ。
(丸山保育園 太治 恵子 調理員)

• 恐ろしさで身体が震え言葉もなく、何が起きたのか理解できずにいました。このことは一生忘れません。
(丸山保育園 盛 茂美 保母)

• 遠くから近づく地鳴りの音。そして激しい揺れ。一体何だろう？外へ飛び出すとただもうもうとたちこめる砂埃と静寂が怖かった。
(丸山保育園 中西 恵 保母)

• あの地震で本当に怖い思いをしましたが、その後の近所の方々と協力し合ったり、友人にも助けってもらったことも心に残っています。
(丸山保育園 和田 恭子 保母)

• その時私は悪夢を見ているのだと思いながら、ベッドの上で悲鳴をあげていました。しばらくは思い出すたびに恐怖が甦りました。
(丸山保育園 清水 緑恵 保母)

• 我が家は被害も少く普段通り出勤し、途中長田の街が燃え、その煤が昇ってきていた。その時初めて地震の物凄さを知りました。
(丸山保育園 久喜 洵子 保母)

• 先ず園舎は大丈夫？走った。築後25年の木造だが無事に残った。職員は？園児達は？何とか人的被害を免れてホッとした気持。
(丸山保育園 榎井 亨 園長)

• 真っ暗の中、ラジオから流れる震度7の声に震え、真っ赤に燃える東の空に脅え、悪夢だと叫びつつ、皆の無事を祈り受話器をとる。
(みのり保育園 宮上 郁子 保母)

• 犬の散歩で外にいた。空が光って、地面がゆれた。木に掴まっていた。回りは真暗で何も見えない、急いで帰る途中家が倒壊していた。
(みのり保育園 中村 信子 調理員)

• 突然の激しい揺れ！余りの恐怖と不安の中自分と家族のことしか頭になかった。いろんな情報の入るなか、命あることに感謝するのみ。
(みのり保育園 武井 理恵 保母)

• 大きな本棚の下敷きになり、声を出すにも恐ろしさで声が出ず、母親に助け出してもらった。今は頭上には何もおいていません。
(YMCA 保育園 大里 頼子 栄養士)

• すぐに子に覆いかぶさった。余震におびえて外へ。園が気になり子を連れ車を走らせた。行く道のひび割れに、ただごとでないと感じた。
(YMCA 保育園 小林智恵子 保母)

• 揺れの中で、布団にしがみつき、部屋中の家具がたおれていくなか、オルゴールの静かな音に、一番恐怖を感じました。
(YMCA 保育園 木下 智恵 保母)

- 何が起きたかわからなかった。けど家族と声をかけ合い冷静に行動することができた。日頃の避難訓練が役に立ったと感じた。(YMCA 保育園 池田 尚美 保母)
- ひとり暮らしの私は愛犬を抱えて揺れる床を這いながら外へと逃げた。地面と家と自分の体が震え恐怖で泣いている自分に気がついた。(YMCA 保育園 小幡小百合 保母)
- 子どもが通っていた保育園が全壊になり、共働きをしている者として、子どもをあずける場所がなくなったことで、戸惑いました。(YMCA 保育園 山田乃里子 保母)
- 被災した友人たちの姿を見て、現実を受けとめ乗り越えようとする強さを感じました。彼女たちから学んだことを大切にしていきたいと思います。(美賀多保育園 笹川 直美 保母)
- 有無を言わず皆の生活を一変させた地震。真暗の中、なんだかわからぬまま、大声で子供の名を呼び、他県にいる夫にTEL。家族の無事を確認した中で知った友の死。友の笑顔をいつまでも忘れずガンバロウ！(美賀多保育園 村上 潤子 主任保母)
- 明石海峡にかかった、オレンジ色の波雲海からは、二筋の稲妻それは美しい雲、毎朝淡路島の空へ目をむけ、二度とみたくないものである。(美賀多保育園 吉川 和代 園長)
- いざとなると全く何もできなく、ただ事態を見ていただけの私でした。この大震災で人間の無力さをしみじみと感じました。(美賀多保育園 堀井 靖恵 保母)
- 1月17日、私も子どもたちもみんなそれぞれの場所で激しい揺れに見まわれました。真暗の中家族で名前を呼び合い無事を確認しました。もしこれが昼間だったら…。改めて毎日尊い生命とかかわっていることを実感させられました。(美賀多保育園 野上 葉子 保母)
- 眠っていた私は、突然の激しいゆれで目覚め、落ちてきた物で額を切り、長いゆれの間布団の中で動くこともできず怯えていました。(美賀多保育園 綱島 恭子 保母)
- 5時46分、「ドーン!!」という音と共に飛び起きましたが、身体を支えるのに必死でどうすることもできず、家族の名前を叫んでいました。(美賀多保育園 上阪 公子 保母)
- 祖父母の家が全壊。家の片付けをし、避難先への帰宅途中に、交通事故にあい、2人とも亡くなった。地震さえなければ…(美賀多保育園 堀 久美子 保母)
- 5時46分、その時私は大きな地震と共に飛び起き、驚きと恐怖でいっぱいでした。まさか神戸で地震が起こるとは夢にも思いませんでした。(美賀多保育園 山本夏世美 保母)

1 保育救援活動

震災前に公私合わせて158あった保育所（園）のうち、一部損壊を含む132カ所（園）が被害を受けた。なかでも私立は、8園が全半壊したが、6月始めまでに5園が仮設園舎で保育を再開した。

市内の約13,000人余りの保育所（園）児で約2/3が何らかの被害を受け、近くの学校や公園のテント、あるいは他府県へ避難した。

このような状況の中で、2月3日から11日まで栃木市の障害者福祉作業所「わらしべの里」金坂直仁理事長が、須磨区の鷹取中学校に避難をしていた子どもたちの保育を始められた。2月6日からは保育三団体による支援活動が開始されるようになり、少しずつではあるが、避難中の子どもの保育ができる体制になってきた。その後、上記避難所内「なかよし保育園」については、2月11日以降大阪市私立保育園連盟が中心となって職員を派遣、3月末まで3泊4日のローテーションを組み、保育にあたっていただいた。（49日間・職員派遣施設36施設・47人で延べ240人の職員が活動）また、新聞や口コミで募集を知り、大勢の日帰りボランティアが参加した。

「なかよし保育園」の活動が活発になるにつれて、学童も含め保育希望者が増え、狭い保育室内の熱気にしばしば圧倒された。地域外の学童については近隣の団地の集会所を借り、学童保育を3月末まで実施した。

「なかよし保育園」の運営は、3月31日から神戸市私立保育園連盟が引き継ぐことになり、加盟園の保育者が交代で4月末まで保育にあたった。この活動に、ボランティア団体「でんでん虫」の中石リーダーを中心にコーディネーターをお願いし、鷹取中学校、地元住民、神戸市社会福祉協議会、避難者らとの折衝に泊まりがけの支援活動をしていただいた。

一方、2月17日から鷹取中学校の西隣にある若宮小学校内で、滋賀県私立保育園連盟が中心となって、「若宮子どもの家」を開設し、滋賀県内の園長、保母、滋賀女

+++++

• 激しい揺れに叫び声をあげてしまい、“これは夢でない”と徐々に震えが止まらなくなった。自然の恐怖に人間はなすすべがなく悔しかった。（竹の台保育園 甲斐 晶子 保母）

• 目前で火事が起こり、逃げまどう人、ケガをした人々、思い出すと涙が止まりません。自然は怖いです。二度と起こりませんように。（竹の台保育園 坂井 歆子 保母）

• 「ドン」という音に目が覚めてもう足が動かなくて布団の中にくるまっていました。揺れが止まり部屋の中をみるとびっくりしてしまった。（竹の台保育園 田村 栄子 保母）

子短大の学生ボランティア、京都学童保育指導員ら、43日間（4月10日まで）延べ180余人による一時預かり（学童保育）支援活動がおこなわれた。

この他に、長田区内の兵庫高等学校、長田区役所内（SVO・スマイル）、須磨区内西須磨小学校などに、神戸市私立保育園連盟として巡回相談に入った。

独自に保育園周辺の地域住民や子どもたちに対して、救援活動を行った園も数多くあり、避難場所の提供、炊き出し、衣類の整理、日用品の収集、保母の派遣などの活動を行った。

今後のケアなどについて

- 1 保護者対策（被災、失業などによる相談活動）
- 2 保健教室（子ども・親に対して精神面、肉体的健康管理の充実）
- 3 保育支援活動（一時的、日曜日など保育園の開放、人がわいわい集まる）
- 4 職員派遣支援活動（チームを組んで休日などに遊びの指導にあたる）
- 5 文化支援活動（絵画、作文コンクールなどの実施）
- 6 体験支援活動（キャンプなどへ連れていく）

2 義援金について

震災直後の混乱が続く1月31日、京都の保育総合研究集会で「阪神大震災の被害状況と救援活動について」の特別集會がもたれ、黒川会長、横山、舟橋の3人が神戸私保連を代表して、全国の仲間に被害状況と困難の中での連盟各園の活動の状況を報告した。

集會直後その場で、全私保連青年會議の方々から義援金をお預かりしたのが始まりで、直接神戸私保連へ足をお運び頂いた方々をはじめ42団体、兵庫県保育協会を経由して11団体、計53団体（別表1）から真心あふれる義援金をお寄せいただいた。こうした温かい真心を、公正、公平に配分するため義援金配分委員会を設立して、

+++++

• ドーンという音と共に私の頭の中は真白になり、両親から声をかけられるまで体が動きませんでした。本当に生きてよかったです。 （竹の台保育園 丸山 順子 保母）

• その時恐怖と寒さで体が震えていました。水のない生活、余震の度の恐怖感などを体験し普段の何気ない生活が幸せであるかを感じました。 （竹の台保育園 天毛 良子 保母）

• ただ、じっとして、夜が明けるのを待った布団の中。その時、私は、あらためて知らされた一家族の大切さと生きている喜びを。 （竹の台保育園 藤本 彩 保母）

神戸私保連の機関紙「遊象」で次のように報告した。(なお、全私保連をはじめ保育三団体へは、全国各地の保育園、保護者から1億数千万円余にのぼる浄財が集まり、この中から当連盟加盟園へ次のとおり配分した。)

義援金配分委員会設立

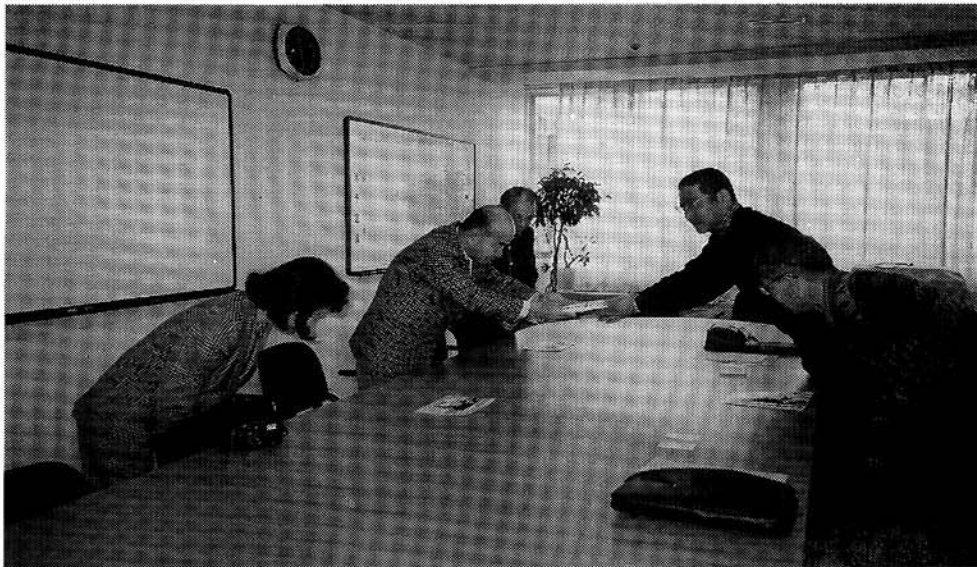
関係の皆様方の暖かいお志を、被害を受けた園に公平に配分する為、神戸私立保育園連盟では義援金配分委員会を設立しました。

配分委員会設立に先がけ、去る3月、全国私立保育園連盟より兵庫県内被災地の私立保育園全園に義援金の中より見舞金3万円也が贈られました。そして、6月14日現在、神戸私保連に全国から寄せられた義援金は64,631,927円に達しました。

公平を期すために先般、委員(理事)10名に加えて全私保連事務局より、組織部長の樽川氏と、救援実行本部の大阪私保連より近藤氏をお迎えして検討を重ねた結果、次の通り配分することになりましたのでご報告致します。

義援金配分基準

全壊園	1000万円
半壊園	500万円
一部損壊園	200万~30万円	
職員死亡	5万円
児童死亡	3万円
(備考) 但し、一部損壊園	にあっては被害額の大体20%を基準にしました。	



+++++

- 私たちが乗っていた電車が脱線し、周囲の家々が倒壊、暗やみのあちこちから悲鳴があがり、傾いた電車の窓から見た光景は悪夢の様。(竹の台保育園 森岡真智子 保母)
- 立ちあがろうにも立ちあがれずに、今何が起こったのだろうと考えた。まさかあんなことになっていたなんて、夢にも思わなかった。(竹の台保育園 山口 真紀 保母)
- 列車の揺れが急に激しくなり「倒れる」と思った瞬間右に傾いたまま止まった。いすから立ち上った時の足の震えは今でも忘れられない。(竹の台保育園 木脇 聖子 保母)

(表1)

義援金をお寄せくださった方々

月日	団体名	月日	団体名
H7.2/3	全国私立保育園連盟青年会議	28	神戸市保育所長OBの友人76人
2/3	札幌私立保育園連盟青年会議	〃	福岡市保育協会
6	浜田市保育協議会	30	全国私立保育園連盟
〃	筑後保育所父母の会	〃	京都市保育園連盟
13	全国私立保育園連盟	31	島原半島保育会連絡協議会
16	金沢市社会福祉協議会	4/3	滋賀県私立保育園連盟
〃	淀川善隣館(大阪)	14	大阪府保育協議会
17	栃木県民間保育園連盟	19	大谷保育協会(滋賀県守山市)
〃	島原市保育会	28	あじさい保育園(神戸)
〃	島原市保護者会	5/8	八王子私立保育園連盟
21	三重県さつき保育園	11	全国私立保育園連盟
〃	舞鶴民間保育園連盟	6/5	大阪市私立保育園連盟
22	全国保育協議会会長・保母の会会長	6	鳥取県保育協議会
〃	静岡県保育所連合会・保母の会	20	全国私立保育園連盟
27	北九州市保育所連盟保母の会	26	(兵庫県保育協会を通じて) 京都市保育園連盟 奈良県保育三団体 和歌山県民間保育園連盟 和歌山県保育所連合会保母部会 京都府保育協会 日本保育協会大阪支部 滋賀県保育協議会 大阪府社会福祉協議会保育部会 和歌山市しろがね保育園 保育三団体 大阪市保育協議会
28	大阪市私立保育園連盟		
〃	J T B 神戸支店		
3/3	船橋市私立保育園協議会		
〃	あさひ保育園(神戸)		
6	愛知県私立保育園連盟		
〃	長崎県保育団体連合会		
〃	大阪おもちゃライブラリー辻井正氏		
8	岡山県保育協議会		
14	頌栄保育園(神戸)		
16	新潟市私立保育園協会	8/2	神戸市社会福祉協議会
17	広島市私立保育園協会	10/23	広島光明学園

+++++

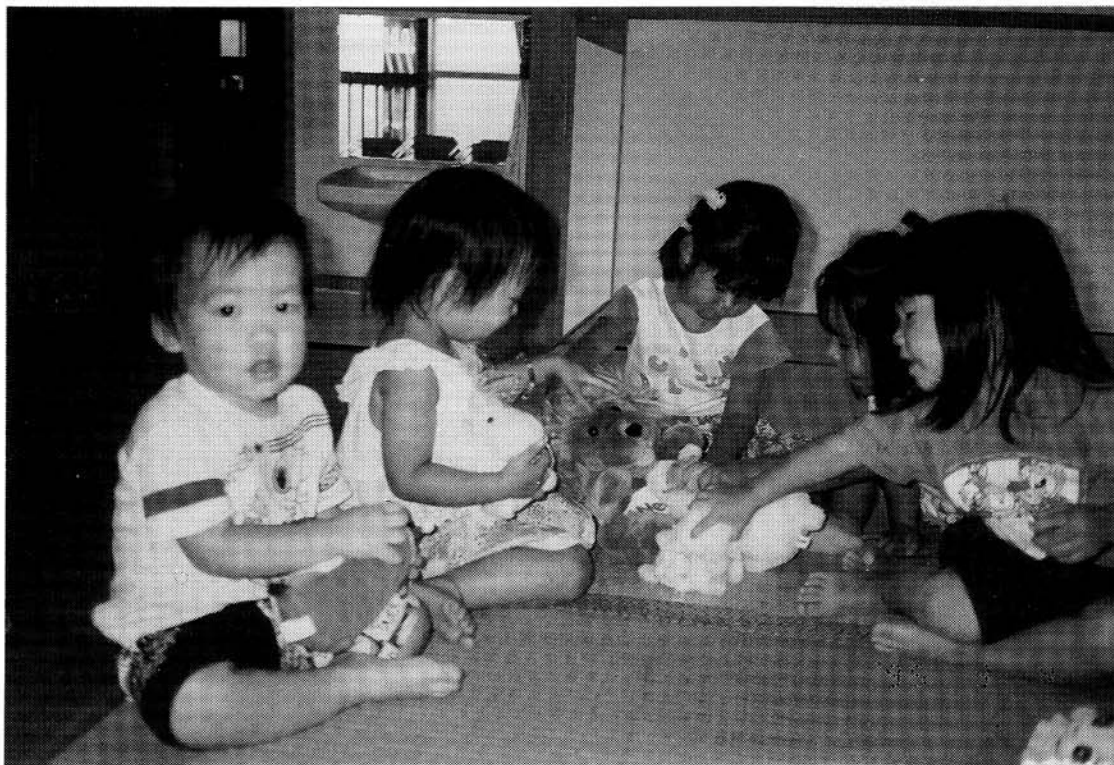
•脱線し傾いた電車の中で一体何が起こったのかわからず、不安な気持ちのまま夜明けを待った。
明るくなって見た風景は別世界だった。(竹の台保育園 荻部 裕美 保母)

•大揺れで部屋は総て破壊した。前の家は全壊して道に崩れ落ちた。一日中空は暗かった。頑張れ頑張れと呟きながら瓦礫の中を園に通う！(竹の台保育園 中山 悦子 園長)

•自分たちにできることをと思い、短大の友達と、避難所にいる子どもを集め青空保育を行った。その時の、子どもの笑顔が忘れられません。(あい保育園 八幡起代子 保母)

3 救援物資について

全国各地からトラックで連盟事務局に大量の緊急救援物資をお届け頂いて以来、19団体から、米、食品、衛生品、医薬品、衣料品、ミルク、おもちゃ、絵本、食器など全国各地から寄せられた品々は、連盟の役員、保母会、業者の協力により直ちに仕分けされ、逐次各園に配送されて園児・保護者に大変喜ばれた。



+++++

- ひしめきあう人々、無造作に置かれている必需品、妙に落ち着いた雰囲気、私はボランティアを通して地震の恐しさを目にしました。
(あい保育園 畑谷 佳代 保母)
- 大きな揺れを感じ目覚めた、その時、私は、今まで感じ、見たことのない世界に足をふみ入れた感じがした。知りたくない世界であった。
(あい保育園 下向 幸子 保母)
- あまりの大きな揺れに一瞬何が起きたのかわからなかった。窓を苦勞して開け、風景が変わってしまっていることにおどろいた。
(あい保育園 荻野 綾子 保母)

- 自分の身に起こるとは思っていなかった大地震。今でもあの恐怖心だけが、心に強く残り物音がすると恐怖心だけがわきあがってきます。(美賀多保育園 橋本 友佳 保母)
- 地震でたたき起され外に出ることもできず、フトンを頭からスッポリかぶり収まるのを待つだけ、長い一日でした。地震はもうイヤ!(岩岡保育園 藤原かつこ 調理員)
- 一瞬、夢なのか現実なのか分からず、ただ布団の中に潜り込み地震が収るまで布団の中っていると本棚が倒れ何が何だか分からなかった。(岩岡保育園 中戸 香織 保母)
- 近所の人に助けられ半身不随の父を家の外へ出し、淡路の方を見ながら、「もう、やめて」と叫んでいた。夜が明けて、家を見て驚愕。(岩岡保育園 皐月美保子 保母)
- その朝8時楠公前からバスで金沢へ研修の出発日であった。情報は入らず家族の心配をよそにJR大久保駅へ!! 駅は眞暗。不通でホッとした。(岩岡保育園 敦見 久子 副園長)
- 地震発生直後園へ。周辺の家屋は倒壊、避難者を受け入れ避難所に。そして皆で目の前の物から片付け始めることが復興への第1歩だった。(めぐみ愛児園 高坂 正明 副園長)
- もう起きなければと思っている所へ地震が、うす暗いのと、今まで感じたことのないゆれ方で、地震が長く感じました。(八多保育園 西澤 佳子 保母)
- まさか関西で地震がおこると思ってもおらず「怖い怖い」と悲鳴をあげるばかりで何もできなかった。恐怖の一瞬は忘れることはできない。(八多保育園 中川 悦子 調理員)
- 熟睡していた私はあの地ひびきで飛び起きました。あまりの恐怖に妹にしがみついてしまいました。おさまりかけてから外へ避難した。(八多保育園 小町 京子 調理員)
- 一瞬にして神戸の街並みが崩れてしまい、恐怖体験とともに信じ難いものだった。突然の出来事で、思考能力をなくしてしまった。(八多保育園 谷口 愛 保母)
- 私はその頃学生で就職活動を終えやっとこれからだと希望に満ちあふれていた頃でした。地震のため就職のことや子どものことが気がかりでした。(八多保育園 神定ゆりえ 保母)
- 地震の時、私はあまりの恐ろしさに布団をかぶり震えました。夜が明けて驚く程の被害に言葉の失い、知人の無事を祈りました。(八多保育園 岡野理恵子 保母)
- その時私はまだ布団の中でした。すごい揺れで目が覚めました。ビックリして起き上がって電気をつけようとしたけどつかなかった。(八多保育園 山口 京子 栄養士)

•両親の叫び声と揺れる中、身動きできずにいた。そして、食器などが割れ散乱している所で、神戸震度7のテレビに驚いていた。
(八多保育園 岩野 恵子 保母)

•大きな揺れとともに目が覚め、いつもの揺れとちがうこと感じ、物が落ちないようにおさえていました。二度とないことを願っています。
(八多保育園 森 三子 保母)

•外は真暗、停電、懐中電灯とラジオを手さぐりを取り出す。明るくなるのを待ち園舎内外を見回る。その時空の色は異様に無気味だった。
(八多保育園 棘木恵美子 園長)

•5時46分、突然の大きな揺れにパッと目が覚め悲鳴を上げた。幸いにも家族は皆無事なので良かった。私はこの体験を決して忘れない。
(平野保育園 浜本智香子 保母)

•震災当初は家族の無事を喜びましたが何日もしないうちに、電気も水道もない現実を目の当たりにし、対処に、とても困りました。
(けやき保育園 酒井 友子 保母)

•その時私は短大近くの下宿で家族と離れ一人、地震に耐えていました。地元はどうなっているのか分からず不安な一日でした。
(けやき保育園 白石めぐみ 保母)

•居間で用事している時でした。背後から食器の壊れる音がして思わず叫んでしまいました。保育園の無事を聞いて安心しました。
(けやき保育園 武田 綾子 保母)

•あの日から生活の流れが一変しました。その中で「戦後へタイムスリップしたようだ」と誰かが言いました。だけど地震は自然の力です。
(けやき保育園 富岡 旬子 保母)

•家がゆれ動いた瞬間、目がさめ一瞬、何が起きたのかと、扉をあけたそのとき、救急車の音、消防車の音で体が震えそうになった。
(けやき保育園 吉田たかみ 保母)

•家がゆれている時、私は、主人に、「お父さんどうしたらいいの」とかなざり声で何度も叫びました。今、命があることに幸せ一杯です。
(けやき保育園 溝田 順子 主任保母)

•弁当をつくっていたその時すごいゆれで真っ暗になり、いつもはすぐきれるストーブが赤々ともえていたので私は必死でけしました。
(けやき保育園 浜辺 初代 調理員)

•激しい揺れを感じ目を開けて、食器棚が倒れ、テレビ・電子レンジがフッ飛んだのを見て、『コワイヨー』と叫びながらコタツに潜った。
(けやき保育園 仲矢 能子 調理員)

•たくさんの思い出が、いっばいつまった家が今は影も形も失くなってしまったけれど、新しい家で、また新しい思い出を作りたいです。
(本願寺派湊川保育園 山本 和子 保母)

•地震のため2月中旬まで、ガスと水のない生活でした。不便な生活でしたが、我が家は大きな被害もなく、よかったなあと思いました。
(舞子保育園 福嶋 佳代 保母)

•地震で失ったものもありますが、得たものもたくさんあります。何はともあれ命が助かったこと、命があれば何だってできますよね。
(ルンビニー愛児園 藤本 真澄 保母)

•家が全壊し、避難生活を送っていましたが、家族全員無事だったことが何よりも嬉しかった。元の場所の戻れることを信じ頑張る。
(大慈保育園 吉川 弘美 保母)

•一瞬の出来事で家が崩れ不安と恐怖の避難所生活。皆で助け合い励まし合ってきた。これからも負けない。子供のため、ローンのために頑張ります。(みのり保育園 清水登代美 調理員)

•私は新長田に住んでおり、交通機関もなく、園には自転車で2時間程かかって通勤した。今に思えば、よく行けたなあと思う。
(同朋保育園 佐藤 佳子 雇用員)

•電車の中では爪先立ち乗り継ぎとの戦いで階段をかけ降り上る、私はこの5カ月間程、ミニスカートをはずさず、ますます足に筋肉がついた。
(光の子保育園 笹賀さゆり 保母)

•全交通機関切断。灘区～六甲アイランドへの通勤は、2カ月間もの間RIC、リエゾン自動車教習所送迎バスに乗せていただき、感謝！感謝！！
(光の子保育園 青森 宣子 事務)

•震災後、六甲ライナーが不通となり大型トラックの行き交うでこぼこ道の中、マスク、リュックと震災ルックで自転車通勤。
(光の子保育園 竹本 高子 保母)

•3時間待ち長蛇の列代替バス乗り場に啞然！その日から自転車通勤。風雨凸凹道トラックにも負けずひたすら走った。めざせ橋本聖子！！
(光の子保育園 信川るり子 主任保母)

•震災の後、被災地のど真中灘区から六甲アイランドの保育園に瓦礫の上をひたすら歩いて通勤しました。疲れ果て遂に腰痛でダウン。
(光の子保育園 斉藤 信男 園長)

•一番大変だったのは、園から住吉の駅まで2時間毎日歩いて帰ったことです。傾きかけのビルの横、デコボコの道、目をおおいたくなる様な風景ばかりでした。
(友愛幼児園 福島 里美 保母)

•地震がおきてから、通勤した初日、行き3時間帰り5時間もかかりくたくた！普段は1時間の所をである。毎日毎日いろいろな乗り物に挑戦しながら交通機関を狂わした地震をのろった。
(友愛幼児園 木村 久美 保母)

1 緊急会議

震災後、はじめて会合がもたれたのは、4日後の1月21日（土）のことであった。電話回線が混乱するなか、ようやく連絡のとれた6人の役員が、須磨区北部にある、のぞみ保育園に集まった。

この未曾有の大地震がもたらした被害の甚大さに、集まった役員たちは、交わす言葉も見あたらず、互いに目と目で、事の重大さを確認しあったのであった。

何をどうするか、どこから手をつければよいのか、考えもまとまりにくい状態であったが、次のような内容を協議し、申し合わせた。

- (1) 受け入れ可能な保育園は、各区福祉事務所と連絡をとりあって保育をする
- (2) 保育時間などについては、各園長の判断で処理する
- (3) 各園の被害状況（施設の状況、職員、園児の様子など）を連盟事務局まで報告する
- (4) 保護者、被災者などから相談があるかと思われるが、内容については、よくきいて、各園で処理できないものについては、福祉事務所と連絡をとりあい、対応する
- (5) 1、2月に予定している連盟主催の行事は中止する

1回目の緊急理事会のあと、連盟事務局には、連日市内の各園から、被害状況の報告がなされた。

神戸私保連は、1月26日（木）に、第2回目の緊急理事会を、前回と同じのぞみ保育園でひらき、対策を協議した。

これには、非常時であるにもかかわらず、神戸市民生局保育課から、遠藤係長と矢野係員が出席され、保育課として対応策について説明がなされた。

この日協議された内容は、報告とお願いという形で、以下のように各園に伝達された。

+++++

- 園を再開し、元気に登園してきた子どもたち。怖い体験をし、今までとは違う生活の中でもとても無邪気で明るい姿に勇気づけられた。 (あい保育園 早戸 朋美 保母)
- 大きな揺れが落ち着いた後、頭の中は怖さで一杯だった。保育園に行かなければと外に出たがバスもなく、どうしようもできなかった。 (あい保育園 柏尾 菊香 保母)
- 1月17日早朝避難していた公園で、私は子どもたちの顔を思い浮かべていた。一日も早く元気なみんなと保育園で会いたいなど。 (あい保育園 永島真由美 保母)

- ◎ 救援活動体制をとるため、神戸市私立保育園連盟「阪神大震災対策本部」を1月26日をもって設置する。
- (1) 本部は連盟事務局とするが、当分の間（正常に機能するまで）、北須磨保育園に置く
 - (2) 本部長は、黒川恭真会長、副本部長は、横山 昭副会長とする
 - (3) スタッフは理事全員とする
 - (4) 1月31日に、京都で開催される保育総合研修会で、被災状況を報告し、全国の会員に救援活動のアピールをする。
 - (5) 市と密接に連絡をとりあって、被災園（地区）の早期再開および被災乳幼児への救援活動を行うとともに、長期的に見て起こり得る諸問題についても、神戸私保連として取り組んでいく（事務連絡事項などは、連盟から各園へ連絡する）
 - (6) 連盟主催による事業は3月末まで休止する
 - (7) 連盟の法人化は推進する
 - (8) 1月24日に開催された全私保連の正副会長会議で以下のことが決定された旨（黒川会長）から報告があった
 - ・保育三団体が行う募金活動に協力する
 - ・救援活動体制をとる。具体的には「阪神大震災救援本部」を全私保連内に設置するとともに、「阪神大震災現地救援本部」を大阪市私保連内に置く
 - ・救援活動の基本方針として
 - ①救済対象 ②救済目的 ③救援方法 ④義援金活動等
 - ・以上の正式決定は、2月7日開催の第97回理事会による

+++++

- 地震が起こった瞬間何が何だかわからなかった。テレビで現実を知った時、これからどうすればいいのか、わからず不安だった。 (あゆみ幼稚園 原 悦子 栄養士)
- 何が起こったか分からなかった。何度もこけながら家族のそばに行った。足の震えが止まらなかった。朝の光が待ち遠しかった。 (あゆみ幼稚園 外島 愛子 保母)
- 一瞬死ぬかと思った。時折くる余震に体を震わせながら見付けてきたラジオと懐中電灯をたよりにただ外が明るくなるのを待っていた。 (あゆみ幼稚園 櫻木 優子 保母)

2 園長会

毎月第3水曜日に開かれている定例園長会は、地震がおきていなければ、1月19日（水）に行われるはずであった。震災後、なるだけ早く園長会を開こうと鋭意努力したが、実現をみたのは、2月に入ってのことであった。

2月5日（日）、被害の比較的少なかった、神戸市西区の地域福祉センターを会場にして、園長会が行なわれた。休日で、しかも、定例会場よりかなり遠方であったにもかかわらず、多数の出席があった。

全半壊した園が、被害の状況を報告、大変ななかで保育を再開した園の様子や、当面する問題などについて、熱っぽく討議された。

会には保育課からも出席して、措置費、保育料についての説明と、保育状況などの調査についての依頼があった。



++++
•何をすればいいのかわからず、オロオロしていた。日本中で、自分と自分の家族だけが取り残されたようで、とても不安だった。
(あゆみ幼稚園 藤田 恵子 保母)

•地震の規模がこんなに大きいとは思わなかったが、まわりを見渡せば電気もつかない状態であった。この経験は忘れられないと思う。
(あゆみ幼稚園 正谷 敦子 保母)

•その時私は今まで体験したこともない恐怖を感じ、いつもの街並が一瞬にして崩れ、どうするすべもなく不安な気持ちでいっぱいだった。
(あゆみ幼稚園 徳永 安世 保母)

3 保育総合でのアピール

1月31日、京都で開催された第20回保育総合研修会では、1日目のシンポジウム終了後、懇親会を中止して、被災地からの『報告集会』がもたれた。この会には、神戸から、黒川会長、横山副会長、舟橋会計の3人が出席、参加者に次のような報告とアピールを行なった。

亡くなられた5000人の方々のことを思うと、命のあることが本当にありがたく、亡くなった方のためにも神戸の復興に全力を注ぎたい。全国のみなさんご支援、ご協力をお願いしたい。

震災の当日に保育をやろうとした園があったことを、言っておきたい。4カ園は避難所になっており、当面は保育できないが、他の園では順次、保育をおこなって行く予定。

ボランティアの希望が多いが、現在、受け入れ体制がない。しかし、状況はぜひ見に来てほしい。

(「保育通信」臨時増刊号から抜粋)

+++++

- 卒業を控えあとわずか一期待と不安を胸に保育の仕事に向って一という時に震災が。一日も早く復興することを願っていきたいです。(あゆみ幼児園 川口奈緒子 保母)
- 最初は何がなんだか分からなかったが次々とくる大きなゆれの中にいると恐怖と緊張に襲われ、ただ外に出ることしか頭になかった。(あゆみ幼児園 安田真希子 保母)
- 5時46分激震。その時私はまだベッドの上だった。激しい揺れでベッドからころげ落ちそうになりながら夢か現実か分からなかった。(あゆみ幼児園 光岡 真紀 保母)

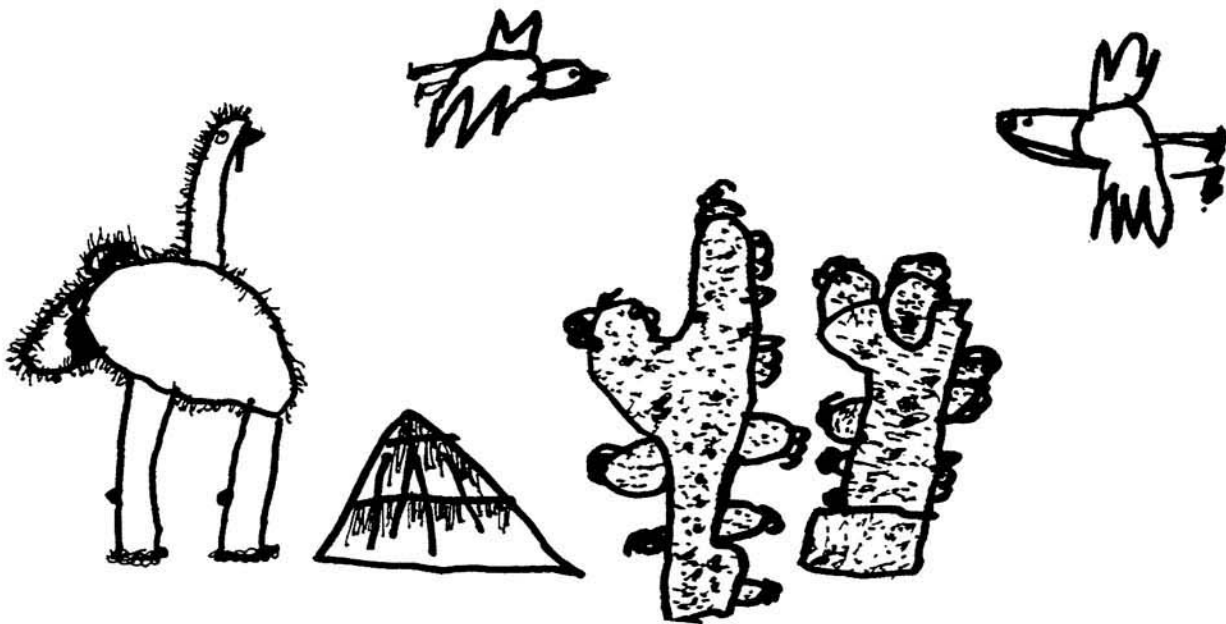
第20回 保育総合研修会
子どもの権利条約と保育制度

主催 全国私立保育園連盟
協力 京都市保育園連盟

協賛 東京海上火災保険株式会社
株式会社サンワールド



1/31 保育総合研修でアピールする黒川会長



+++++

•大きな揺れで目が覚めたものの動くこともできずうずくまっていた。部屋の中は踏み場もなくただ暗闇の中茫然としていました。
(あゆみ幼稚園 北川いづみ 保母)

•ゴーッという異様な音。激しい揺れ。真暗な中で、窓ガラスの割れる音。物が落ちる…。心がふるえた、たった20秒の出来事。
(あゆみ幼稚園 坂本 昌美 保母)

•ものすごい音。「えっどうしたの？夢かな？夢だよ。」そう思いながらただボーッとしていると、弟の呼ぶ声。あ夢じゃなかったんだ。
(あゆみ幼稚園 白石 直美 保母)

4 倒壊園職員の雇用について

全壊園は、当然のことながら、最も被害の大きかった旧市街地に集中している。全壊した保育園に通園していた子どもたちの家も、ほとんど倒壊、焼失し、その安否も当初はなかなかつかみきれなかったが、あらゆる方法を駆使し、園児の避難先などを確認していった。

連盟としては、何から考え、何から手をつけていけばよいのか分からない状況の中で、全壊園の職員の雇用について、それぞれの園が再開するまで何らかのかたちで雇用の保障ができないものかと、あれこれ考えた。

震災直後、全国から多くのボランティアの方たちが続々と被災地にこられ、保育三団体からも、ボランティア派遣の申し出があった。また、ライフラインや交通の不便さにもかかわらず、全国の保育関係者もたくさん来神された。

そのような中で全壊園の職員を、避難所にいる子どもたちの保育や心のケアが少しでもできればと、派遣することとした。派遣された職員たちは、自分自身も被災者であり、精神的にも、体力的にも大変であったが、避難所の子どもたちとかかわった。

どこかで、何らかの働きをすることによって、職員一人ひとりの雇用の保障をしてもらえないかと、連盟として神戸市民生局に申し出たのである。神戸市はこの予想し得なかった事態を前向きに検討して、厚生省に要望し、措置費の特例扱いで、保育ができなくても、事務費の支弁がなされることとなった。

その後の方法として、避難所、公立保育所、私立保育園へと50数人の職員の月づきのローテーション表を連盟で作成し派遣を行っていった。

また、現在も他園での保育を手伝いながら、再開に備え研修という形で雇用の保障を行っている。湊川保育園、神視保育園、天隣乳児保育園、みのり保育園は仮設園舎で平成7年4月から保育再開。新生寮保育所、神視保育園の職員は現在も他の私立保育園（派遣先）で研修を続けている。

+++++

- マンションから飛び出した。この世の終りか、人も車も無い。園長宅倒壊。呼びかけに次々返事あり。悲しや二人の声は、ついに聞けず。
(ルンビニー愛児園 松田 清子 主任保母)
- 南の方角から流れてくる煙、歪んでいる歩道に驚く間もなく、耳にする街の情況に愕然とした。知人、園、神戸はと不安で胸一杯。
(ルンビニー愛児園 松本 茂美 保母)
- 朝の浅い眠り、大きな揺れでとっさに座りこんだ、地響きがきこえ怖い、動けない、何かが起こった、一瞬の恐怖を今も忘れられない。
(あゆみ幼児園 山口 牧子 保母)

保 育 支 援 計 画 表

氏 名	所属園	派遣先	期 間	備 考
土井原美貴	湊 川	苺 藻 (市立保)	2/7~2/18	・市立保育所、苺藻、細田、本庄から保母派遣の依頼 ・湊川保育園(全壊園)が保母派遣について了解、派遣先との詳細な連絡調整に当たる
山本和子	湊 川	細 田 (市立保)	2/7~2/9	
川井晃子	湊 川	本 庄 (市立保)	2/7~2/9	
魚住昌美	みのり	ポートピア (私立保)	2/20~	産休代替として
大阪コーディネーター	大阪市私立 保育園連盟	鷹取中学校	2/10~	・2/10 鷹取中学校で「わらしべの里」金坂直仁理事長と横山副会長が保育支援について打ち合せを行う。 ・2/18 兵庫県保協から鷹取中におけるボランティア引き継ぎの依頼 ・神戸私保連から大阪私保連に対し派遣(3人)依頼、了解を得る

+++++

- 悪夢の5時46分！地の爆発が神戸をこんなに無残にしてしまうとは。電気が通り、テレビを見た時のショックは、今でも心の中にある。
(あゆみ幼稚園 西谷 里美 保母)
- あまりの恐怖に地震ということが認識できず、寝たまま家族を呼んでいました。大地震という予測がつかずラジオを聞いて驚きました。
(げだつ保育園 青木智佳子 保母)
- 一体何が起きているのかが分からず、ただベッドの上で天井を見つめているだけで、家族の叫び声でやっと我に返ったくらい驚いた。
(雄岡山保育園 稲垣 洋子 保母)

鷹取中学校内保育支援

月・日	要請及び打ち合わせ内容	神戸担当コーディネーター	神戸担当保母	(要請人数)
3/10 金		↑ のぞみ仲沢・北須磨横山	↑ のぞみ保母2人	↑
11 土		↓ のぞみ仲沢	↑ のぞみ保母2人	保母1人
12 日	↑ 大阪コーデイネーター(水野) でんでん虫			
13 月			↓	↓
14 火				
15 水				
16 木	↓	↑ 全私保連	↑ 新生寮2人、湊川1人	↑
17 金		↓ コーデイネーター	↑ 新生寮2人、湊川1人	保母1人
18 土			↑ 同朋保母2人	↓
19 日			↑ 同朋保母3人	↑
20 月			↑ 西神戸YM保母3人	保母2人
21 火	↑ 大阪コーデイネーター		↑ みのり保母1人	
22 水		↓ PM2:はまわ(市川)引き揚げる 荒木氏が連絡入	↓ 同朋保母3人	↓
23 木				
24 金				
25 土				
26 日				
27 月				
28 火	↓	↑ 野田(三重県)	↑ 北須磨保母2人	↑
29 水		↑ 野田(三重県)青谷 藤田	↑ 北須磨保母2人	保母2人
30 木		↑ 明照(保父)青谷 藤田	↑ 北須磨保母2人	
31 金	↓	↓ 明照(保父)	↓ 北須磨保母2人	↓

+++++

- グラ!「あかん死ぬ!」頭の中でそう思いながら、揺れる電燈を見つめていた。つぶれそうな家だったのに、よく壊れなかったなー。
(雄岡山保育園 堀家 徳子 保母)
- あっ!地震!! ガスを消さねば!! 消えていた。元栓をしめる。2階から3人駆け下りてくる。よかった家族4人無事で。でも他の人は?
(雄岡山保育園 仁 訓子 調理員)
- 揺れを感じとっさに布団に潜った私の上にドカドカといろいろな物が落ちてきた。後で見るとぬいぐるみだったがあの恐怖は忘れられない。
(大池保育園 宮畑 裕子 保母)

鷹取中学校内保育支援

	担当コーディネーター	天隣乳児保育園	神視保育園	新生寮保育所	備考
3/31 金	↑でん虫 横山(北須磨)	田中・大田・池上	安藤・大前	三沢・山中・平岡	(勤務時間 AM. 8:00~PM. 6:00)
4/1 土	岩本(神視) ↑				
2 日					
3 月					
4 火					
5 水		↓	↓		
6 木	↓↑ 前田(天隣)	田中・豊島・高木	竹下・堀田・益留	↓	
7 金		豊島・高木		三沢・吉田・稲田	
8 土					
9 日					
10 月					
11 火		↓	↓		
12 水	√↑ 吉田(新生寮)	山崎・豊島・中林	竹下・鈴木・小野田・岩波	↓	
13 木		山崎・大田・中林		三沢・吉田・稲田	
14 金					
15 土					
16 日					
17 月					
18 火	↑↓ 岩本(神視)	↓	鈴木・安藤・大前	稲田・山中・平岡	
19 水		豊島・田中・池上			
20 木					
21 金					
22 土					
23 日		↓	↓	↓	
24 月	↑↓ 前田(天隣)	山崎・高木	安藤・竹下・堀田・益留	三沢・吉田・稲田	
25 火					
26 水					
27 木					
28 金					
29 土					
30 日	↓	↓	↓	↓	

+++++

- 地震直後恐かったが自分でもかなり冷静だったと思う。何も落ちてこなかった、痛い思いもしなかった。24時間後私の家は灰になっていた。(大池保育園 中杉 真子 保母)
- 地震に続いての停電。真暗闇で不安の中、懐中電燈とラジオの情報は、本当に助かりました。改めて、備えの大切さを痛感いたしました。(大池保育園 小林 陽子 調理員)
- 激しい震動に最初は何が起こっているのか分からず、ただ左右に揺られながら外へ出ることに必死だった。恐ろしさは全くなかった。(聖ミカエル保育園 浜口真生子 保母)

4月保育支援計画表（新生寮保育所）

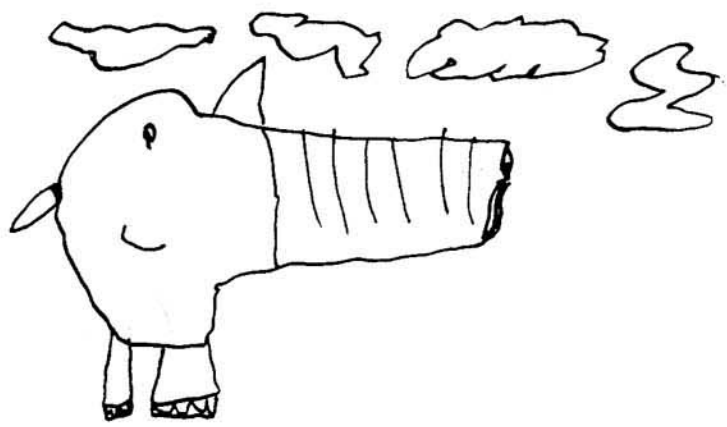
	1土	2日	3月	4火	5水	6木	7金	8土	9日	10月	11火	12水	13木	14金	
1 山本 武志	園業務														
2 平瀬 裕子	しあわせの村														
3 三澤 宮子	鷹取中					6					10—のぞみ(保)	12	13—鷹取中		
4 山中 悦子	鷹取中				5			7—神戸(保)	11		12	鷹取中			
5 澤 裕美				3—あゆみ(保)	6	7—	鷹取中				12	14—			
6 稲田 佐和					4—舞子(保)	5	6—	鷹取中			11	13—舞子(保)			
7 吉田いずみ	鷹取中				5			7—あさひ(保)	11		12	鷹取中			
8 永松 正子	園業務														
9 平岡 陽子	鷹取中										11	14—			



+++++

- 頭の中は真っ白で、ただ布団をかぶって、地震の揺れを感じながら地震が収まるのは今か今かと待ち続けることしかできなかった。
(聖ミカエル保育園 高橋 美穂 保母)
- 1月17日、午前5時46分、いつもなら、早朝練習にでかける息子の弁当づくりをしている私。この日に限って命びろいした私です。
(ゆりか保育園 原 典子 保母)
- どうして長田が…。地震に対しての憤りと悲しみそして憎しみでいっぱいだった。地震が奪った幼い命を取り戻したい。地震が憎い！
(神戸保育園 宇都宮貴美子 保母)

15土	16日	17月	18火	19水	20木	21金	22土	23日	24月	25火	26水	27木	28金	29土	30日
			18	20— のぞみ(保) —			24			25— 鷹取中 —					
			17	19— 神戸(保)— 21			24— 鷹取中 —								
			あゆみ(保) — 18	19— 鷹取中 —			24			26— あゆみ (保)-29 30鷹取中					
			17	18— 鷹取中 —			23			25— 舞子(保) —					
			18	20— あさひ(保) —			24			25— 鷹取中					
— しあわせの村 —			18	19 — 鷹取中 —			24			28 — しあわせの村					

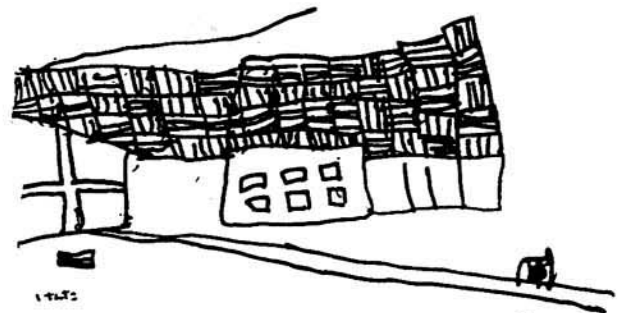


+++++

- 火の手が2~3カ所から出ていた。数時間後当り一面黒煙がたちこもる。戦争を知らない私は空襲を見たような気がした。
(ポートピア保育園 本郷 智子 保母)
- 深い眠りの中にいた私に大きな揺れが襲ってきました。揺れが止むまでは一步も動けず布団をかぶっているのが精一杯でした。
(ポートピア保育園 圖師安津美 保母)
- あの朝から一週間後に私は初めて変わりはてた神戸を見た。ポー然と立ちすくみ涙が止まらなかった。その日から自分が強くなれた。
(ポートピア保育園 柴田三枝子 保母)

4 月 保 育 支 援 計 画 表 (神 視 保 育 園)

	1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日	10月	11火	12水	13木	14金	
1 竹内 正枝	園業務														
2 岩本 幸子	鷹取中コーディネーター					6	9				園業務				
3 竹下 聖子	しあわせの村				5	6	鷹取中								
4 鈴木 初穂	北須磨(保)										11	12	鷹取中		
5 堀田 優子	退職 (4/4)														
6 吉田 桂	菅原(保)														
7 安藤 奈津子	鷹取中						7	10				ちびくろ(保)			
8 大前 直子	鷹取中				5	7	あゆみ(保)								
9 松長 頼子	菅原(保)														
10 河原ともえ	ミカエル(保)														
11 牧野 紀子	ミカエル(保)														
12 室 まき	六甲小ボランティア								9	10	賀川記念館				
13 小野田陽子	みのり(保)										11	12			
14 岩波 紀子	みのり(保)										11	12			
15 益留 和子	しあわせの村				5	6	鷹取中				11	14			



+++++

- 就寝中で、何が何だかわからない状態でした。震災直後は、これほど大きな被害があったとは、まだ想像もつきませんでした。(ポートピア保育園 藤岡 祥子 保母)
- 眠っている時、突然地震がおこり、なにがなんだかわからなかった。これから、どうしたらいいのかもわからず、ボウゼンとしていた。(ポートピア保育園 伊藤 栄子 保母)
- AM5時46分。もちろん熟睡してました。突然の大揺れに目が覚め、私はぬいぐるみの下敷きでした。もう二度と経験したくないです。(ポートピア保育園 煎塚 真弓 保母)

15土	16日	17月	18火	19水	20木	21金	22土	23日	24月	25火	26水	27木	28金	29土	30日	
		17	18	鷹取中コーディネーター				24					27	園業務		
		17				20	—しあわせの村—		23		24	鷹取中				
		17			19	北須磨(保)										
		17	18	鷹取中												
		17	18	鷹取中			23				26	あゆみ(保)				
		鷹取中		17				20	みのり(保)							
		鷹取中		17				20	みのり(保)							
		しあわせの村							24		25	鷹取中				



+++++

• そのとき私は泥海の中に無事な園の姿を見た。しかし子どもたちは？職員は？私は泣くのを忘れて通じない電話機に取りついていた。
(ポートピア保育園 西舩 通子 園長)

• 朝食準備中につき上げる揺れで引戸の食器棚からガラス類が飛び落ちる。体は震え隣から大丈夫かと声があった時手を取り合い助かった思い。
(鈴蘭台保育園 有野 豊子 調理員)

• 一瞬の出来事！地震と気づき飛び出したいと戸を開けたがただ静けさが残った後の悲惨さ、私は決して忘れない、心にしっかりと焼き付けました。
(鈴蘭台保育園 境 千恵 主任保育)

4 月 保 育 支 援 計 画 表 (天 隣 乳 児 保 育 園)

	1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日	10月	11火	12水	13木	14金	
1 真部 マリ子	園業務														
2 岡島 久枝	園業務														
3 宮田 三枝子	しあわせの村														
4 豊嶋 美和子	明照(保)				5	6	鷹取中				11	14			
5 後藤 真由美	ルンビニー(保)														
6 小倉 信子	長田東(保)														
7 田中 佐和	鷹取中					6	9				神戸(保)				
8 片山 瑞枝	産休														
9 中村 ゆみ	あさひ(保)										11	12	鷹取中		
10 池上 綾	鷹取中				5	8				北須磨(保)					
11 山田 敬子	ルンビニー(保)														
12 神原 歩	友愛(保)														
13 斉藤 美保	のぞみ(保)														
14 鹿村 いせ	長田東(保)														
15 前田 斉子	舞子(保)				5	6	鷹取中コーディネーター				12				
16 山下 真理	退職														
17 西本 理恵	友愛(保)														
18 長崎 ひろみ	鷹取中				5	8				しあわせの村		12	13		
19 高木 真理	青谷(保)				5	6	鷹取中				11	14			
20 山崎 悦子	しあわせの村										11	12			

+++++

• 「ダン、ガタガタ」これは只事ではないと思ひ横にあった食卓の下に身を寄せた。後日、園児職員共に無事であったのが何よりの幸せです。
(鈴蘭台保育園 境 明子 園長)

• ドンとつき上げられ一瞬にして神戸の町が戦後の焼け野原のようになってしまった。私はただ呆然として何もかもが夢のように感じた。
(つぐみ保育園 井上 佳子 保母)

• 地震が来たら火も消せ元栓を閉めろ!! 火を消すのが精一杯。改めて知りました緊急時特に恐怖時の動作がいかに鈍いかということ…。
(つぐみ保育園 岩本久美子 保母)

15土	16日	17月	18火	19水	20木	21金	22土	23日	24月	25火	26水	27木	28金	29土	30日
明照(保) ————— 18 19 ————— 鷹取中 ——— 23 26 ————— 明照(保) ———															
————— 18 19 ————— 鷹取中 ——— 23 26 ————— 神戸(保) ———															
————— 18 21 ————— あさひ(保) ———															
————— 18 19 ————— 鷹取中 ——— 23 25 ————— 北須磨(保) ———															
15 — 舞子(保) ————— 22 24 ————— 鷹取中コーディネーター ———															
鷹取中 ————— 18 21 ————— しあわせの村 ———															
————— 青谷(保) ————— 22 24 ————— 鷹取中 ———															
鷹取中 ————— 18 21 — しあわせの村 — 23 24 ————— 鷹取中 ———															

+++++

- あの揺れがおさまって、おそろしさに震えていた我が子を抱きしめながら、二度と、こんな体験をしなくてもすみますように祈っています。
(つぐみ保育園 森本 綾 保母)
- 地震発生約1時間後、出勤途中に見た道路の段差、つかない信号、公衆電話に群がる人々、別世界に一人とびこんできた気がした。
(つぐみ保育園 片山 恭子 保母)
- 地震が起きた日から水やガスは完全に止まってしまいました。いつもなら当然のようにある水やガスの大切さを、その時痛感しました。
(つぐみ保育園 高山 基美 保母)

5 避難所として

神戸市私立保育園連盟に所属する保育園のなかには、被災しながらも、地域の人たちの避難所として施設を提供し、大変、苦勞された園がある。

被害の大きかった灘区の北に位置する「同朋保育園」と、南にある「ゆりか保育園」は、いずれも、地震直後から、避難所として動いたのである。

ゆりか保育園は、教会付属の園であったことから、家が全壊した教会員や、園児の家族、その知人、といった人たちが避難してきた。同朋保育園では、東灘、灘区に居住する人たちが、自宅の全半壊、一部損壊で、避難しにきていた。

とるものもとりあえず、園長と施設内あるいは区内に居住している職員が、園に駆けつけ、同朋保育園は保育室をすべて、ゆりか保育園は4室のうち半分の2室を避難者のために明け渡した。

灘区災害対策本部へ、避難者名簿を提出、援助の依頼をし、その後は、水汲みと救済物資の運搬に明け暮れた。同朋保育園では、1月25日に水道が復旧したことを機に、「避難者の世話だけにとどまらず、復旧・救済で不眠不休の活動を余儀なくされている保護者の子どもたちの保育をしなければ」と考え、職員と相談した。

27日からの保育再開を決め、心を鬼にして、避難者の人たちに、一室を保育室にあけてもらった。

職員のなかには、避難所から通っている者、通勤手段が困難な者もいたが、1泊2日あるいは2泊3日の勤務を頼まざるをえなくなり、大変辛かったと、帆刈園長（同朋保育園）は当時を振り返って言っている。

保育する子どもの数は少しずつ増えていき、2月14日には半数の30人となった。ゆりか保育園でも、登園する子どもの数が増えるにしたがい、保育室が手狭となり、どうなるかと思うと不安であったという。園庭には簡易トイレ、水タンク、かまど、廃材などが置いてあり、「遊び場としては使えなかったので困った」と斎藤園長（ゆりか保育園）は言っている。

+++++

• 私は、震災で失ったものより与えられたものがたくさんありました。人と人が挨拶したり言葉を交すことの大切さを強く感じました。
(西神戸YMCA保育園 舛永 知子 保母)

• 1月17日、私は午前5時30分頃目覚めていました。大きな揺れの中すぐに地震とは分からず日本の終わりのように思えました。
(つぐみ保育園 金野美代子 保母)

• 5時46分。40秒の激震が祖父を連れ去った。二度と会話のできない未知の世界へ…時間は何も解決しない。日々思いつのるばかり。
(げだつ保育園 岩田 真知 保母)

それぞれの園は、その後、避難所を解除され、従来の保育にもどることができたが、今度の経験を通して、感じたこと、考えさせられたことは多かったことであろう。

帆刈園長は、「子どもの心のケアについては、盛んに言われているが、日々、子どもと接している私たち職員の心のケアはどうなのか、震災前と同じ明るさであり正常な心の動きであろうか。小・中・高校の教師の心のケアを本気で考えないと、これからの神戸、21世紀の日本を背負っていく児童を正しく教育していくことができないのでは、と考えこんでしまう」と言っている。

また、斎藤園長は、「園庭にかまどをつくっていたので、早いうちから子どもたちに温かいものを食べさせることができ、ふだんの保育の中で、飯盒炊さんなどしていたことが役に立った」と振り返っている。

この2園のほか以下の園でも下記の期間、避難所となっていた。

〔灘区〕大石保育園（3月末に解消） 光愛児園（1月末に解消）

誠仏保育園（3月末に解消） *以上3カ園は非加盟園

〔中央区〕めぐみ愛児園（1月末に解消）

〔兵庫区〕ちびくろ保育園（2月末に解消）

〔長田区〕みすまる保育園（2月末に解消）



+++++

- 長男が家を出てから連絡なし、心配で家の片付けも手につかない矢先、死亡の連絡を受け、現場に車を走らせ変りはてた息子と対面。
(ポートピア保育園 富永 一恵 副園長)
- 一瞬に、世の中がこんなにもかわった。祖母の死、住み慣れた我が家との永遠の別れ。この地震で、生きることについて考えさせられた。
(鈴蘭台保育園 中西 幸子 保母)
- 1月17日一瞬の出来事だったが身が震えた。家族や家は助かったが我が家に全壊の人の家具を預かった時は複雑な気持ちにさせられた。
(つぐみ保育園 川崎 信子 調理員)

6 仮設園舎が建って

神戸市内全域の空地に、3万戸に近い仮設住宅が建設され、家を失った人たちが不便な中での生活を余儀なくされている。

そのうち、西神地区には、4000戸余りの仮設住宅が建ち、家族を失って独りぼっちになった高齢者や、母子家庭になるなど、大変な状況の人たちが入居している。

このような状況で仮設住宅が並ぶ西神ニュータウン周辺では、入居者が増えるにつれて、子どもたちを受け入れる保育園不足が懸念されるようになった。こうした子どもたちの受け入れについて、神戸市民生局は、西神ニュータウン内にある5カ所の私立保育園の敷地にプレハブの保育室を設置した。

各園30人の定員増（2年間限定）で、受け入れ人数枠を広げることとなった。

仮設住宅からの子どもの入園数は、それぞれの保育園によって違うが、現在は10人から25人ほどで、30人の増員までは満たしていない。

この仮設住宅からの入園児や親の対応については、各受け入れ園がそれぞれの方法で地域の子どもたちの中にとけ込み、親子ともに安心して生活できるよう配慮している。

このように、被害甚大な地域から新しい友達が入園してきたことは、子どもたちや、親たちに、そして受け入れ園にとっても貴重な体験になっているものと思われる。

西神地域では、仮設住宅への入居がすべて終わっており、これからの入園児はあまり増えないだろうと考えられる。各家庭の被害が大きいため、もとの住所に帰り生活できるようになるまでには相当の年月を要するため、仮設での保育は2年では解消できないと予想される。

+++++

- 家は失ったものの家族全員無事だったことを感謝しています。また仕事では子どもたちから笑顔をもらいとても励まされました。
(西神戸YMCA 保育園 生駒 弘美 保母)
- 住む家も無くなり、頼れる一番の人も亡くなりました。園での仕事の中で、その人のありがたみ、家に帰るといえない悲しさを感じます。
(くすの木保育園 松岡 美紀 保母)
- 生まれてから、ずっと住み慣れた家を失った今、何度思い出しても地震が憎い。たくさん思い出のつまった元の家を返してほしい。
(あゆみ幼児園 中原さおり 保母)

• 交通が回復するまでの間、自転車通勤。御影から三ノ宮にある園まで、傾いた家、ビルの間を縫うようにして走り通っていました。
(友愛幼児園 保野 恵子 保母)

• 通常1時間半で通勤できる所を片道5時間近くかけての通勤は体力的に限界がきそうでしたが、子どもの笑顔に励まされ、のりきることができました。
(友愛幼児園 植 恵未子 保母)

• 交通手段が奪われ、翌日より一時間少しかけての徒歩での通勤、歩く苦痛より目にする風景に苦痛を感じる日々でもあった。
(友愛幼児園 森 松美 保母)

• 満員電車での通勤。乗客もマスクをつけ、リュックにズック靴姿。見知らぬ人同士声をかけ合い、励まし合いに何度も勇気づけられた。
(学が丘保育園 亀井理恵子 保母)

• バスに乗るまで何時間もかかり、乗っても渋滞していて20分ぐらいかかる道が1時間以上かかると言われて歩いたことが何度かあった。
(日輪寺保育園 森山 貴美 保母)

• 西宮の家から神戸の園までこの道は続くと信じて、おまわりさんに叱られながらも真赤なジャンパー姿で必死に自転車で走った。
(ルンビニー愛児園 福田 晴美 保母)

• JR神戸駅開通まで1時間かけて原付バイクで通勤しました。道もなく道路はボロボロ自転車バイクも渋滞になり毎日たいへんでした。
(大慈保育園 笹野 美佳 保母)

• 代替バスの通勤で見たものは、通勤苦で不平を言う人々と、頭を下げ「ありがとうございました」と言う駅員さんでした。大変でしたね。
(大慈保育園 前原佳代子 調理員)

• 毎日足のマメと筋肉痛と戦いながら、家と保育園を徒歩1時間半かけて通っていました。晴れているのに黒煙で空が真っ黒でした。
(丸山保育園 松原 倫栄 保母)

• マイカー通勤の私だったが、震災後往復4時間の徒歩になる。変わりはた道のりを歩くのはつらかったが色々な人の暖かさを知った。
(みのり保育園 平林 絵里 保母)

• 普段電車バスを利用している私が、まさか新神戸～板宿を自転車で往復するなんて。人間やる気さえあれば何でもできると思いました。
(YMCA 保育園 宮崎真理子 保母)

• 車で40分の道のりを2時間かかって家に着いた日もありました。ガレキ運搬のダンプの列を横目にのろのろ運転の毎日でした。
(八多保育園 小河めぐみ 保母)

• 地震発生から数時間後、TVから流れる長田区の映像を見て、子どもたちは大丈夫だろうかどうしているだろうかと思うと涙がでてきた。
(神視保育園 松長 頼子 保母)

- 地震直後は、まわりの様子がどうなっているのかわからなかったので、子どもの顔を思いうかべて大丈夫だろうか心配しました。(あじさい保育園 藤岡 英子 保母)
- 激しい揺れの後、保育園や子どもたちは大丈夫かとても心配でしたが、徐々に安否も確認されて職員一同で園の再開のために頑張りました。(あじさい保育園 古曳 尚子 保母)
- 地震直後、園の子どもは大丈夫かな、家具などの下敷きにならなかったかな…私の頭の中をかけめぐり、翌日保育園にかけつけました。(あじさい保育園 前阪 博子 保母)
- 地震がおさまった時、まずはじめに恐怖感があり、次に思ったのは子どものことでした。全員無事だろうか、とても心配でした。(友愛幼児園 戸川 和美 保母)
- ガスや水が使えなかったので、近くの市場でお魚を焼いてもらったり、いろいろ無理なことをきいていただきました。(友愛幼児園 三浦 りか 栄養士)
- 実際に揺れを体験しTVに映る光景がすぐ近くで、いてもたってもいられない思いでした。子どもたちの無事を聞き涙が出る思いでした。(舞子保育園 竹田 真紀 保母)
- 保育園にきてから、子どものことが心配でたまりませんでした。一人一人無事を確認する度に、涙が出る程うれしかったです。(舞子保育園 景山 律子 保母)
- 「どうかみんな無事でいて」と言う気持一心で各避難所へと自転車を走らせた。元気な子どもたちの姿を見て、自分自身が励まされた。(ルンビニー愛児園 嶋田 裕子 保母)
- 私はさっきから何をしているんだろう。そんなはずはないのに。そう思いながらも無事がわかるまで死亡者名から目が離せなかった。(ルンビニー愛児園 木村誉里子 保母)
- 園は？ 子どもたちは？ ガレキの中を一軒一軒尋ね歩く。壊れた家、焼けた家、夢であってほしい、何も悪いことしてない、私の心は叫ぶ。(みのり保育園 新免 志保 保母)
- 背にはリュック、手には数珠、園児の消息を尋ね歩く。全員無事と安堵するも道中で何度合掌したことか。どうか安らかに。命あることに感謝。(みのり保育園 黒川 淳子 園長)
- 北区では比較的被害は少ないが子ども一人一人の状況を把握するために手分けをして家庭訪問を行った。全員無事である。一日も早い復興を！。(八多保育園 川崎 利江 副園長)
- 崩れた家を眺める母の目に涙が浮かんでいました。家を失うことよりも、母を悲しませて父を苦しめる地震を、今でも怨んでいます。(光の子保育園 福田 恵子 保母)

1 行政への対応

あの悪夢から1日すぎた1月18日、全私保連の菅原常務理事と荒木事務局次長が兵庫県に向けて出発したとの情報が入る。新幹線で京都まで、阪急電車を乗り継ぎ西宮北口までたどりついたとのこと。道路の寸断やガス漏れのため、その日のうちには神戸市内にどうしても入れないということで、東灘区でストップ、徒歩で西宮北口までもどったとのことであった。

翌日、西宮市内の一麦保育園で自転車を借り、困難を乗り越えて神戸市内に昼前に到着されたのであった。寒風吹きすさぶ中、また、大変な道路状況の中、遠路はるばる見舞っていただいたその好意に、頭が下がる思いであった。

早速、神戸市役所へ同行する。喜旦民生局長、藤原児童福祉部長、深尾保育課長ら、関係の方々を見舞われたのである。

避難者があの広い庁舎をうめつくしている現実を見て、仰天する。5階の保育課へ階段を昇って行くが、職員をあわただしい動きにあらためてことの大きさを知ったのだった。

市庁舎の南側にある遊園地には、ヘリコプターがひっきりなしに飛来し、救援物資をおろしていく。市職員がリレーでトラックに積んでいる様子を見て、彼らも被災者なのだろうが実にご苦労なことと感謝する。

市内の中心部は、大きなビルがことごとく倒れていたり、傾いている現状を見て、その被害の大きさに声もない。菅原氏と荒木氏は再び自転車で西宮北口に向けて帰って行かれたが、この行動力は実に嬉しかった。

22日に電話回線が復旧、全国の仲間は無事であることと、現状を報告する。

夕方には、全私保連から24日に厚生省に行くので、上京されたい旨、連絡が入る。

23日午後、黒川会長が東京に向けて出発。上京してみると東京は全く普通の生活であり、水道の水が飲めて、風呂に入ることができた幸せを痛感したとのこと。

翌24日に岩堀会長、遠山常務理事、渡辺事務局長、荒木次長、兵庫県保育協会の

+++++

- 家が傾き、怖さと不安の中、避難所生活と家探しの始まりでした。でも、たくさんの人に励まされ、助けていただいて家族でがんばれました。
(まゆか保育園 井上加奈子 保母)
- 家が全壊し、避難所生活が始まった。人のぬくもりを実感し、子どもといる時間がすごく大切に思えた。私は一生この経験を忘れない。
(みすまる保育園 中島 陽子 保母)
- 住む家を失って、今まであたり前に過ごしてきたことがうそのように変わってしまった。この地震で経験したことを私は一生忘れない。
(みすまる保育園 岩本 美奈 保母)

小林副会長と厚生省を訪問、佐々木児童家庭局長と柴田保育課長に面談、「激甚災害ですからでき得ることはなんでもさせてもらいます。頑張ってください。」と、ねぎらいの言葉を受ける。

1月27日、再び全私保連の岩堀会長と菅原常務理事が来神、神戸市役所と兵庫県庁へ見舞いに行かれた。

2月5日の園長会に、渡辺主幹、遠藤係長、矢野係員と今後の保育や対応について話し合う。

その内容は次のとおりである。

(1) 損傷が出ている園舎の全体と、ヒビ割れなど個々の損傷部分の写真を撮っておいてほしい。

(2) 今後の対応についての説明

- ・国へ補助金を要求すると同時に、市の平成6年度補助金予算に組み込みたい。
- ・どの程度の手当ができるか、今のところ分からないが、小規模改修時の4分の3の補助+ α と考えてもらえれば結構かと思う。

(3) 保育状況調査表について

- ・1月16日時点での子どもの名前を書き、その子が現在どうしているか記入してほしい。
- ・FAXで指導係まで送ってほしい。

〔参考〕措置児で他府県、他市へ疎開した総数は627人うち県下へは250人

(4) 措置費について

- ・1月分の措置費は1月1日もしくは1月16日の多い方の児童数で支払う
- ・例えば120人定員で他園からの子ども30人を受け入れた場合（合計150人）については、その分は支払う
- ・1月～3月までの措置費は児童数に関係なく、1月16日現在の子どもの数で支払う（事務費のみ）

+++++

・避難所にいるおかげで、たくさんの人と出会えた。でもその反面、家族内では、いろいろなことがある。一日も早く、落ち着きたい。
(天隣乳児保育園 神原 歩 保母)

・傾いたビル、崩れた家、焼け焦げた臭いの中を歩いて職場に通う。神戸の町は同じ体験を共有する者同志の一種神聖な連帯感に満ちていた。
(連盟事務局 佐藤 範子)

・地震後は「もうダメだ」と思ったが、保育を再開し、元気な子どもの姿を見てファイトがわいてきた。しかし余震がくると恐怖を感じる。
(まゆか保育園 土本 聡子 保母)

- ・市単の補助金については確たる返事ができないが、加配保母分は保障しないといけないと思っている
- ・遡及改定単価表を配布する

(5) 保育料について

- ・1月分は減免する予定であるが、2月3月分については追って通知する。

その後、厚生省に再度訪問して全壊園の職員待遇、園再建のための援助などについて下記要望書に添って協議した。

阪神・淡路大震災
保育所の復興並びに運営に関する要望書

この度の阪神・淡路大震災によって多くの民間保育所が一瞬にして甚大な被害を受けました。被災地域の乳幼児の保育を確保するために、一日も早い復興を願い日夜、懸命な努力をしておりますが、全く予期せず襲われた災害であり、資材が不足がちになり、工賃も普段より高騰し復興を極めて困難にしております。

つきましては、このような民間保育所の現状と苦衷とをご理解下さいまして、次の諸事項の速やかな実現にむけて特段のご配慮を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

(施設整備費関係)

1. 被災保育所の復興にかかわる解体費、施設・設備整備費の法人負担を、免除もしくは大幅に軽減されますようお願い申しあげます。
2. 仮設保育所にかかわる経費の法人負担をなくされますようお願い申しあげます。
3. 被災保育所の復興に要する建築費用の補助は、原則として実勢価格により行

+++++
 ・バス、電車のストップが続き、道路は交通渋滞で私はしばらく自転車で通いました。行き40分、帰り2時間の苦労は忘れられない。 (みすまる保育園 玉井真由美 保母)

・震災後、通勤手段もなく途方にくれた。動いている交通機関と往復1時間の徒歩で約半年つないだ。自分でよくがんばったとほめたい。 (天隣乳児保育園 小倉 信子 保母)

・あの地震で通勤に毎日30分歩く日々が続き最初はとても苦痛でした。でも焼け野原を見ているとがんばろうと勇気づけられました。 (みすまる保育園 磯部 和代 保母)

なわれますようお願い申し上げます。

4. 被災保育所が全壊・全焼又はこれに準ずる被害をうけた場合は、当該保育所にかかわる社会福祉・医療事業団からの借入金未償還額（元利とも）の償還を免除もしくは大幅に軽減されますようお願い申し上げます。

(運営費関係)

1. 平成7年4月以降においても復興に要する期間中、平成7年1月16日現在の在籍児童数による措置費及び特別保育事業補助金を支弁されますようお願い申し上げます。
2. 措置児童の属する世帯が著しい被害を蒙った場合は、保育料を全額免除されますようお願い申し上げます。

平成7年3月13日

神戸市私立保育園連盟
会 長 黒川 恭眞

(社)兵庫県保育協会民間施設部会
部会長 小林 公正

(社)全国私立保育園連盟
会 長 岩堀 法道

厚生大臣
井 出 正 一 殿

+++++

• 朝6時真っ暗な道。リュックと運動靴で駅に向う。西宮で代替バスに乗り継ぎ歩いて、10時過ぎ園に着く。4時に園を出る。家に着くと9時。
(美德保育園 中野 貞子 園長)

• 震災後、仕事場へ行く手段がなく、歩いて通った日が何日かありました。あの時の辛さは今でも忘れられません。
(みすまる保育園 矢吹 智恵 保母)

• 崩れそうな家の下を通り、恐いなあと思つての通勤は人の波にもまれバス待ち1時間半、乗り換えを2回、3時間以上かかっていました。
(美德保育園 笹俣 美佐 保母)

また、5月には兵庫県社会福祉経営協議会からも、厚生大臣あて、下記の要望書を提出した。

阪神・淡路大震災福祉施設復興 要望書

- 1 突然の大震災に遭遇し、法人として財源の準備もない中で被災福祉施設の改善・改修は、従来の補助に加え、加算をお願いします。
- 2 被災福祉施設の改善・改修にあたっては、在宅福祉の拠点施設としての機能をもつ「復興」をコンセプトにしていただきますようお願いいたします。
- 3 耐震構造等防災対策に万全を期した施設建築基準の見直しを図って下さい。
- 4 備品・什器等についても、利用者の処遇の向上や事務の合理化が図れるような実態に見合った補助をお願いします。
- 5 国庫補助協議書提出後、余震等のため新たな被害が生じた施設もあり、これらの救済措置を講じて下さい。
- 6 ボランティア活動の推進について
今回の震災では、多くのボランティアが活躍しましたが、それらの活動をサポートするため、すべての社協にボランティアセンターの配置が重要となっています。
この実現について、格別のご配慮をお願いします。

- +++++
- 自宅より被害の大きかった子どもたちの家。電話連絡もままならず、一人一人の顔を浮かべながら、随分長い日々が流れた気がします。(出合保育園 岡本 理恵 保母)
 - リュックにズボンにポリタンク。時間通りに走らない電車とバスに焦りを感じながらも、車窓の青いシートの波に心が痛みました。(出合保育園 松田 道子 保母)
 - 今までは、何となく乗っていた電車だったが、震災後のバスや歩いての出勤の中、あらためてありがたさを感じた日々だった。(青谷愛児園 井上 清美 栄養士)

《資料》

措置費の支弁方法について（厚生省の考え方）

適用期間：平成7年 1月分～3月分

適用対象：措置費の支弁、徴収、負担、補助

対象：阪神・淡路大震災により被害を受けた者及び施設

- ・ 月初日の措置児童数に特に著しい変動のない施設
定員を超えて（緊急）措置した場合

月初日入所の場合	月途中入所の場合
[定員を超えた児童数] × [保育単価]	$\frac{\text{保育単価}}{\text{措置月の日数}} \times (\text{入所日} \sim \text{月末までの日数})$ <p style="text-align: right;">* 1円未満を切り捨てる</p>

（緊急）措置をしても定員に満たない場合

月初日入所の場合	月途中入所の場合
従来どおり	$\frac{\text{保育単価}}{\text{措置月の日数}} \times (\text{入所日} \sim \text{月末までの日数})$ <p style="text-align: right;">* 1円未満を切り捨てる</p>

+++++

- 倒壊した家屋を横に見ながら、毎日怖々、自転車での通勤。その疲労はかなりのもので、普通に通勤できることの有難みを感じた。
(聖ミカエル保育園 中川美奈子 保母)
- 自転車で約1時間かけての通勤が続き、帰宅するとかなりの疲労を感じたが、子ども達と1日すごした後の充実感の方が大きかった。
(聖ミカエル保育園 向井 佐保 保母)
- 朝5時始発電車で揺られ、夕方バス待ち2時間、乗って2時間以上、家路に着くのに約5時間、いつもなら1時間と少々なのに…。
(ゆりか保育園 光武なぎさ 栄養士)

・月初日の措置児童数が著しく減少した施設

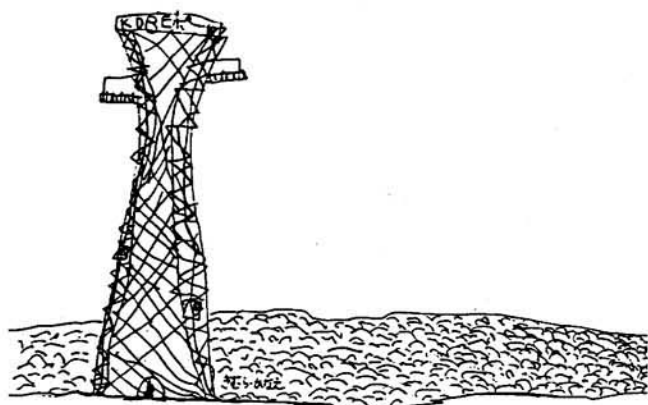
震災による倒壊園には2月分～3月分は支弁されない。

	事 務 費	事 務 費
措置費	<p>どちらか多い方の人数</p> $\left(\text{保育単価} - \text{一般生活費} \right) \times \left(\frac{1}{1} / \frac{1}{16} \right)$ <p>の措置児童数</p>	$\left(\text{一般生活費及び児童用採暖費} \right) \times$ <p>月初日の児童数</p>

※月途中に入所があった場合

〔 月途中入所児童の一般生活費及び児童用採暖費 〕

$$\begin{aligned} &\Rightarrow \frac{\text{一般生活費及び児童用採暖費}}{\text{措置月の日数}} \times \\ &\Rightarrow \text{(入所日～月末までの日数)} \\ &\quad * 1円未満を切り捨てる \end{aligned}$$



+++++

●寒さに震え暑さに耐えたつらかった代替バス生活。電車の有難さが身にしみた日々。今、前のように普通に通えることに感謝したい。
(ゆりか保育園 林 愛子 保母)

●代替バスのみだったため、片道5時間半かかり3月から3時間半が続き、6月に入り2時間15分となったが通常まであと1時間の短縮である。
(ポートピア保育園 橋本賀永子 保母)

●ポートルライナー代替バスに乗るために列の最後尾につくこと20分。ひたすら待ちつづけた半年間であった。
(ポートピア保育園 小川 忍 保母)

2 園の復旧

園舎の復旧については6月上旬、厚生省と大蔵省が見積書にしたがって現地に入り、実質復旧にかかる費用を算出する。概ね、実勢価格の80%が公金支出となり、国6分の4、自治体6分の1が支弁されることとなった。残り6分の1は法人負担、なお、復旧費用が300万円以下の所は、実施調査はおこなわれなかった。

当初緊急を要するものについては、平成6年度の補正予算で復旧工事がすすめられたが、災害復旧工事の事務手続きの注意事項は、次のようなことが示された。

- (1) 見積書は、一式は認められず、細かく記載された明細が必要で、「〇〇一式」は認められない
- (2) 総工費30万円以上が復旧工事として認められた
- (3) 復旧工事（旧に復する）であって、復興工事（元より良い修復）は認められない
- (4) 6分の1負担とのことであるが、当初は4分の1負担で計算され、後日清算されるとのこと

見積書の提出が急がれたので、ところによっては余震による被害の拡大を見積りもれするなどの事態が発生した。

全半壊など被害の甚大な園については、市社協、県社協、競馬会などの助成金も支出され、関係者一同心から感謝している。

+++++

• 7月31日、ポートライナー全線開通、涙が出そうだった。辛かった自転車通勤を支えてくれたのは、たくさんの子どもたちの笑顔だった。
(ポートピア保育園 小泉 恵子 保母)

• 傾いた家、ビル、焼け跡の中を通過の通勤、胸がしめつけられる思いでした。でも、子どもの笑顔を見たくて通勤、がんばりました。
(ポートピア保育園 井上 和子 保母)

• 私の職場があるポートアイランドは震災によって孤立、交通遮断された中を自宅から自転車で神戸まで行きひたすら歩く日々が続いた。
(ポートピア保育園 中 恵津子 保母)

社会福祉施設の災害復旧

復旧の程度（原型復旧主義）

災害復旧事業は、災害によって必要を生じた事業で、災害にあった施設を原型に復旧する（原型に復旧することが不可能な場合において当該施設の従前の効用を復旧するための整備をすることを含む。）ことを目的とするものをいうこととされている。すなわち、復旧の程度は原型復旧主義によっている。この原型に復旧することとは、被災前の位置に被災施設と形状、寸法及び材質の等しい施設を復旧することをいうが、この場合の材質等については、社会経済情勢の変化や、復旧事業費の経済性等から、所要の代替材の使用等が認められている。

なお、原型に復旧することが不可能な場合において当該施設の従前の効用を復旧するための整備をすることも認められている。

災害復旧事業費の査定と立会

① 報告

災害が発生した場合、地方公共団体は国（厚生省）に対して被害（被災状況）報告を行わなければならないとされている。

② 協議

地方公共団体は、災害復旧事業の国庫負担（補助）を受けようとするときは、災害復旧事業にかかる国庫負担（補助）協議書等を厚生大臣に災害発生の日から30日以内に提出することとされている。

③ 事業費の決定

災害復旧事業費の決定は、前述の地方公共団体等の提出する資料、実地調査

+++++

• 震災のため、今まで30分で通っていたのが1時間半になり、なれるまで大変だった。今では気候も良くなり、自然を楽しみ通っている。（鈴蘭台保育園 鍛 真理子 保母）

• 西宮から自転車、バイク、地下鉄、JR、阪神、阪急そして徒歩と、あらゆる手段を使って通勤できたのは長田の地に子どもたちがいたからです。（西神戸YMCA 保育園 山ノ井景子 主任保母）

• なかなか電車が開通しなくて、いろいろな方法で通勤しました。普段あたりまえに思っていた交通手段。ありがたさを感じました。（くすの木保育園 前田 広美 保母）

の結果等により、厚生大臣が行うことになっているが、実際の手続きは通常、厚生省から派遣される係官が災害現地に赴き、その調査したところに従い決定される。

④ 調査立会い

厚生省の係官が行う実地調査の際に、財政を主管する大蔵省の立場から大蔵本省の所掌事務の一部を分掌する財務局の係官がその調査に立ち会うこととされている。

これは、災害復旧事業費の性格から、後日、予算要求として厚生省から説明を受けて予算の査定を行うよりは、むしろ、厚生省の現地調査の際に、立会い、できるだけ早く、現地に即応した適正な復旧方法と事業規模を決定し、その予算措置を講じ、災害復旧事業の早期実施に資することを狙いとして実施されているものである。従って、現地において厚生省の災害査定と財務局等の災害査定との間において合意された事業費は、そのまま本省における予算措置に反映されることになっている。

適用除外

異常な天然現象によるものであり、原型復旧の原則等に適合する事業であっても、災害復旧事業の性格、災害復旧制度の主旨等から、次の事業については国の補助、負担を定めている災害復旧制度の適用がなく、国庫負担の対象から除外されている。

① 1箇所の調査額が限度額未満のもの

復旧事業費の規模が小さいものについては、地方公共団体等にとってもそれ程の出費にならないこと等から、1箇所の工事の費用が施設を復旧する場合にあっては、60万円（保育所は30万円）、設備を復旧する場合は、60万円（保育所は30万円）に満たないものは適用除外とされている。

+++++

• 1時間足らずの道のりを2時間以上かけた。人混みにもまれながら考えた。眠たいのは、つらいのは、しんどいのは、みんな同じ。
(くすの木保育園 武田佳世子 保母)

• あの地震以来5カ月間、片道1時間半、電車、バス、地下鉄を乗り継いでの通勤をしました。いつも満員で、とても大変でした。
(くすの木保育園 北野 好美 保母)

• 当時受けもっていたクラスで2人の子が亡くなりました。私は輪廻転生を思い、いつかまた、この子達たちに会えると信じてがんばります。
(雄岡山保育園 堀田 優子 保母)

② 設置者の責に起因するもの

設計の不備等や甚しく維持管理の義務を怠ったことに起因するものは、公平の原則等からして当然設置者の負担において復旧すべきものである。

③ その他

以上のほか、次のものが適用除外とされている。

- ・被災した建物、建物以外や工作物又は設備と同種のものに余裕のあるもの
- ・当該年度に整備計画のあるもの
- ・建物の補修の必要性はあるが緊急性に乏しいもの
- ・工作物及び土地で、当該施設を復旧しなくても、他の施設等に被害を及ぼすおそれのないもの又は業務上、治安上放置しても支障のないと認められるもの
- ・調査前着工を行ったもののうち写真等の資料により被災の事実の確認できないもの
- ・一品目の復旧額が13,000円未満の設備

資料 (神戸市) 災害復旧事業費の審査について

1 国庫補助申請件数 (保育所)

	平成6年度	平成7年度	合計
公立	—	88カ所	88カ所
民間	10カ所	40カ所	50カ所
計	10カ所	128カ所	138カ所

+++++

- 無事かどうか、家が崩れていないかどうか電話の発信音にたよるしかなく、ただ子どもたちの無事を祈るしかなかった。
(聖ミカエル保育園 岡田 裕里 保母)
- 子どもたちの安否が気になり、家や避難所を何度も訪れた。子どもたちの笑顔が見れた時はホッとひと安心、本当に嬉しく思った。
(神戸保育園 中村かおり 保母)
- 皆、無事でいて欲しい、そう願いながらかわり果てた町を歩きまわった。なかなか消息がつかめず涙がこみあげてきた日々を思いだす。
(神戸保育園 木村 圭子 保母)

2 災害復旧の考えかた

「原型復旧主義」を原則とする一別紙参考資料のとおり

3 国庫補助協議のスケジュール（見込み）

～4月21日 厚生省との協議

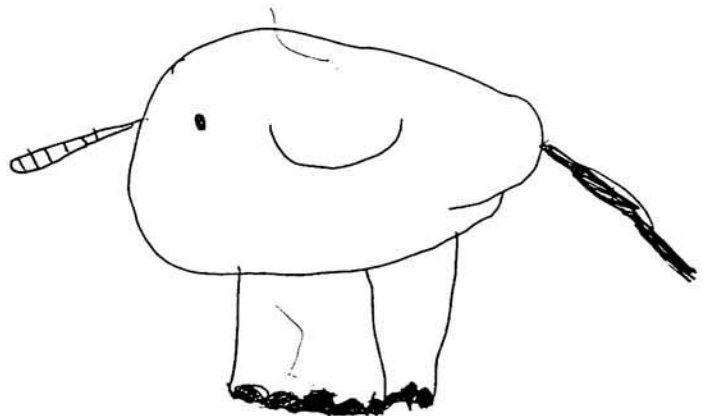
5月連休明け～ 実地調査（現地・書面）

5月末頃 内示

4 実地調査等に係る留意事項

- ① 見積書の改修内容→図面での位置→写真（改修前・後）を明確にしておくこと
- ② 見積書の積算が「一式」としているものは、工事の内容がわかるよう請負業者にその積算内訳書を改めて作成させること
- ③ 相見積りによる経費比較を行い、適正な工事費を求めておくこと
- ④ 現地調査においては、専門的な見地から工事の必要性を説明できるようにするため、必ず施工業者の立会いを求めること

*②の「積算内訳書」及び③の「相見積書」を大至急保育課まで提出すること。



+++++

• 西区ではあまり被害はなかったようですが、怖い経験、思いをし不安になった子どもは多いだろう。2度と災害がこないことを祈ります。（つぐみ保育園 菅野 乙魅 保母）

• 地震後、園へかけつけ無事を確認。家へ戻り園児に電話をするが、つながらず。あれから半年、子どもたちの笑顔を見て、幸せに思う。（弁天保育園 中村美津子 保母）

• 電話の混雑、また避難先のわからない園児もいて、60人の安否を確認するのもすごく手間どる。全員無事を確認しほっとしました。（弁天保育園 松井 節子 主任保母）

兵庫県南部地震に伴う保育所入所措置及び措置費の取扱について

1 保育所が被災し、入所児童が保育所に通所できなくなった場合であって、同一市町村内の他の保育所で保育を行う場合

(1) 他の保育所もしくは仮設の保育所を利用して元の保育所の保母が保育を行う場合

措置は元の保育所で継続する。

措置費は元の保育所に支弁するものとする。

① 事務費については、人件費、管理費の特例単価を設定し支弁する。

この場合2月以降の支弁に当っては、1月初日と1月16日の措置児童数を比較していずれか多い方の児童数で支弁する。

② 事業費（一般生活費）については、各月初日現在の児童数に応じ特例単価（事業費単価）を設定し支弁する。

(2) 入所児童が、他の保育所で保育を受ける場合（受入先の保母が保育を行う場合）

措置は元の保育所で継続する。

措置費は

① 元の保育所に対しては、（職員の雇用の保障等のため）

2月以降の支弁に当っては、1月初日と1月16日の措置児童数を比較していずれか多い方の児童数で事務費（人件費、管理費の特例単価を設定）を支弁する。

② 新たに入所する保育所に対しては、

その保育所の保育単価を支弁する（月途中に入所する場合は保育単価の日

+++++
 ●元気な子どもの笑顔の影には午睡を嫌がるなど心の傷が見え隠れしている。心の傷をいやしていくことが今後の課題である。
 （くすの木保育園 円山 裕美 保母）

●「先生、地震あったね。お家つぶれなかったよ。」震災後、始めて顔を会わした子どもたちの口から聞いた時、みな無事で良かったと思う。
 （あゆみ幼児園 細谷みゆき 保母）

●幸いにも保育園内での死者・ケガ人もなく確認後はほっとした。もし保育中だったらと思うと怖く、日頃から考える必要を感じた。
 （まゆか保育園 石住 真紀 保母）

割り単価とする)

(3) 仮設の保育所を設置し保育を行う場合

措置は元の保育所で継続する。

措置費は

① 元の保育所の保母が保育を行う場合

- ・事務費については、人件費、管理費の特例単価を設定し支弁する。

この場合2月以降の支弁に当っては、1月初日と1月16日の措置児童数を比較していずれか多い方の児童数で支弁する。

- ・事業費（一般生活費）については、各月初日現在の児童数に応じ特例単価（事業費単価）を設定し支弁する。（月途中に入所する場合は保育単価の日割り単価とする）

② 元の保育所の保母以外が保育を行う場合

- ・元の保育所に対しては、（職員の雇用の保障等のため）

2月の以降の支弁に当っては、1月初日と1月16日の措置児童数を比較していずれか多い方の児童数で事務費（人件費、管理費の特例単価を設定）を支弁する。

- ・仮設の保育所に対しては

暫定的な定員を定め、その定員区分に応じ措置費を支弁する。

2 保育所入所児童が被災地を離れ他の市町村で保育を受ける場合

(1) 措置は

原則として新たな居住地の市町村に管外委託措置をする（事務手続きについては、必要最小限の事務手続きでも可）

(2) 措置費は

① 元の保育所に対しては、（職員の雇用の保障等のため）

2月の以降の支弁に当っては、1月初日と1月16日の措置児童数を比較して

+++++

・予期せぬ阪神大地震が起き、その後、元気で登園してきた子どもをみるとほっとした。これ以上の被害が起きないように祈りたい。
(まゆか保育園 朝見 直美 保母)

・地震の後一番に思ったことは、保育中に地震がきていたらと思うと怖いことだなと思います。子どもたちが全員無事でよかったです。
(まゆか保育園 下境 恵子 保母)

・1人だけなかなか安否が分からず心配しましたが確認を取り続けようやく連絡が付き全員の無事を知り、心から安心して喜びました。
(げだつ保育園 奥田 順子 保母)

いずれか多い方の児童数でそれに応じ事務費（人件費、管理費の特例単価を設定）を支弁する。

- ② 管外委託措置児童分については、受入先の保育所の保育単価で支弁する。
ただし、月途中入所の場合は保育単価の日割り計算で支弁する。

3 災害のために新たに保育に欠けることとなった場合

(1) 既存の保育所に措置する場合

① 措置は

被災地で災害により、保育に欠けることとなった児童の措置については、必要最小限の事務手続き等で措置を行うことができるものとする。

この場合、保育に支障がない場合には、定員を超過して入所措置を行ってもさしつかえない。

② 措置費は

受入先施設に従来の定員の保育単価で支弁（月途中入所の場合は保育単価の日割り単価を設定）する。

(2) 災害により、被災地を離れ、他の市町村で保育に欠けることとなった児童が保育を受ける場合

① 措置は

原則として新たな居住地の市町村に管外委託措置をする（事務手続きについては、必要最小限の事務手続きでも可）

なお、長期間に及び住民票登録等の手続きを行った場合には措置の変更を行う。

② 措置費は

管外委託措置児童分については、受入先の住所地の市町村に措置費を支払う。なお、月途中入所の場合は保育単価の日割り計算で支弁する。

(3) 臨時に保育所を設置し措置する場合

+++++

● 不安な気持ちで、避難所を訪ね、子どもたちの元気な顔を見るとホッと、子どもたちから体験話を聞くと涙が出そうになったのを思い出します。
(げだつ保育園 加藤 弘美 保母)

● 震災後、皆の無事を祈りながら、各避難所へ足をはこびました。その時の気持ちはいつまでも忘れることはありません。
(げだつ保育園 長濱 優子 保母)

● 地震直後の長田のニュースをラジオで聞き、「子どもたちは無事だろうか？」保育園が再園されるまで気が気ではありませんでした。
(げだつ保育園 窪田なつ子 保母)

市立の保育所の仮施設として取り扱う。

① 措置は

被災地で災害により、保育に欠けることとなった児童の措置については、必要最小限の事務手続き等で措置を行うことができるものとする。

② 措置費は

当該市立保育所の保育単価を支弁する。(月途中入所の場合は保育単価の日割り単価を設定)する。

4 (1) 上記のとおり、保育に支障がない限り入所措置及び措置費の支弁については弾力的に対応する。

(2) 保育料については減免措置を講じる。

(3) 延長保育その他特別保育事業については、措置費の取扱に準じて行う。

* 上記取扱については、兵庫県、神戸市と打ち合わせが必要



(写真提供 / 神戸新聞社)

+++++

• 悪夢の大震災、驚きと恐怖の中で、通じない電話を何回もかけやっと全員無事の確認がとれた喜び。保育中だったら何人が救えただろう。(まゆか保育園 大岡 記代 園長)

• 焼け野原や倒壊家屋の間を子どもたちは無事だろうか、と祈るように探して回ったあの日。もうあんな思いは二度としたくありません。(美德保育園 高橋 美賀 保母)

• 地震が起き、しばらくボー然とした。テレビを見ると地震や火災の被害が大きかったことを知りとても子どもの安否が気になった。(天隣乳児保育園 山田 敬子 保母)

災害を体験した子どもたちの心は、程度の差こそあれ、大半が傷ついていると考えられる。

災害は子どもたちから大切な家族や友人、家、自分の宝物など多くのものを奪っていった。そして子どもたちの小さな胸の中では、まだあのときの恐ろしさを忘れることができずにいることだろうと思われる。

このつらい時期を乗り越え、こころ豊かにたくましく成長していくためには、子ども自身の力だけでなく、保護者や周囲の大人たちが子どもたちの傷ついた心を正しく理解し、愛情のこもったケアをしていくことが大切である。

ここに、震災を体験した幼児の行動の例を挙げ、そのケアの仕方を考えてみたい。

例1 4歳の他園からの緊急入所児A子は登園時、父親の胸にしがみついて激しく泣きつづける。

考えられる原因として

- (1) 看護婦である母親が震災直後、A子を父親に預け被害の最も大きい灘区へ仕事に出かけたが、交通渋滞で帰宅できず職場で寝泊りする日が続いた。
- (2) 面倒をみていた父親の一日も早く仕事に復帰しようとする姿をA子は察知して、母親のように帰らないのではとの不安があった。
- (3) 同居している障害をもつ叔母が、地震時パニック状態に陥った姿をA子は見ていた。

以上のようなことが原因となり、A子の精神状態が一層不安定となっていったようである。入所一週間後、母親に手を引かれ登園して来たA子は門柱にしがみつきの「ママいかないで」と泣き叫ぶ。

+++++

●大地震、子ども達は親といる時間でよかった。保育中だったらと思うと身震いがした。数日後全園児の無事確認ができた。救われた。感謝です。(天隣乳児保育園 岡島 久枝 保母)

●地震後、子どもたちの安否を確かめるため職員と家を訪ねた。全焼全壊して避難している子どもが多かったが全員無事で良かったと思う。(天隣乳児保育園 斉藤 美保 保母)

●地震後、沈んだ心を明るくしてくれたのは、被災された長田区、灘区の友人達でした。その方々の心強さ、前向きなファイト心でした。(あさひ保育園 今井 真紀 保母)

A子の気持ちが落ち着くまで家庭で面倒を見るよう母親に勧める。母親の職場も少しは落ち着いたということで、園の勧めに応じてくれた。

そして一週間後、A子はやっと笑顔で元気に登園してくるようになった。

例2 2歳女児B子は昼寝の準備をさせようとパジャマを出した途端に泣き出し、絶対に寝床に入ろうとしない。

カーテンを引いた途端、更に大声で泣き出す。部屋の明るい所に連れ出すと泣きやむ。

考えられる原因として

- (1) 震災時、文化住宅の2階に住んでいて全壊。B子は両親の間にはさまれるようにして屋根の下敷きになり約2時間後、親戚の人に助け出してもらった。
- (2) 母親は被災時妊娠6ヵ月のため、自分の身体も気掛かりでB子の全面介助が不可能な状況であった。
- (3) 一時親類宅に身を寄せるが、もともと父親が日雇いのため生活のメドも立たないまま、仮設住宅に引っ越す。しばらくの間両親と一緒に過ごして心の安定をはかれたかに見受けられたが、職探しに出る父親と身体をいたわる母に連れられ約1時間かけて仮設から通園してくるようになる。

+++++

• 幸い家族や家も無事で園へ出勤。電話連絡で園児の無事を確認しひと安心。子ども達が一時避難している体育館へ足を運びました。 (出合保育園 大賀 範子 保母)

• 地震から3時間後、私は子どもたちと共に保育室に居た。寒さと揺れにおびえながら、この子どもたちを守るのは私なのだ!! と強く思った。 (あい保育園 松井 優子 保母)

• 地震によって失ったものはたくさんありましたが、得たものも、多くありました。そしてこれからも子どもたちと共に成長していきたいです。 (げだつ保育園 山崎 湯子 保母)

震災時、B子は強い恐怖心を抱き、暗やみの中にいることが、すなわち恐ろしいことの再発のイメージを持ってしまったようである。

家庭では暗くなるとあかあかと電気をつけ、テレビのボリュームは大きくしなないと恐がり、泣き続ける。寝る時もそんな中で泣き疲れるようにして眠るらしい。保育園では当初、午睡時間になると保母がカーテンの外側（窓ぎわ）で抱っこしたり、廊下の電灯の明るい場所で抱っこして眠たくなるのを待つようにした。

次第にパジャマに着替えるまでになり、そのうちカーテンの外側に布団を用意し、そこにお気に入りのミッキーマウスのバスタオルを敷き、やさしく語りかけながら眠りをさそっていった。完全にカーテンを引いた中で眠れるようになったのは2ヵ月後であった。

〰〰〰

☆ころや体調の変化はないだろうか

災害の恐怖やショックからころやからだのバランスをくずすことがある。

毎日の健康管理が大切で健康に対する母親・保育者のやさしい気遣いは子どもたちに安心とやすらぎを与える。

——— 健康のチェックポイント ———

・ 元気はありますか	・ 機嫌はいいですか
・ イライラしていませんか	・ 食欲は以前と変わりないですか
・ いつもと変わらない顔色ですか	・ 目はいきいきと輝いていますか
・ 皮膚の色つや、張り具合などは変わりがないですか	
・ 病気を思わせるような症状はありませんか	

+++++〰++++

- 交通事情が悪く保育園の門の前に立ったのは地震から4時間後でした。再開する連絡と同時に全園児が無事だと聞き一安心しました。(げだつ保育園 山田真由美 保母)
- 大震災により、生きているのではなく大自然の恩恵に守られ生かされていることを痛感しました。日々保育に生かしていきたいと念じます。(げだつ保育園 山田 諭子 園長)
- 個々を大切に支え合う「共生」が芽ぶき育っている。私たちは今こそ、福祉としての保育の業を目に見える形のあるものにしていこう。(雄岡山保育園 谷口 耀子 主任保母)

☆ 家庭生活はどうだろうか

災害による保護者の不安や悲しみを子どもたちは敏感に感じ取り、動揺することがある。

おとなたちの悲しみが長引くことは、子どもたちのところに大きな影響を与える。

☆ 「赤ちゃんがえり」はでていないだろうか

災害後、子どもたちのところの中には「なぜこんなことになったのだろう」「前のほうが良かった」という気持が生まれ、これがおとなたちへの不満となってあらわれる。こうした不満を少しずつ行動にあらわしているのが赤ちゃんがえりである。

「赤ちゃんがえり」の行動は、子どもたちのところのどこかに恐れや不安が残っていて、「保護」を求めるSOSのサインである。

- ・ お漏らし（夜尿）
- ・ わがママが多くなる
- ・ 指しゃぶり
- ・ 保護者へのべたつき（甘えたになる）
- ・ 必要以上に物をほしがる
- ・ 物をこわす …… など

もし「赤ちゃんがえり」があっても、叱ったり、突き放したりしないで、長い目で見ていくことが大切である。子どもたちは、自分が優しく保護されていることがわかると、除々にひとり立ちしていけるもので、面倒がらず、焦らず、暖かく対応していく。

+++++

- 太陽が昇り部屋が明るくなった時、何もかも床に落ちてしまっている部屋をみて、驚きショックのあまり声も出ないほどでした。
(雄岡山保育園 濱 幸子 保母)
- 今、あんなに大きな地震が起こったらどうしよう、どう避難しようかということがたえず頭の中にあり、緊張感でいっぱいだった。
(雄岡山保育園 植田千津代 保母)
- 祖父母の家が全壊し私たちの家に避難してきた。何もかもを失い茫然としている二人にかける言葉もなかった。半年たった今…元気です。
(雄岡山保育園 酒井まゆみ 保母)

☆ 精神的な支えを子どもたちは求めている

大切な家族を失った子どもたちに対しては、精神的に支えてくれる身近な人が親しさを込めて接することが必要。また、一緒に過ごす時間を少しでも持ち、話相手になることが大きな助けとなるのである。

☆ 子どもたちと遊び

子どもたちが災害の様子を絵に描いたり、遊びに取り入れたりすることをよく見受ける。子どもたちは、絵や遊びを通して不安や怖さを表現し、災害の体験を少しずつ自分の中で整理し、理解しようとしているのである。これらの行動を禁止しないで、子どもたちを見守っていくことが大切である。

(参考資料 (財) 兵庫県青少年本部リーフレット)



+++++

• 震災2週間後に長田周辺を歩き、目にした倒壊した家や焼け跡のあのにおいは、忘れない。息子や娘ができれば、いつか伝えたいと思う。
(雄岡山保育園 大野亜希子 保母)

• 今どきの若者はといわれているなか、今回のボランティアなどでの活躍ぶりを見、心洗われる思いがしました。がんばれ若者たち!!
(雄岡山保育園 紙屋 直美 保母)

• TVで写った上空からの火災現場。どこかで見たことがある。連絡のつかない母。大渋滞で探しにも行けない。2日後に無事を知る。
(雄岡山保育園 山口 昌子 保母)

- この地震で、水の供給救援物資、復興作業など、たくさんの人たちに助けられました。今後、もし災害が起これば何かお役にたちたいと思います。 (同朋保育園 谷口ますみ 保母)
- 震災でボランティアに熱中した我が息子。何を感じたか、今、自分の進路が定まらず、やりがい求めて悩める息子になり親は腕組み。 (北須磨保育園 矢野 和子 調理員)
- 「明日は何が起きるかわからない」ということを今回の大地震で痛感しました。毎日を充実して生きることの大切さを感じるこの頃です。 (神視保育園 岩本 幸子 主任保母)
- 半年が過ぎ、世の中も自分の中でも地震のことは薄れてきている様に思うが、あの時の恐怖は体が覚えている。たぶん子どもたちも…。 (神視保育園 岩波 紀子 調理員)
- 地震が子どもたちの環境を変え心を傷つけましたが、友だちに会え元気にあそぶ子どもたちをみて、友だち同士のかかわりの大切さを感じました。 (神視保育園 竹下 聖子 保母)
- この地震から、普段は当たり前のように思えるすべての物に心から感謝し、日々を大切に過ごさなければならぬことを学びました。 (神視保育園 小野田陽子 栄養士)
- 地震後はとにかく子どもの安否を心配し、長田を走った。園も倒壊しどうなるかと思ったが、仮設で再開できともうれしく思う。 (神視保育園 安藤奈津子 保母)
- 園倒壊、全壊の家、家族はバラバラに。そして大きな絶望。人の暖かさを感じ希望が見えた。私は子どもたちの笑顔と共に頑張りたい。 (神視保育園 吉田 桂 保母)
- 年明け早々に起きた阪神大震災。まだ学生だった私は、残りわずかの学生生活が、不安のいり混じった日々になってしまいました。 (北須磨保育園 松尾由紀子 保母)
- 私は、なんて、地震は怖いものなんだと思った。子どもたちの受けた影響は、大人以上に強く、いつまでも心に残る日となるだろう。 (北須磨保育園 大岡 由佳 保母)
- 私はまだ職員ではなかったのですが、研修の時子どもから出てくる話題は地震のことばかりで、子どもの感じた恐しさを痛感しました。 (北須磨保育園 久保 恵子 保母)
- 幸い被害が少なく胸をなでおろしたものの、落ち着いてみると改めて震災による被害の大きさと目に見えない影響に愕然とした。 (北須磨保育園 日下 聖子 保母)
- 震災により人々に絆が生まれた。もと通りの街には…と言われるが前以上に素晴らしい街になると思う。失った物があるなか得た物もある。 (舞子保育園 飯塚 友子 保母)

• 17日園舎点検。自18日保育開始。緊急児5名。水熱唯不來実施給食。自24日20数名登園、活気満。2月11日生命線復旧。職員歓喜。
(舞子保育園 藤本 典彦 園長)

• ののさまのところへいったしずかちゃん。お空の上でたくさんあそんでいますか。これからも保育園とおともだちのことを見ているね。
(本願寺派湊川保育園 川井 晃子 保母)

• 園舎が全壊で、どうなるかと心配でしたが早々と立派な仮設園舎が完成し子どもも戻ってきた今、良かったなあと思う毎日です。
(本願寺派湊川保育園 力石 朋子 保母)

• 大きな行事も終わり、子どもと思う存分遊ぼうと思っていた矢先の地震で、悔いは残りましたが何とか卒園児を送り出せたので良かったです。
(本願寺派湊川保育園 土井原美貴 保母)

• 家が長田で周りは火の海。1月でありながらその周りは熱く、空が異様に赤く、こげ臭かったことが強く心に残っています。
(本願寺派湊川保育園 重松 美希 保母)

• 震災と共に、飲み水、洗濯、お風呂のもらい水の日々が続いた半月余り、水の有難さ、大切さをあらためて痛感しました。
(岩岡保育園 安福 真弓 調理員)

• 水道が簡易水道のため断水が1日もなかった。またトイレが旧式のため毎日使用できた。園舎も木造鉄板平屋建のため被害が殆んどなかった。
(岩岡保育園 穴田 嘉男 園長)

• 余震におびえながらの保育再開でしたが、何よりも心の支えとなったのは、子どもたちのいつもと変わらぬ笑顔と笑い声でした。
(頌栄保育園 杉浦 尚子 保母)

• 大した被害もないと思われた保育園でしたが地盤沈下のため、保育室の床が30cm程落ちてしまい、保育再開のための補修の段取りに苦労しました。
(頌栄保育園 有田 敏子 事務員)

• 震災の中でも子どもたちには普段通りの食事をしなければと思い、あちこちのスーパーを毎日まわり、材料の調達に大変の苦労をしました。
(頌栄保育園 亀井 静子 調理員)

• 仕事を持っているため近所の方と話す機会もなかったのですが、お水を頂いたりとても親切にしてくれました。人の暖かさを感じました。
(頌栄保育園 澤田 智子 保母)

• 電車で通勤することがたいへんだった時に、職場の人のお家に泊めてもらったりして人の心のあたたかさを身をもって感じられました。
(頌栄保育園 正本 文 保母)

• 地震が起きてから、水、ガス、電気のない生活が続きましたが、日頃あたり前のように使っただけに身にしみて大切さが分かりました。
(学が丘保育園 高吉由美子 保母)

- ガスや水道が使えない状態で毎日が不安だった。でもその中で友人や親類、そして他人を思いやる優しさは今まで以上に大きくなった。 (学が丘保育園 澤田 明子 保母)
- 今まであたりまえのように使ってきた、水やガスや電気が使えなくなった時、自分がどれだけ無駄使いをしていたのか分かり反省した。 (学が丘保育園 樋口 佳子 保母)
- 現実の大変さを精一ぱいクリアして行った日の連続でした。備えあれば憂いなしと言いますが完璧はないので努力を重ねています。 (日輪寺保育園 河端 海栄 主任保母)
- 2月から保育再開となり、元気な子どもたちの笑顔や声が戻りとても救われた思いがしました。この笑顔を失わないように頑張りたい。 (ルンビニー愛児園 澤田 博美 保母)
- 屋根の修理中に雨もりがしてしまい、業者の人が雨の中来てくれて、夜遅くまでかかって直してくれてありがたかったです。 (大慈保育園 尾向 美和 調理員)
- 何とか家族は無事、保育園は無事かな？ とりあえず出勤。水や食料が手に入らず、家には妊婦がいたために、ひとまず姫路に避難。 (丸山保育園 湊川ユリコ 用務員)
- 日常当然の様に使われたガス、電気、水道や、食べ物のない不自由な生活をして、始めてその大切さを知らされた思いです。 (丸山保育園 金子サカエ 調理員)
- 声も出ず、立ってられない程の足の震え、恐怖！そして目の前の現実！時が流れ今思うこと、それは命の大切さと強く生きてゆくこと。 (みのり保育園 河原 明代 保母)
- 人の姿を映し出すプライバシーのない避難所生活、初めて知る人の心の弱さ、冷酷さ、また温かいぬくもりはすべてこれからの自分に！ (みのり保育園 堀元 貴代 保母)
- 倒壊の家で4日間生き埋めになった親友が亡くなった。救助が早ければ…無念です。彼女の分も復興神戸を見届けるのは私の役目です。 (みのり保育園 樫本 信子 保母)
- 友を怪我させ友の母親を奪った大地。悲しみの中、ふと心なごむ花咲かす大地。人間の無力を思う。生かされた命大切に。肝に銘じる。 (みのり保育園 長谷川恵美子 事務)
- 恵まれすぎた生活環境の中、一瞬に消えたライフライン。初めて痛感したありがたさ、大切さは決して忘れずに生活していこう。 (みのり保育園 魚住 昌美 保母)
- 水・ガスが絶たれた。今まで、当り前に使っていた私。給水車まで水をくみに行った。改めて水・ガスのありがたさ・大切さを感じた。 (YMCA 保育園 平岡 淳子 保母)

その朝の出来事は、半年過ぎた今も昨日のこのように鮮かに甦ってきます。同時に、あの大地震が真昼に起きていたら？と思うと、ぞっとします。しかし、今年1年生になる筈だった松田恵子ちゃんと由井貴博君が亡くなり、忘れることのできない悲しみを私たちは担っています。

〔園児の安否〕

倒壊した保育園のまわりの住宅もひどい被害を受けましたので、保母たちは精力的に避難所を回って園児の安否を尋ねて歩きました。長田地区には集まる場所がなかったため、私達はお給料の日に“さくら銀行”の前に集まって、寒風吹きすさぶ中を、園児の消息をまとめたり、連絡事項などの話し合いをもったものです。120人の園児の殆どが被害を受けているのですから、安否を突き止めるのは容易ではありませんでした。

〔再開に向かって〕

混乱が少し落ち着いても、保育再開の見通しもない現状で、職員の処遇をどうしていけばよいか？私の最も大きな悩みでした。中には、「震災のために私に生活がかかってきたのです…」と切々と訴えてくる職員もありました。

「もう長田には子どもはいない。保育園を早く閉鎖した方がいい」の声もあり、事実、八方塞がりでは閉鎖するより方法はないようにさえ思われました。

震災からちょうど一カ月経った2月17日、天隣乳児保育園の真部先生と「やろう。子どもが少なくても再開しよう」と決意し、再建に向けて二人は駆けだしました。私たちはずいぶんいろいろな所に足を向けました。私たちの熱意が通じると、不思議に道は自ずと開けて行き、先づ、長田福祉事務所長さんのお計いで早く保育園舎の撤去ができ、仮園舎建設の運びとなりました。

職員の身の振り方については保育園連盟の理事の先生方が真剣に考えてください

+++++

- 泣き叫ぶ子どもを抱く時、心の深いところから、恐怖が湧き上ってくるかの様でした。「大丈夫よ」と心に語りかけるのが精一杯。
(雄岡山保育園 加藤 雅代 保母)
- 「先生さようならと言ったら大好きな神戸に帰ってこられへん気がするから行ってきますいうわね…」貴女のことを想う度に涙がこぼれます。
(大池保育園 田辺 暁子 主任保母)
- 今まで生きてきた中で最も恐い出来事だったが、この体験を通して改めて何気ないことにどれほど感謝すべきかを考えさせられた。
(大池保育園 長妻 千秋 保母)

ました。そして3月から市内の多くの保育園や他の福祉施設や避難所に支援に行かせていただくようになりました。

連盟加盟の保育園の先生方にはご迷惑ではなかったかと思いましたが、皆さん、快くお引受け下さり感謝の他ありません。

お陰で6月1日から保育園が再開されて戻ってきた職員たちは、一層たくましく成長して生き生きとしておりました。今では毎日、園内に職員の笑い声が絶えません。

〔有形無形の支援に支えられて〕

震災後10日目の寒さの身に滲みる夕刻に東京の保育園の園長先生がおいでになり、保育園のお母さんたちの集めた義援金を差し出しながら励まして下さいました。

その後、思わないところから義援金をいただいたり、遠くの保育園から園児の手になる励ましのお手紙や作品を、他のグループは絵本や炊事用品など送って下さいました。現在北海道にお住まいの元“西神戸YMCA保育園”の園長だった山岸先生からお話を聞いてと、見舞金が送られ感激しました。また、ボランティアの方々に保育園の品物の運びだし作業を手伝っていただいたりして、多くの方々の支援によってここに仮園舎が建ち、小さいながら保育を再開することができました。

日本中の方々に“ありがとう！”

〔広がる交わりの輪〕

この震災のお陰で、私たちは思いもかけない人々と交わる時が与えられました。

お寺さんの奥さんグループから突然電話がかかり、「私達は仏教ですがキリスト教のあなた方に送ってもいいでしょうか?」「私達は仏教保育園の先生たちとお友達ですよ。喜んで戴きます。」とお答えして、送って下さった手作りの西瓜の玩具で園児が遊んでいるところなどをビデオに撮って送ると、またお返事が来たりして交わりが始まっています。

+++++

- 皆の心が、傷を負ってしまった悪夢のような震災、犠牲になった人々の無念の思いを忘れずに、限られた日々を大切に生きたいと思う。
(大池保育園 横江 郁子 調理員)
- 5時46分! その時私は起きていた。T児のケースを書くためだった。私の布団の上には衣装罐が! 日頃手のかかるT児に私は助けられた。
(大池保育園 中杉千代子 保母)
- 通学のため、山の街~神戸まで歩いた時、がれきが崩れるから危ないと車に乗せてくれたおじさんの優しさは今でも忘れることがありません。
(大池保育園 栗原 千晴 保母)

暑くなって、近くの公立保育所から招待されて園児たちは、プール遊びを共にさせてもらい、また、近くの仏教保育園から招待されて人形芝居を見せてもらったりしています。

〔神視の名を大切に〕

仮園舎ができたので、これから本建築にかかろうとしています。長田の地域になくてはならない育児支援センター的施設をつくろうと法人本部で目標が決まりました。

神視保育園とは、法人創始者の賀川豊彦先生が旧約聖書、創世記第21章において、「荒野で飢えと渇きで生死の淵をさまよっていた母子に、神は水の豊かな井戸に導き、命を救われた」その所から四方八方塞がりの中でも、神が必要とされるならば必ず開き給うと。

“神が視給う”これが私達の保育園の拠って立つ基盤なのです。

私たちは、賀川先生のおつけになったこの名前の意義を確かめ神様の信頼に応えつつ、御旨にかなう保育を始めたいと心を新たにしております。



+++++

• 以前住んでいた東灘に行ってみた。街は無惨な姿に。知合いの家の前には花束が置いてあり言葉も失ってただ涙が出るばかりでした。
(大池保育園 松村美智子 雇用員)

• 余震が続く中での保育再開はとても不安があったが、子どもの前に立つとそんな怖さがふっと消えるのを実感した。守るべき者が居ると人は強くなれるんだなと思った。
(聖ミカエル保育園 八張 亜紀 保母)

• 水やガスが使えない状態で、余震におそれながらの保育再開、不便な中でも子ども達の笑顔が増えていくことがとてもうれしかった。
(聖ミカエル保育園 原 佳子 保母)

1 忘れることができない震災から7カ月が過ぎました

震災当時、交通状態がままならぬ中、私達はリュックを背負い歩き回ることの多い毎日でした。まだ保育再開の見通しが見つからない時でしたが、大事な書類や子どもたちの荷物を出そうと思い、余震の不安と寒さにふるえながら、こわれかけた園舎での片付けを何回か続けました。

作業を終えて帰宅途中、見知らぬ人からいただいた食パンのおいしかったこと…。

ようやく再開のメドがつき、解体が決ってからは希望を持つことができるようになりました。その頃は殆どの職員が他の園に出向いていましたが、残った数人の職員達と必死の思いで荷物の持ち出しをしました。ある時など力つきて屋上から荷物を下の運動場に投げ出したりしたこともありました。解体と同時でないと思えなかった屋上の遊具や、せめてピアノを1台でもと思い、夕方暗くなるまでじっと園舎がこわされて行くのを見つめながら、胸のつまる思いでいつまでも立ち去ることができませんでした。

2 仮設での保育開始までの概要

1階が梱包会社、2階が神視保育園、3階が天隣乳児保育園という立地条件の園舎は1階が陥没し、出入口の階段もがれきの山となっていた。

1月18日 つぶれかけの非常階段から入り、やっとの思いで実印、通帳などを取り出す

19日 保育課から、保育は当分中止、園内立ち入り禁止の貼紙をし、連絡を入れながら待機するよう指示があった

20日 御蔵小学校、公民館、区役所などの避難所、近所の子どもの安否確認に出向く

+++++

• 家屋の被害が大きく、親せきや知人を頼って神戸を離れていった子どもたちに送別会もしてあげられなかったことが今も心のこりである。 (聖ミカエル保育園 藤本しげみ 主任保母)

• 今回の震災で人間のもつ温かな心に接することができた。支えられて生きることの幸せを今子どもたちの歓声を聞きながらかみしめている。 (聖ミカエル保育園 牧野 マキ 園長)

• 家が壊れ小野市へ避難。数日後父は倒れ寝たきり老人に。職場のあることといつか家に帰れる希望が様々の苦難に耐えられたように思います。 (聖ミカエル保育園 柏原 芳美 栄養士)

電話でも安否確認をする。電話連絡がとれた子ども3人

- 24日 門に取り付けてあった安否箱で5人の無事を確認
- 25日 1月分給料を支給 さくら銀行上沢支店で10日ぶりに職員が揃う
- 26日 他の保育園などへの保母の応援が始まる
- 2月1日 職員数人で備品荷物などを片付け始める
- 26日 長田東保育所に保母2人出向く
以後、長田東保育所に3人、菅原保育所に2人出向く
- 3月13日 建物の解体が始まる
- 18日 卒園式の準備
- 21日 村野工業高校で卒園式
- 27日 のじぎく会館で仮園舎設計の打ち合わせ
- 4月1日 保育園連盟の計らいにより保母全員が研修のため、他の園に出向く
- 5月25日 避難していた荷物を搬入
- 30日 法人常任理事村山先生と職員一同仮設園舎竣工会をもつ
- 6月1日 入園式
仮設園舎での保育が始まる

3 天隣乳児保育園の歴史

法人創立者賀川豊彦の意志を継承する保育園として、昭和38年神戸長田の同和地区内に開設された。

社会福祉法人イエス団天隣乳児保育園は、私達の恩師である故賀川豊彦先生が大正10年ごろ徳島から医師間島先生を招いて、今の中央区吾妻通に無料診療所を開設された時、その医師の住まいを四番町四丁目に買い求め「天隣館」と命名された御縁で、御地に設立された当園にその名をいただいたものです。

第2次大戦末期に現中央区のイエス団教会が空襲により全焼したため、教会の集会を一時天隣館に移したこともありました。終戦の翌21年から16年間、天隣

+++++

•家は全壊だったので、親せきの家でお世話になりました。今は仮設住宅で生活しています。家が出るまで頑張りたいと思います。
(聖ミカエル保育園 吉村みどり 栄養士)

•園庭にかまどを築き園児たちに温かい食事をと、献立を工夫した。職員で水汲み等、初めての経験なのでみんな一生懸命だった。
(ゆりか保育園 清水八恵子 調理員)

•まだ、1年だけしか生きていないのに…すやすや眠っているような顔は冷たかった。「ぜったいに忘れないからネ」って約束した。
(ゆりか保育園 藤原 智里 保母)

館の土地建物の全部を神戸市に貸すことになって、神戸市立長田保育所として使用されていたこともありました。

昭和37年5月18日天隣館は財団法人イエス団に返還され、同時に当時神戸市になかった乳児保育園の要請があつて昭和38年4月1日から乳児専門の保育園、社会福祉法人イエス団天隣乳児保育園が開設される運びとなりました。

開設当時は3歳未満児36人を園長1人、保健婦1人、保母3人、調理員1人、合計6人の職員で保育しておりましたが、その後神視保育園の新園舎建設計画に便乗して、その3階部分を使用することになり、昭和40年10月定員60人、職員18人を擁して現在の三番町4丁目8に移転してきました。

この度の震災は、保育園の歴史にまた一言加えられる出来事でした。いつどのようなことが起るか分からない人生の歩みの中で、これまで守り支えられてきましたことを思い感謝の気持でいっぱいです。

新しい園舎の建築に向け喜びと希望を持ちながら、私たちは今一度初心にかえり、新しい気持で与えられた大切な業を御旨にかなった歩みができますよう、日々心して励みたいと思います。



+++++

• 某コンビニで地震後食糧を買い出しに行くと中身六百円位のを千円で中を見ることもできずに買わされました。ゆるせない…。
(ゆりか保育園 比良 生子 保母)

• 園児が1人亡くなりました。「何故？」という思いを抑え、子どもたちにどう伝えれば良いのか？保育者としての無能さを思い知らされた。
(ゆりか保育園 中村 綾子 保母)

• すべての物が倒れ、思い出の品も何もかも一瞬にして壊れた。そして多くの人々の命も…。命のほかなさと尊さを感じさせられた。
(ゆりか保育園 高橋しをり 主任保母)

本願寺派湊川保育園副園長 藤井 貴久子

このたびの阪神大震災で、本願寺派湊川保育園は、2日目に『使用禁止』のステッカーを神戸市から貼られました。

はじめの1~2日は、我が身の心配でうろうろしていましたが、園児1人、園児の家族2人死亡の知らせを聞き、自分の仕事をと我に返りました。

子ども達を知るため電話をかけまわりました。園長は、避難所を捜しまわりました。

『今の私に、できることを』を、自問自答しながら働くのです。ひっくりかえった頭のなか、答えはなかなかみつかりません。やっとでてきた答は、とりあえず、子どもたちの保育園での『おもいで』を、救出することでした。余震の続く中、ヘルメットをかぶり、マスクをして、保育園へと入りこみました。

4月から書き溜めた絵は、棚から落ちて、上にテレビがおちていました。おどろぐ箱の中には、本棚のガラスの破片やくずれおちた壁が入っています。1枚ずつ軍手ではたきながら束にしました。壁には、12月に行った発表会の絵が貼ったままになっていました。皆で一生懸命頑張り、完成した合奏・劇あそび…。一人ひとりのセリフが、耳をかすめます。楽しかった場面を思いだしながら、細かく画用紙いっぱい描く子どもたちの姿が思い出されました。その画用紙をとりたいたいのですが画用紙をひっぱると「壁までが動く」という状態です。とりあえず2階の3歳児の部屋へと移りました。

階段を上ろうとすると、段と段がずれ、壁がずれて下のコンクリートが見えていました。3歳児の保育室も隅にあった Hammond オルガンが、部屋の真ん中あたりにまで、歩いてきていました。押し入れの戸がはずれ、中からあらゆる物が飛びだしてきています。

乳児室、着がえをいれていたタンスは、個々の引き出しが飛びだし、子どもたち

+++++

●瓦礫の街の悲惨な光景が50年前の大空襲を彷彿させる。ただ、往時と比べ、平和な社会を背景に持つ現在の有難さをひしひしと感じた。
(連盟事務局 道行 博司 事務局長)

●学生だった私は採用決定していた園に2月中旬からお手伝いに行っていた。不自由な中での保育が続いたが子どもたちの笑顔に救われた。
(神戸保育園 青田 弥香 保母)

●復興の早さに何事もなかったようにさえ思えますが、いるはずの子どもたちの姿がない時、つくづく地震の怖さを思い出します。
(神戸保育園 吉野佐智子 保母)

の衣服がなだれおちています。一人ひとりの着替えを袋にわしづかみにして入れていると、亡くなった小谷静香ちゃんの着がえがありました。「センセ ナニシトン？」と話しかけてくれていたあどけない顔と声が頭の中に、はっきりとよみがえってきます。

出席ノートや製作を取り出して家に持ち帰りました。給食室の冷蔵庫を整理しました。『使用禁止』が貼られたということは、園としての機能は果たせません。断ち切られた交通手段を、克服して出勤してきた職員たちと話し合い『園にある物の提供』を思いつきました。近くに大きな市場がある私たちの生活は『買いおき』がありません。有難いことに給食室には、乾物、缶詰などをいっぱい『買いおき』してくれていました。トイレトーパーやトイレ用の消毒剤もとても大切な物でした。日がたつにつれ、子どもたちも、ちらほらと顔を見せてくれるようになりました。園で食べていたおやつを渡すと嬉しそうな顔をみせてくれます。保護者の方も喜んで持ち帰って下さいました。

月が変わり『緊急特例』ということで、園の子どもたちは近くの保育所に、仮入所させていただけることになりました。一番近くの公立保育所には2/3の子どもたちがお世話になりました。私の子どもたちが通っている所なので、送迎の際、園の子どもたちと会えるのは、とても嬉しいことでした。が、乳児が保護者とわかれる時泣いているのをみると「泣いて、泣いて、やっと慣れた保育園、その園さえ潰れなければ、この子供達を泣かさずにすんだのに…」と思うと涙がこらえられなかった。

園児一人ひとりの消息を、2月号の園だよりにして手分けして配りました。まだ先がどうなるかもわからない中、保母たちも、保護者との対応に大変だったことでしょう。

そんな中、他の保育所からの要請であちこちの保育所にお手伝いにいかせていただくことになりました。本当は「園の子どもたちが行っている所に行きたい」と職

+++++

- 母と2人、重い荷物を持ち、電柱ごとに休み休み西宮北口駅へ向かう途中、親切にも荷物を持ち、励ましてくれた方々の優しさに感謝!! (神戸保育園 池田 雅代 保母)
- 親は、あの瞬間から小さな命を守るために必死だった。親として願う事は、“この時を生きる子どもたち、強くたくましく命輝かせ育て。” (神戸保育園 一宮 茂美 保母)
- 全国の方から送り物が園に届く。心の暖かさを感じながら皆に渡す。物のありがたさを私自身震災を通し、知ることができたようだ。 (神戸保育園 藤森 寿美 主任保母)

員誰もが思っていたでしょうが、私たちは要請をまって動かねばなりません。短くて3日間、長くて10日間。手伝いにいった保母たちは「よい経験ができた」と喜んでいますが、仮入所で他の保育所に行った子どもと同様、とても不安であったと思います。

子どもたちは、この震災で精神的なダメージをかなり受けています。保育者は、同じ被災者であっても、ケアにあたらなければなりません。実際『地震ごっこ』『お葬式ごっこ』など思わず「そんな遊びやめよォ！」と言いたくなるようなあそびが子どもたちを捕まえていました。『地震の絵』もとてもリアルなもので、「寝ているボク」の上に「タンズ」がのっていたり、本棚が倒れてそこいら一面に本が散乱している…という絵もみました。けれども、聞くところによると、そういった表現で子ども達は『心の復興』をしている、とのこと。今は、ただそばからそっと見守るしかないと思いました。

月が変わり、3月1日から2/3が、お世話になっている保育所から『おてつだい』の声がかかりました。1歳児・5歳児とも半数以上がお世話になっているため、精神的なケアと卒園式の準備に各々の担任は、喜んでとんでいきました。子どもたちは一人ひとりとても大きく、たくましく成長してくれていました。

年長児は、日増しに『1年生になる』という自覚もめばえていきました。

4月開園のOKも、神戸市から下り、残りの職員も、卒園式・新学期の準備に追われてきます。それまで、園舎内の荷物の整理やガレキの処理と『保母』の仕事から遠のいていただけに、カンを取り戻すには、多少の時間を、費やしましたが…。

3月25日、予定通りに卒園式。『新しい保育園』（仮設）ということで、卒園児たちは、朝から元気一杯で登園してきました。

例年の卒園式とは違い、10時登園。午前中はいっぱいあそび、お昼は皆の大好きだった『給食のおばちゃんのカレーライス』。昼食後卒園写真を写し、1時から卒園式です。皆の大好きだった体育指導の先生。お世話になった保育所の所長先生と5

+++++

- 震災後の慌しい日々の通勤車内で、思わず涙がほとばしり出た。圧死後全焼したかわいい姉妹の姿が、まぶたの奥で戯れていた。
(神戸保育園 渡邊美津子 園長)
- 夫の実家が全壊。荷物の運び出し、仮設住宅の申し込み、新しく建てる家の設計、6カ月長かったような短かったような気がする。
(鈴蘭台保育園 和泉さかみ 調理員)
- 地震を経験して、仕事仲間、友人、そして家族が互いを思いやり、改めて私は、幸せな環境にいることを再確認できた。感謝している。
(鈴蘭台保育園 青山 理恵 保母)

歳児の担任の先生もお祝いに駆けつけて下さいました。練習もリハーサルも一度もできなかったけれど、心に残る卒園式でした。担任からの要望で、1年間（10カ月）に歌った曲のメドレーをいれました。が、これも3カ月間歌っていなかったことが、うそのように元気よく歌えました。

新年度が始まり4カ月が過ぎました。4月当初定員の6割しかいなかった園児も、9月で9割近くになります。来年度からは、本当の『新しい保育園』に変わりたいと思っていますが、今年度は、いろいろ不自由な面にも出くわすでしょう。しかし、どんなことがあっても『保育者』は、『子どもたち』に支えられて成長するのです。子どもたちの成長に負けないよう職員一同『1』から、スタートしていきます。ゴールを、たぐり寄せながら…。



+++++

• 「災害は忘れた時にやってくる」と言われていますが、いざという時の用意は、常にしておかなければと切実に思いました。
(つぐみ保育園 小池かほる 調理員)

• たった3坪でもうれしいわが家。知人宅に身を寄せていた一家。狭くてもいいからお父さんと一緒に暮らしたい希望が叶って良かった。
(つぐみ保育園 小池 泰代 園長)

• 今、思いかえしてみても私は、今回の震災を経験することができて良かったと思っています。生涯この震災を忘れずに生きていきたいです。
(西神戸YMCA保育園 駒井利有子 保母)

1月17日未明発生した直下型大震災は、尊い多数の命と戦後50年営々として築き上げた財産や数多くの文化施設などに甚大な被害をもたらし、僅か20秒たらずの間にすべてが崩れ去ってしまいました。

どうして神戸には大地震はないと一般に考えられていたのか、震災後地質学者の発言として以前からその危険は指摘されてきたとか、関東大震災の対策に重点が置かれ、学者間でも関西の危険性が重視されなかったなど、対策が講ぜられなかったのは誠に残念でした。

しかしこれらは結果論で、今となっては誰も予知することのできない大自然の猛威に対する人間の力の空しさを、いやというほど思い知らされました。地震当日のことを今思い出すと、突然「ドーン、ガタッ、ガタッ」と大きな音と激しい揺れで、飛び起きる、まともに歩けない、足もとがふらつく、部屋を見回すと置時計やテレビが落下散乱し、その惨状に唾然となりました。しかし幸い家族も安全で拙宅も屋根瓦が少しずれたり、壁に小さなひびが入った程度で被害はたいしたことはなかった。

早速、勤務先の保育所の建物の状況を、一時も早く現場に駆けつけて確認したく、心はあせりにあせりました。しかし交通、通信網、電気、上水道、ガスなどのライフラインや生活のためのあらゆる機能が破壊されてしまい、その上余震に悩まされ続けられ、ただただ恐怖が募るばかりであった。

震災発生当日午前7時頃、長田区に居住している娘が安否確認のため私宅に自家用車で来訪してくれたので、これ幸いと直ちに勤務先の保育所まで同乗し直行いたしました。

園舎は見る影もなく破壊され大きな被害を受けており、水道・ガスはストップし、電話も不通地域が多く、事務室のガラスは割れ、備品類は部屋中に散乱し、書類な

+++++

•この半年、無我夢中で過ごしてきたように思います。一月当初の真剣な気持ちを忘れずにこれからの保育、生活を大切にしていきます。
(西神戸YMCA 保育園 尾崎 陽子 保母)

•私はこの震災で、様々なことを学んだと思います。この経験をどう生かしていくのか、今後の課題として考えていきたいと思います。
(西神戸YMCA 保育園 中山 英子 保母)

•この震災で多くの人々に助けられ励まされました。その中で“心”が見えました。あの頃のみんなの言葉、行動力、一生忘れません。
(西神戸YMCA 保育園 坂谷智恵美 保母)

ども手のつけようもない状態でした。

翌日からは娘の自家用車で、地下鉄妙法寺駅まで行き（マイカーの渋滞あり心身ともに疲労）板宿駅で下車し、徒歩で保育所の復旧整理に努力することになりました。

毎日出務して今後、保育再開復旧計画、保育所園児の安否、被害状況、職員の安否、家庭の被害状況などを調査するとともに、神戸市をはじめ保育連盟との連絡、また情報収集や、区の災害対策本部に各種の申請その他の事務連絡のため出張したり、福祉事務所との連絡など毎日忙しい日々を送り続けました。

1月24日、神戸市民生局長あてに保育所の被害状況報告と今後の見通しについて報告するとともに、市当局の指示を仰ぐべく次のような文書を持参し説明いたしました。

- ① 建物は修理して再使用できないこと（建物基礎と地盤の改良工事必要）
- ② ライフラインはすべて破壊している
- ③ 今後の保育所の運営の見通しについて
 - ア 職員の出欠の取扱いについて
自宅全壊焼失につき避難所生活をしている者
他府県へ避難中の者の取扱い
 - イ 開園不可能（園全壊）のためその期間中の職員の給与をどう取扱うのか
 - ウ 措置費の交付は従来通りされるのか
 - エ 地元住民、保護者に対し、保育実施の見通しについて如何なる説明をし、協力を求めるのか

以上の事項について市当局の指示を仰ぎました。

保育所は危険建物で二次災害の恐れがあり被災の園舎で保育することは、不可能となりました。

幸い隣接の同一法人内の母子寮は被害が少なかったため、その保育室を充当し、

+++++

- あんなに大きな被害になり初めて今生きている事のありがたさそして一日一日を大切に生きていかなくてはと思うようになりました。（明照保育園 赤井 明子 保母）
- よそ事だと思っていた地震。1月17日激震地にいた私は何が何だかわからないまま避難所へ。そこでの2カ月で命の尊さ人の温かさを知った。（明照保育園 松本 妙保 保母）
- 自然の怖さ、人間の無力さを改めて思い知らされた。だからこそ今人間の強さを発揮し、神戸を、前よりも美しい街に創りあげていかなければいけない。（明照保育園 山城 憲子 保母）

保育を希望する既通園児24人を緊急に3月31日まで保育することとし、給食なしで保育を継続することにしました。仮保育室のため、保母その他職員一同大変苦勞をいたしました。

震災後早やくも7カ月を経過しました。私達の保育所も壊滅的被害を受け、その再建に向け1日も早く再開できるよう職員一同心を合せて、日夜奮闘いたしております。

全国の皆様方の暖かい、ご支援と励ましのお言葉を賜り、その上多大な物心両面の、お心遣いまでいただいて誠に有難く深く感謝いたしております。

安全で快適な保育所を再建するようがんばります。

終りになりましたが、今回の地震に遭遇し、その経験から気付いた点を列挙いたします。(今回は在園時でなかったのが幸いでした)

- 1 職員の防災意識の高揚を常々研修しておくこと
- 2 職員各人の災害時の責任分担を明確にして非常時に迅速に機能するよう確認しておくこと
- 3 消防用設備、避難設備などの整備は、不測の事態に対処するため不可欠であるから、これらの設備などの機能が完全に働くか確認しておくこと
- 4 避難訓練の実施の励行
- 5 非常持出の重要書類などはすぐ持ち出せるようにしておくこと
- 6 職員の非常時の連絡網は作成してあっても常時それを有効利用するよう心掛けること

備えあれば憂えなし、の言葉通り災害はいつ発生するかわからないので、平素から心の準備が大切である。

+++++

• つらいこともあったが得ることも沢山あった震災。体験し、得たことが復興の役に立つようにこれからも力を合わせて生きていきたいと思う。
(明照保育園 菅 雅子 保母)

• 今回の地震を体験し人の暖かさを知りました。見知らぬ人が声を掛け合い、助けあっている姿、ボランティアに励む姿に感動をおぼえた。
(明照保育園 峰松江巳子 保母)

• 今回の地震で私は、自然の恐さや人間の無力さを知りました。しかし、人と人との結びつきや協力し合うことの大切さも知りました。
(明照保育園 坂口 努 保父)

- 余震が続き、職員の通勤も困難な時に緊急児の受入れ要請があったが、安全確保の不安があり、十分な対応ができず心苦しかった。(YMCA 保育園 星野 昌枝 主任保母)
- 地震後、テレビで被害の大きさを知り、兵庫区や灘区の友人に電話をかけたがつながらず安否を確認できず、不安な時間を過ごした。(YMCA 保育園 後川 恵 保母)
- 神戸を離れた友だちがいつも言っていた言葉を思い出す。「神戸がいちばんいい所や。」地震が起きて改めて思う。私も神戸が大好きだ。((YMCA 保育園 井上 洋子 保母))
- 地震直後、家族の無事を確認し、不通になる前に電話で親せきに、無事を知らせ、安否を確認しあうことができました。(YMCA 保育園 矢部なつき 保母)
- 祖父母の自宅が全壊し、安否がわかるまでの間、何もできずにただひたすら、電話の前に座りこんで祖父母の連絡を待っていた。(YMCA 保育園 湯浅 慶子 保母)
- 家族・友人など被災者を抱えしばらく大変でした。でもたくさんの救援物資を送ってもらったり、たくさんの人に助けてもらいました。(YMCA 保育園 池田 順子 保母)
- 挙式の五日前だった。できないショックで、寝こんだ。自分って弱いな。でも励ましてくれた周りの人は温かかった。ありがとう。(YMCA 保育園 松原知佐子 保母)
- 地震のことを話してくる子どもの姿を見て、大きな衝撃を受けたことを改めて実感しました。もう二度とあのような災害は起こって欲しくない。(美賀多保育園 岸本 晃子 保母)
- 今振り返ると、余震が続いた時、夜ひとりで居ることが怖くて、家族の帰宅が遅くなると普段より不安になっていたと思う。(YMCA 保育園 由里真砂恵 保母)
- 地震の直後は、大きな被害を逃れたことに自責の念を抱いたりしましたが、半年経った今、その思いも薄れているという事実が怖いです。(岩岡保育園 山路 博子 保母)
- 震災後ボランティアに参加、全国の方々からの暖かい気持ち一杯の物資を吹雪の中で仕訳作業。皆の合言葉は「がんばれ神戸」(めぐみ愛児園 高坂 美佐 保母)
- 地震のため姉や友人の家屋が倒壊し、物やお金よりも人の命の大切さを実感することができました。(八多保育園 神定ゆりえ 保母)
- 地震の恐ろしさを感じて、速報の知らせをきくたびに命の尊さを知りました。町の復興が一日も早く幸せな日々につながりますように。(八多保育園 鷲尾 厚代 保母)

• 震災が起こったことで自然の恐ろしさをしみじみと感じました。私の周りは被害が少なかった分これから何かの形で役に立ちたいです。
(八多保育園 山分 綾子 保母)

• 北区ではあまり影響はありませんでした。友人の家が半壊のため一緒に暮らしました。一日も早く幸せな日々が来ることを願っています。
(八多保育園 水野 由紀 保母)

• 変わり果てた神戸を見て不安を覚えたが、復興の早さに驚いている。また、ボランティアなどの活躍により、人の温かさを改めて知った。
(平野保育園 佐々木美幸 保母)

• 「地震」「震度」そしてあの恐い思い出を今もなお、口にする子どもたち。それを耳にする度、震災の大きさを思い知らされます。
(平野保育園 松岡 美香 保母)

• 今だにあの時の揺れを体が覚えていて、恐怖を思い出す瞬間があります。家が壊れ新築しましたが、不安は消えてません。
(けやき保育園 玉井ひとみ 保母)

• 震災にあった子どもたちの中には大きくなったら「大工さんに、看護婦さんに」と自分の夢を180°大きく変えた子どもたちの言葉が今でも耳に…
(けやき保育園 辻原 千景 保母)

• 震災後、何より嬉しかったのは、たくさんの友人知人、思いがけない人々の励ましと助けをいただいたことです。心がホカホカになりました。
(けやき保育園 谷中 久子 保母)

• この地震が昼間の保育中に起きたとしたら…子どもたちをどこまで安全に守れたかと思うと心のこおる思いがする日々でした。
(けやき保育園 中平 和美 保母)

• 震災後園は二週間後に再開、全園児無事との知らせに胸をなでおろしました。一番残念な事は震災で二人の先生が退園されたことでした。
(けやき保育園 平本 淑子 調理員)

• 仮設保育園での保育は不便な点が多いが、子どもたちは工夫して遊んでいる。子どもの元気な顔を見ると、再開してよかったと思う。
(神視保育園 室 まき 保母)

• 神視保育園が倒壊し、もう神視で子どもたちとすごせないのでは？と思った時もあるが、再び神視で子どもたちと毎日すごせることを幸せに思う。
(神視保育園 大前 直子 保母)

• 6月より仮設で保育が再開。準備時間はいくらあってもたりない。でも、あの時程この仕事をしてよかったと思ったことはない。
(神視保育園 鈴木 初穂 保母)

• 倒壊園舎の前に呆然自失！やがて全国の人々の励ましに支えられ、再び子どもたちの明るい声に包まれて今日も精出す喜びと感謝の日々！
(神視保育園 竹内 正枝 園長)

- 今こそ医師看護婦の子どもの保育開始を、53人の避難者に説明し1部屋をあけてもらう。全壊で避難中の職員に1泊2日の勤務頼む。
(同朋保育園 帆刈 忠春 園長)
- 保育が再開したものの水が出ないため、水くみが日課になったが子どもたちと共に水道から出る水のありがたさを味わうことができた。
(舞子保育園 津村 江美 保母)
- 保育所全壊のため、現在他園へ行っています。早く自分の園で、子どもたちのおいしいご飯を作ってあげられることを楽しみに頑張っています。
(新生寮保育所 平岡 陽子 調理員)
- 保育園が再開できるまでの間、他の園に行くことになり、勉強になる毎日ですが一日も早く私たちの園で子どもたちの笑顔が見たいです。
(新生寮保育所 稲田 佐和 保母)
- 園全壊となり保育不能失望のどん底だった。しかしボランティアとの出会い、愛の激励の言葉に勇気と希望を持ち、今他園の協力によりがんばっています。合掌(ありがとうございます)
(新生寮保育所 三澤 富子 保母)
- 保育所再開までの1年間他の園でお世話になっていますが、それぞれの園の良い所を学び取り有意義な1年となるようにがんばります。
(新生寮保育所 吉田いづみ 保母)
- 水道、ガスの供給がストップの中での保育再開でしたが、子どもたちの元気な姿を見るたびにホッと、頑張ろうと思いました。
(あじさい保育園 岸野 敏子 保母)
- 地震後、園はすぐに再開しましたが、早く子どもが安心して登園できるように、職員一同力を合わせて生活基盤の確保に努めました。
(あじさい保育園 中島 薫 保母)
- 地震後、保育を再開するにあたって、また地震が起こった際、子どもたちを安全に誘導させることを考えなければと感じていました。
(光の子保育園 中川登美子 保母)
- 地震でいろいろな物を失い、いろいろなことを知った。人のやさしさ、水の大切さ、そして命の尊さ、子どもと遊べる喜び…みんな大切にしたい。
(あじさい保育園 井村 千代 保母)
- 「先生ん家、水出とう？ぼくの家、お風呂入れるで。おいでな。」登園後一番にきいてくれました。精一杯の優しい言葉をありがとう。
(あじさい保育園 小窪美保子 保母)
- 余震もまだ多い地震から一週間後、隆起した道を必死に自転車で園へ行くと集まった職員は19人中たった4人。人数の少なさに驚いた。
(光の子保育園 壬生塚亜紀 保母)
- 3月25日。平成6年度卒園式。予行ナシ。普段着。避難先から登園して来た職員。子どもたちそれは皆にとって本当のはじめの1歩だった。
(本願寺派湊川保育園 藤井貴久子 保母)

シンポジウム 「保育ボランティアとは」

1995年11月30日（木）

神戸市医師会館

ゲスト 及川 真氏（滋賀県 真愛保育園）
水野 誠氏（大阪市 くれない学園）
高田 裕之氏（神戸市 西神戸YMCA 保育園）
司 会 仲澤 一彦氏（神戸市 のぞみ保育園）

司 会

ボランティアについての集会をただいまから始めます。

大震災のときに駆けつけてくださって、神戸の子どもたちの保育に力を注いでくださった滋賀県の真愛保育園の及川真先生、大阪私保連の水野誠先生、それから地元神戸の長田で、被災にあいながらボランティア活動に力を尽くされました高田裕之先生です。このお三人の先生方に、あの当時のボランティアの活動としての問題点、そしてまた今後このようなことが起こった時、われわれ保育者がどういうふうな形でその支援活動ができるか、そういったことを話し合っていきたいと思っております。神戸の人達は足元が揺れ動いて何もできなかったときに活躍くださった先生方の話を通して、もう一回われわれの保育の姿勢とか、あるいは内容とか、そういうものを考えていきたいと思えます。

最初に及川真先生から、あの当時須磨の若宮小学校でテントを張りながら、毎日滋賀県から保母さんたちが入れかわり立ちかわり手弁当でやってきてくださいました。本当に寒い校庭の隅のテントの中で、神戸の子どもたちの保育に尽くしてくださいました。それらのことをお伺いしながら始めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

+++++

- 思いもかけない大地震に遭遇し、人の心のやさしさ、水など資源の大切さを痛感した。二度としたくない恐ろしい貴重な体験だった。（明照保育園 大沢 祐美 保母）
- あまりに突然の出来事で本当にびっくりしました。日頃、あたり前に思っていたことがとても大切で有難いものだと実感しました。（明照保育園 澤田あけみ 保母）
- 全員無事で安心したが怖さから不安がる子が、日がたっていくうちに不安感がなくなり、今では、元気いっぱい遊んでいる。（明照保育園 谷口 博美 保母）

及川氏



仲澤先生の方から説明いただいたんですが、そう大したこともやっていなくて、特に私は神戸へ寄せてもらった晩とテントを張った期間中5回ぐらいしか出てきてませんので、あまり大きなことも言えないんですが、ただそれを全国で私立保育園連盟がこの救援活動をするに対しても、初めからの参加でたまたまかかわってましたので、そういう動きを含めてみなさん方に若干内輪の者も含めて保育界がどういうふうに対応したか、またそれぞれの人間がどういうふうに対応して、どういうふうに動いたかというような点も含めてお話しながら、一緒にボランティアとは何なのかということを考えてみたいと思います。

実は、1月の17日に震災があった日、滋賀県の私立保育園連盟の事務局会議が10時から開催される日だったんです。私は大津なんですけど、大津でも、たまたま私がいたところに断層があったんかどうかわかりませんが、非常に大きく揺れて食器棚、ちょうど開くような食器棚で中にあった食器類が全部割れてしまった、9割方割れたというぐらいひどい状態で、これは大変な地震だということだけはわかってたんですが、まだ神戸の情報が十分伝達されておらず、10時に私保連の役員が寄っておったんですが、そのときはそれぞれがみんな興奮してましたが、現地にすぐ行くということを出した先生が2、3人おりました。行けるか行けないかわからないし、早まるなということを行ったぐらい非常に殺気だっていたのです。そういう状況の中で、滋賀県としては当初から、何らかの形で現地へ救援活動に行こうというのが私保連の役員らにあの当時非常に強くあったんです。全国私立保育園連盟も募金活動をどうするべきかというその1点に頭がいていたような感じがしたわけです。そこで、私が滋賀県のそういう状況も踏まえて、お金も非常に大事だけでも、やはり保育界というのは子どもを保育するという専門家ですね、いわゆる専門性をより多く持つてる集団ですので、その保育の専門性を救援のところでどういうふう

+++++

- 学生時代通い慣れた長田の町が変わってしまいました。あそこもここもいろんな思い出のある町や人。一日も早く以前の元気な姿に… (弁天保育園 中谷由美子 保母)
- この震災で失ったものも大きいけれど、得たものも大きかったと思います。我が家は半壊。今生きていること、本当に幸せに思います。 (弁天保育園 福井わたり 保母)
- 多くの命を奪った地震、同じ体験をし、私は運よく生きている。人ごとではなく、我が身として、ボランティアに参加しました。 (くすの木保育園 藤原 知美 保母)

に活用するかをこの際考えるべきではないかという必要を当初からしたわけです。私は保育者としての専門性をどう現地に生かすかということをもろろ考えるべきではないかと主張しまして、大体了解され、一方では募金、一方では救援活動という話が並行的に進む状況になってきた。全国私立保育園連盟としては募金をどのぐらいの目標でいくのか、あわせて救援活動にも当たろうということが決定され、神戸私保連は被災を受けて大変な状況にあるので、大阪の私保連を前線基地にしようということになったわけです。それで、大阪と神戸とが連絡しながら全私保連を経由して全国の組織にそれぞれ必要な救援活動を要請しようというシステムを、全国私立保育園連盟として立てたんです。その後、私らの方はイライラして、一向に伝達がないので、どうなっているのか聞いてみたんですが、なかなか現地からの救援の要請がないということでしたが、たしか2月15日の日だと思いますが、滋賀県としては須磨区の若宮小学校の避難所をとりあえず救援しよう、ということになり、この区域に当たってほしいと全国から大阪私保連を通して私どもへファックスで依頼をされてきたんです。そこで、急きよその体制をとることになったんです。若宮小学校の校長先生は待っておられたようで、「子どもたちのためにぜひやってほしい、何とか皆さんの力で子どもたちを守ってやってほしい」という内容の話をされて非常に歓迎されました。それで、私どもは非常に元気づいてやったんですが、いざとなるといろいろあって、最終的には校庭の片隅をその場所に使ってほしいといわれて、一応確保することができたんです。校長先生は、子ども本意に我々の救援活動を見ていただいたんですが、学校全体の空気は私の感じたのでは、学校としてはやはり授業をできれば早く再開したい、ということです。避難所にボランティアがどんどん入ってくると、授業の再開がどんどん遅くなるということで、余り歓迎していなかったのではないかなと私なりに読んだのです。やはりボランティアに入るときに一番大事なことは、相手の立場を考えることですね。私はそういう理解で、学校は子どもを教育するところで、子どもたちに一日も早く教育環境を与えようとい

+++++

- 私の家のまわりも被害を受け、水や食料を分けあうなど助け合いがありました。ボランティア活動など、人の心の温かさを感じました。
(くすの木保育園 村上 素子 保母)
- 大震災直後、保育園や子どもたちが心配でした。幸いな事に保育園にはほとんど被害もなく子どもたちもみんな元気で安心しました。
(くすの木保育園 三浦 理恵 保母)
- 震災後、指すいやよく泣くなど、子どもの様子にも変化があった。地震のこわさを子どもなりに感じおびえていた幾週間だった。
(くすの木保育園 本郷友紀子 保母)

う、気持ちもよくわかったので、いずれ学校を出ようと、むりのない形で救援活動をしていきたいと最初の段階で考えたわけです。

最後にいつ打ち切るかということが非常に大事な問題になる。一応3月の末をきりにしようか、ということで、校長先生にお話したら、31日でもいいんじゃないかということでした。こちらの方もみなさんの保育所現場が3月から4月に非常に忙しい時期でもあるし、先生の言葉で3月31日で締め切ることを決定したのです。その後、やはり現実の状況のなかで4月10日までやってほしいと言われてまして、私どもは3月31日でやめるということで、その後のローテーションを予定していなかったために困り果て、どうしようかということになって、最終的には児童館の全国連絡協議会の人になかへ入っていただいて、最後の10日だけは全国児童館連絡協議会に助けていただくことになり、4月10日で一応テントを撤収したのです。

滋賀県のボランティアは、初めのほうだけは泊まりで、後はほとんど日帰りでボランティアをさせていただいたのです。数でいくと、大体延べ184人で43日間保育に当たっていただいた。その間、民間の保育園だけでやる方針できたんですが、地元の大津市の短大から申し出があって、ぜひそのボランティア活動に短大生も参加させてほしいということで、生徒さんが24人ほど応援してくれたのです。ある市の公立の先生方が、公立ではそのような救援活動がないので、ぜひ合流させてほしいと20人ほど参加していただきました。

参加した先生方の記録を見ても、「いわゆる心の宝物をいただいた」「参加させてもらってありがとうございました」というようなことをみんな書いてますね。私は、ボランティアというのは、参加することは与えるという気持ちで行くわけですが、やった結果としては与えられたという、与え、与えられる関係だと思うんですね。だから、上からの慈善的な考えでなしに、人と人、いわゆる相手が子どもですけれども、子どもと保育者というのは一線上に並び、保育者がまず専門性を提供することによって、子どもたちが反対にその先生方を場合によっては慰め、励まして

+++++

- 保育ボランティアに行きました。小さなテントの中で少ない遊具を相手に、変わらぬ笑顔を見せてくれる子どもたちに励まされました。
(くすの木保育園 太田 佳奈 保母)
- 幼い命をどれだけ守ってあげられるのだろうか。改めて天災の恐ろしさを感じ、いつどんな時にも対応していける心構えが必要と感じた。
(まゆか保育園 市村 智子 保母)
- 小さい妹がいるので家族5人で5時間かけて西宮北口駅まで歩いた。電車を乗り継いで新潟につくまで生きた心地がしなかった。
(みすまる保育園 米澤華奈恵 保母)

くれる、みんな乳幼児の保育だと思って出ていくんですが、来ている子どもたちのなかには学童もいるわけで、こんな環境どうしていいかわからないので、非常に戸惑うのです。私も若宮の何人かの子どもたちに接して、非常にたくましくて、物すごく自立している子が多くて、「お姉ちゃんサッカーで遊ぼう」などと子どもが先生にいろいろ遊びを教えてリードする。それから、先生がその子どもと一緒に遊ぶことによって、子どもたちはどんどん遊びを創造していくという文化面が随所に見られた。そしてやったことの充実感で、明日の保育にかかろうという決意をして帰ってくる。だから、滋賀県から参加したより多くの人から耳に入ってきたのは、「先生本当に行ってよかった」「自分にとってはものすごくいろいろなことを教えていただいて、本当に感謝しています」という言葉でした。それがボランティアではないかと私は思っています。今後、もしこういうことが起こったら大変ですが、そのときにも同じように、保育者として専門性を現地にどう生かすかということを考えていかなきゃならないと思います。

司 会

滋賀県の保母は、励まされてよかったとおっしゃいましたけれども、見た現実はものすごいものです。本当に寒い中で子どもたちのために保育に当たってくださいました。たくさんの方が交通の不便なときに、若宮小学校まで来てくださいました。連絡不十分、そういう実態を、神戸私保連としても重々感じております。事務局がつぶれていましたので、電話回線が全部不通、その中にいろんな方法で連絡が入りながら、先生方に連絡を取っていただきました。

次に、大阪のくれない学園の水野誠先生ですが、若宮小学校から川をはさんで一つ東の鷹取中学校のなかよし保育園で長い間コーディネーターという仕事についていただき、お世話になりました。朝6時から午後10時か11時まで、学校、住民、ボランティア、各教室の代表者、毎日毎日会議のすり合わせ、明日何をするか、どういうことがあったか、それを持ち帰って、自分の中で保育をどうするかと、そういう

+++++

- 私が住む町に地震が来るとは予想もしなかったので、とても驚きました。この地震では災害に対する対策を考えさせられました。(みすまる保育園 田中 敬子 保母)
- 祖母と家を失い、仕事・子どもたちへの責任感が数日間自分の中から消えていた。地震のことと共に思い出され保母として恥かしく思う。(みすまる保育園 田中 賀子 保母)
- 地震で保育ができなくなり、子どもの笑顔と共に過ごすことの喜びを改めて実感した。あの時の様々な気持ちを忘れず過ごしていきたい。(みすまる保育園 峯崎 智子 保母)

仕事を長い間やってくださいました。

水野氏



1月の19日、災害の次の次の日なんですが、私ども大阪府で幹事15人が現地調査をしようと、10時間かけて神戸へ来て、そのまま帰ったんですが、大阪府も何かしなければということで、2日後に緊急理事会を開き、災害対策本部を21日につくりました。そして、組織内に184の私立保育園があるんですが、そこへ連絡に行き、派遣する保母さんの2カ月間のローテーション表をつくるということでき上がったのが31日、大体3泊4日で3人から4人を派遣することに決まりました。

私は避難所の中に保育園という形をつくったのです。はじめは8時から4時までだったのですが、最終的には5時半まで職員を出してもらいまして、3月の31日までに利用した子どもさん1,411人、そのうち乳幼児が964人、学童が447人利用しました。それと、もう一つ学童クラブというのをつくりまして、学童ばかり集めたんですが、なかよし学童クラブとして小学生対象にボランティア活動をさせてもらいましたが、こちらの方は1,963人、鷹取中学校では避難所で寝泊まりされている方が1,500人、その避難所を利用されている方が大体3,500から3,800人、あの中学校に朝から晩、炊き出しがあるから夕方6時まで、そんな人たちでごったがえしました。運動場は車だらけ、遊ぶ場所が全然なくて、子どもさんは車と車の間で遊んでいたりと、炊き出しの鍋の横で遊んでるなどの状況だったのです。子どもが安心して遊べる場所を確保しようということから初め入ったんですが、こちらの避難所はすごく統制がしっかりできていまして、私どもの保育園のために教室を一つ貸してもらえたんです。どんな保育をしようか、何ができるのかと考えたときに、何をしたいんやろうと一緒にいった保母さんと話し合ったのです。結局、一緒に子どもと遊んでいただけやないかというのです。その中で、子どもは大人と遊んでほしいと思っているけれど、家の人たちは自分の家庭のことだけで手いっぱい、子どもはほったら

+++++

• 今まであまり近所付き合いがなかったが、今回の地震では、いろいろ助け合うことができた。人と人とのふれ合いの大切さを知った。
(美徳保育園 出口 真紀 保母)

・ 道割れのすきまより咲くすみれぐさ ・ 枇杷熟るる園児の声も高まりて ・ つつがなく良い汗かいて夏祭り。
(あさひ保育園 宮武美代子 保母)

• 尊い命を、家族を、生活の場を失われた方のことを思うと自分はなんてしあわせなのか…と思う。毎日を大切に精一杯生きていかなければ…。
(あさひ保育園 高田 裕子 栄養士)

かしという状況だったのです。遊んでいるときは普通なんです、慣れてくるとふっと子どもは私たちの膝の上に座るのです。小学校4年生、5年生、中学校1年生の子まで座りにきたのです。あれ、この子らは何をしてんのかなと思ったときに、大人との触れ合いやなというのをすごく感じました。ここでちょっと話が変わるんですが、保母さんたちといろいろ話をすると、あそこでやってたことというのは、保育園の原理じゃないか、これが本当の保育園と違うかということだったのですが、制度では4歳児以上ですと、子ども30人に1人の保母さんですが、なかよし保育園の場合、5、6人に1人なんです。結構目が行き届くのです。朝から晩まで一緒、食事子どもと一緒に過ごしたのです。

一応安全な場所が確保できたので、つぎに一步進んで、この子どもたちが平常に戻ったときに普通の生活ができるように持っていこうと、3月から方針を変えたのです。一番に僕がそれをすると、今まで自由奔放にしていた子が、こういうことをすると離れていくんじゃないかなという気もしたのですが、子どもはいい方に裏切ってくれまして、食事前には手を洗う、トイレへ行った後は手を洗うというように、あれ！子どもたちは僕らが考えている以上にすごいぞと、自立という表現はおかしいかも知りませんが、子どもは子どもなりに何か今までやっていたことを知ろうとしているのと違うかなと思えたのです。僕らはかわいそうやという気持ちでこの子らに接したらあかんと、ふだんやってる保育に近い保育をしようじゃないかと。保育の原点は何かということで、子どもに接して行こうと始めたところ、今まで全然しゃべらなかつた子が砂場へ行って山をつくり「先生、見て見てこれつくった、つくった」と言って次にぱつとつぶし、「地震や」と。そのとき、ああやっぱり子供は子供なりに心の中にしこりを持っているんだなあと思ったのです。これに対して僕らはどうしたのか、何かできたかといえ、みんなと一緒に遊ぶことしかなかったのです。

保母によってはしつけについての考え方が違うので、余り強く言えなかつたところ

+++++

- 今回の地震で日常生活のありがたさをしみじみと感じました。あれから半年、今私にできることは何か？ 少しでも復興に役立てればと思います。
(あさひ保育園 川崎 順子 保母)
- これほど大きな地震は最初で最後。大勢の人が犠牲となった。今生きていることに感謝し一日を大切に自分に正直に過ごしていきたい。
(あさひ保育園 寺本 恵子 保母)
- 震災後、リュックを背負って長田区へ…家は崩れ、焼けて変わりはた街を見て涙がでてきた。自然の大きな力に無力さを感じた。
(あさひ保育園 中村 祐子 保母)

ろがあった。保母さんは3泊4日でローテーションを組んでいた。「これは前の保母さんに怒られたけど、今度の保母さんには怒られなかった」と子どもの方から言われたりし、それもそうやな、こちらが徹底していなかったのも、それが問題に出てきたと思います。

なかよし保育園では子どものしたいことを一緒にしたという感じで、自由と奔放の違いについて考えさせられた。そして自分のところの保育を見直してる保母さんがいたのが結構うれしかったのですが、縦て割り保育の難しさでもあったのです。保母さんが自分らで感じて、自分らで反省してくれている、この気持ちを大事にして、これからの大阪市内の保育を見直し、厳しくなってくる保育業界を乗り切っていこうじゃないかということで、今回は終えたのです。

司 会

淡々と子どもと遊んでいたと言われますが、毎日来る子が違うのに、来た子の顔をちゃんと覚えていて、親に話しかけた。ローテーションは3泊4日、最後の日が、次の人の1日と重なるようにして流れをつくってきたわけです。

最後は、被災地のだ真ん中にある西神戸YMCA保育園、屋根と屋根とが重なった間を歩いていかなければならなかったとか、入った途端にその壁触ったらあかん、つぶれるでと言われるぐらいの状況の中で保育をされていましたし、またYMCAという組織の中で、全国あるいは地元から集まったボランティアの方を動かして、長田地区のいろんなところで救援活動をしてくださった西神戸YMCA保育園の高田裕之先生に、そのときの状況などを踏まえてお話をさせていただきます。

高田氏

今、2人の先生がどちらかといいますと、災害地外の方から手を差し伸べる立場でいろんなお話をしてくださいまして、私はみなさん方と一緒に地元ということで、地元の中でもちょっと被害が大きいなあというようなところでおりましたので、その立場からお話をさせていただきたいと思います。大変な状況の中で建物が

+++++

• 大好きな映画をたくさん観た映画館の解体。ボー然と立ちつくし見つめ、涙が出そうになりました。思い出もつぶされそうで悲しいな…。 (あさひ保育園 油井かおり 保母)

• 時々、余震が起こる。その度に子どもたちは慣れた様子でそばにある机の下などへもぐり込む。私自身「冷静に」と心掛けていた。 (出合保育園 平瀬加奈子 保母)

• 100万ドルの夜景が一瞬にして地獄。煙で朝日もあたらないうなか水だけを求めていた。一番大切なものは何だろうと感じた。 (青谷愛児園 買手 千晶 保母)

5階建てで共用しておりますけれども、築30年ということで、おそらく全部崩れ去ってるか、燃え尽きてるかどっちかなあと行って行ったんですが、しっかり建っております、ここから本当に何ができるのか、しか考えられなかった。ボランティアということで、いろんなことが言われておりますけれども、正直言いまして理屈じゃなかったのですね、非常に興奮した状態だったと思います。幸い在園児で亡くなった子がいなかったんですが、とにかく自分ができることをしようということで、建物が使えないとしたら出ていこうと思いました。保育は10カ所ぐらい、あとレクリエーションの方が5、6カ所、これは小学生を中心に考えてました。みんなが予想外だったと思うんですが、この中でやっぱりふだんのあり方というものをお問われました。夫婦のあり方もそうだし、保育のあり方というか、子育てのあり方もそうだし、それから行政の福祉のあり方ですね、いろんなものが出てきたのです。まただんだんと時間とともにそれが見えなくなったと言ってる人も多いと思うんですけども、私たちはやっぱりそこを押しえておくべきだろうと感じます。それぞれの家庭の保育の力、その家庭が存在するやっぱり地域の保育力といえますか、そういったことに目を向けていく必要があります。幸い私の前の園長、その前の園長もずっとそうだったんですが、比較的オープンな保育をしておりました。来る者拒まぬで、来られる方は結構受け入れて、いつ保護者が見に来てもいいというような保育をしてましたし、私が行ってから、高齢者の方でリタイアされた方、保母資格を持っておられる方々に保育に入っただけのようなことを少し始めかけてたのです。ですから、いつでも評価していただいたらいいし、自信もついてないし、私たちは常に緊張感を持ってやっていきたいと思っていました。それから、これは保育の制度でいいますと一時的保育になるのですが、これは非常に不定期に入ってきたり子どもたちがするわけですね。それに対応していくというようなことや、いろんな方が出入りするということをふだんから保母さんたちが経験



+++++

- そんなこと、わかっているつもりだったけれど、神戸のことが大好きな自分に改めて気づきました。
(青谷愛児園 鈴木 正樹 保父)
- 人間なんてちっぽけなものだと思った。失う物はあまりにも多すぎた。でも再び築く力は人間誰にもある。やっぱり人間はすごい!!
(青谷愛児園 寺前三重子 保母)
- 今まで見たことのない神戸の風景はとてもショックで立ち直れないと思った。だけど、人も街並みもだんだんどうにかなるものだ。
(青谷愛児園 小幡恵美子 栄養士)

してくれていましたので、今回は緊急入所で、非常に短期間でたくさんの方が保育園に来られました。それについてもかなり対応できました。ふだんからするという事ですね。いかにふだんから保育園をオープンにしながら、地域との関係を持っていこうとしているか、そういう姿勢が非常に大切だったんだなあということを感じました。

神戸保育園が近くにあるんですが、震災直後すぐ立ち上がられたんです。僕は、それっていうのにもものすごく勇気づけられましたし、貴重なことだと思いました。これは被災地ということで申し上げますが、本来の専門機関が、やっぱり本来の機能を早く取り戻すということがいかに必要であったかということですね。子どもたちにとっても、避難所の生活が長引いたり、周りが4月の初めぐらまで解体が進みませんでしたから、殺伐とした中で遊び場所もない、そういうような中で保育園に行けば知ってる子どもたちがいる、先生がいて、それでいつものようなペース、保育室の中は壊れたものありましたが、ここへ来たら安心していたようです。やっぱりよく遊んで疲れますし、よく食べますから、夜もよく寝るし、それからうんこもきちっと出るというようなことで、かなり体調がそこで整えられたようです。ですから、これからの教訓としては、専門機関がそれぞれに早く立ち上っていく、そういうことの必要性を感じました。

司 会

今回の計画は、神戸の私たち自身がしてもらったことや、ボランティアということについてはあまり知らないんじゃないかということで催したわけですが、皆さんの中でご質問がありましたらお願いいたします。

質問者

水野先生がおっしゃった中で、砂で山をつくって、こだわっているんやなという、その言葉の中にどういう解決方法をとられたのか、ちょっとわかりかねたんですが、そういうような部分もボランティア活動の中で何回も見られたのかなと思うの

+++++

- 神戸がひどい仕打ちしたからいうて、地球が怒ったんやろか。地球の上で生きている以上は、地球を大事に、やさしくしていかなあかん。
(青谷愛児園 藤田有美子 園長)
- 子どもたちに「さよなら」も言えずに託児所が閉鎖になった。新しい職場で忙しさに追われながら、ふと思ひ出す。もう一度会いたい。
(竹の台保育園 春尾千都子 保母)
- 地震でライフラインが不能になり、これまでの生活があたりまえと思っていた自分が恥かしくなった。また大切なことを知らせてくれた。
(竹の台保育園 永渕小百合 保母)

ですが、そういうふうな場面、こういうことをやったよ、こういうふう乗り越えたんだよとか、そういうふうなことがあればちょっとお尋ねしたいんです。

水野氏

砂場の話はそうですが、その子は1カ月ぐらい来てたのです。初め1週間ぐらいは全然だれとも話さない、1人でぼつんと遊んでいる。砂場に行ったときに、地震のことは話さずにおこうと思ったんです。今聞いたらだめだということですね。でも、あの子を見たとき、僕らに教えてくれてるような気がして、再現してくれていると思って聞いたんです。そうしたらそういう感じのことを言うてくれて、それからです、その子どもが腹を割ってくれたのは。話をした次の日は妹さんも来ましたしね、何がというか、子どもは何をして欲しいんやというのを3泊4日という短い期間に的確にとらえ、その保母は、今この子に何が一番大事なんやろうという目がほしいですね。やっと1週間でわかったんですけど、もっとわかってやれたらもっと楽しかったやろうなどは感じております。

横山氏

あの寒い日、先生にテントの中でやっていただいたことは、本当にありがたかったと思いますし、最後になりますと、当時幼稚園関係の方に、いろんな形で協力をしていただいたと思うんです。本当にありがたかったと思います。それに、鷹取にしましても、私たちがこれから気をつけなければいけないのは、自分たちは就学前の子どもたちを預かる仕事をしていますので、鷹取中学校ではどうしても学童中心になってしまうのです。ですから、いろんな年齢層、階層を含めてどうしていくかということをしきっと踏まえていかなければならないのではないかと感じました。これから私どもはこの間も連盟の中で話が出たんですが、他都市でそういうことがあってはならないけれども、もしあったとしたら、自分たちは今回受けた震災の中の大きな経験をした者として、ボランティアに行くとしたら先ほど言われたように、与えるものではない、与えられるものという考え方で行こうと思います。

+++++

- 寒い冬から暑い夏へと時は移り過ぎても避難生活はなおも続く。失望と不安、理性の限界にどこまで私たちは耐えなければならないのか!?
(竹の台保育園 野上祐貴子 保母)
- この大震災で私も友人の一人を亡くしました。自然に対して人間はすごく無力なんだと初めてこの時実感したように思います。
(あい保育園 後藤 洋美 保母)
- 地震の時父は阪神高速を走るトラックの中にいた。高速は波のように大きく揺れたとケガをして語る父を見て涙が止まらなかった。
(あい保育園 福田 祐子 保母)

司 会

そのほか何か。

質問者

滋賀県から日帰りをされたというお話を聞きまして、滋賀まで日帰りをしなくても、もし西区に泊れば比較的早く行けるといような、そういう組織づくりというのは、今後考えられてはいかがかなと思ったんですが。

及川氏

やっぱりお泊まりいただいた方が良かったかもしれません。通勤すると大変だということで、実際においでになっている先生と議論はしたんです。しかしやっぱり帰りますと。一つには、神戸に迷惑をかけてはいけないという気持ちが大分あったと思うし、それと自分のところの滋賀も心配やということだったから、あそこであの時間に5時、6時に若宮を出て、それから鷹取まで歩いて、JRに乗って、また途中で乗り換えて、まあほんまに着いたら10時、11時ごろ滋賀に帰ったのです。私たち船も考えたんですけども。

司 会

初めのころは西区とか、北区とか、垂水へ何人泊まるかということで、そういうようにやろうと話は出たんですけども、煮詰まるまでには至らなかったのです。

及川氏

受け入れしますと言われたのですが、実際には滋賀の先生の方がかえって気を使ったんじゃないかなということ、私は今も反省しております。被災をしたときの子どもたちの心がどういうふうに痛んでいるのか、その心をどういうふうに癒すのかというのを考えた教育者というのは、やっぱりプロだと。石積みの棟梁に聞いたときに、石の声を聞いて積んでいくというんですね。よくご存じだと思うんですけど、法隆寺か何か飛鳥の建築家の大工さんは木の声を聞くという、いわゆる職人である石屋とか大工さんは、それぞれ石とか木の声を聞いて物をつくっていくわけ

+++++

● 大自然の脅威を前に、人間の非力さを痛感させられたが、学び得たものは大きい。人間の優しさ、強さ、美しさを再発見できた。
(あい保育園 漆原 牧子 保母)

● 新米保母を温かく迎えてくれた長田の街。9年ぶりに目にした園は全壊。あの子たち、元気でいれば中2の夏休み、負けずに生きてほしい。
(神出保育園 足立 温子 保母)

● 水とガスなどの生活ラインが途絶えた中での保育は不安でしたが、それよりも子どもの受けた心の傷跡をケアしてあげたいと強く思いました。
(まゆか保育園 加古 栄 保母)

ですが、まして命を持った人間を教育する保育者、または教育者は子どもの内なる声を聞いて教育するという、保育するというのがこれは当たり前のことなんです。それが仕事じゃないかなと思うんですね。そのことが今できてないところで、子どもが非常に混乱してるという。だから、やはり子どもが震災で教えたのはそのところじゃないかと思うのです。子どもたちの心が本当に聞けたのかどうか。私が考えて訴えたのはそのところなんです。やはり今回のボランティア活動を通じて、神戸市の震災から我々に投げかけたものは、この神戸の教訓が、今後あってはならない、再びあったときの教訓になるという、一つのノウハウとして蓄積して、そのときにすぐ対応できるようなものをつくっておく必要があるんじゃないか。先ほど先生がおっしゃったように、起こったときにすぐ対応できる、それから考えるんじゃないし、そのときには既に神戸の教訓を足場として、その上に新たなその都市の状況とか、そういうものを勘案し、つくっておく必要があるんじゃないか。そうでないと、大変な思いをした神戸の体験というのがそのまま終わってしまう。また次のときには、新たにやるということでは結果として子どもたちにまた被害が及ぶことになりまして、だれが作るのかは別として、ぜひそういうものをつくっていただけたらありがたいなと思っています。

司 会

何でもしますというのだったらいいのですが、保育しか出来ない、他の用事は出来ません、では困るという声も避難所で聞いたことがあります。

水野氏

1日の流れを段取りするために朝7時から1時間ほどミーティングをして大体のタイムスケジュールを作りこの時間はこうなるという形でみんなの意思統一ができたと思う。内輪の話になるんですけど、そういうところに行く保母さんは、園を代表しますから、園長先生もそういう人を出していたという面もありますけども。

司 会

+++++

- 地震から6ヵ月が過ぎた今でもガタガタとゆらして地震ごっこをしている子どもたちの姿を見ると改めて地震の恐しさを感じました。(まゆか保育園 大岡 真実 保母)
- 死者5千人以上という地震で園児は全員無事を知り安心したと共に、悔を残さないよう1日1日を大切に過ごすことを思いました。(まゆか保育園 大江美由紀 保母)
- 地震後、積木をつんでは「地震だ」と言ってたおす姿を見、改めて地震の恐ろしさ、子どもの心に残った大きさを感じさせられました。(まゆか保育園 長谷川めぐみ 保母)

誰でもいいから行ってこいじゃなしに、よりすぐった人を派遣してくださったようです。ですから、何も言われなくても、みんな動いてた感じでした。みながそうでなければ、ボランティアというのは簡単にできないのではないか。

水野氏

行く前から、被災地に何しに行くんやという気持ちがありますから、動かないとあかんという頭で来てくれたので私はやりやすかった。

司 会

黒川会長、最後に一言お願いします。

黒川氏

またどこかでいつ起こるかわからないこのような大きな地震にどう対応していくのか、このことは今われわれが記録誌を編さんしておりますけども、この中へ挿入したいなと思っております。及川先生はすごいことをおっしゃいました。それは与えるつもりでボランティアに来た人たちが、逆に与えられたありがたさというものによって、人間が成長したという話を言われたのですが、素晴らしい話だと私は思いました。今新しい言葉が一つここで出てきたと思うんです。地域の保育力という言葉、これは震災とか、そんなことじゃなくて、話がそれますけれど、今大きな保育の転換期に来ております。われわれはこの地域の保育力というものを真剣に考えていく時代になってきました。これは、この地震があったからこういう言葉が生まれたのかなと、つくづく思っております。今日はお忙しいなか来ていただいて、われわれの反省も含めて、今後の保育の取り組みということを、しっかり話していただいたと思います。

われわれのところに279人のボランティア名簿が保育三団体から送られてきたときに、理事会などを開いて、受け入れ態勢を考えたのです。ボランティアというのは、寝袋を持って、食べる物は自分で工面をして、被災地の人に宿泊とか、そういうことをお願いするというのでは成り立たないんじゃないかなと、そういう感じを

+++++

• 地下鉄がとまり、毎日片道30分歩きました。大変だったけれど、子どもたちの笑顔を見るとどんな苦労もどこかへ消えてしまいました。(みすまる保育園 森 ひとみ 保母)

• 長田区という被害の多い所で散歩の行ける公園もないなかで、近くの保育所の園庭やプールを使わせてもらいとてうれしかったです。(天隣乳児保育園 田中 佐和 保母)

• 園舎倒壊で働く場を失った私たちに、子どもたちと接し保母として働く場を与え、暖かく迎えて下さった方々に心から感謝しています！(天隣乳児保育園 池上 綾 保母)

持っております。

司 会

今日はお忙しい中を滋賀県から来てくださいました及川先生、それからしんどい仕事を長い期間してくださいました大阪の水野先生、神戸でも必死に働いて、もうあかんわと言いつつも、頑張っておられます高田先生、お三人の方、本当にありがとうございました。

これからも、私たちの反省として、奥尻のとき、あるいは普賢岳のとき、私は何をしたか、今度どこかであったら、私もこれだけの物を持って駆けつけようと、そういう人たちが神戸からも生まれることを願ってこの集いを終わりたいと思います。どうもありがとうございました。



++++
• 保育園が全壊して、今仮設で再開しています。「生きる」意味を考えながら、与えられた環境で一生懸命させていただこうと思っています。 (天隣乳児保育園 鹿村 いせ 保母)

• 私たちが学生の頃歩いた街を再び歩き“青春の1ページを破られた”そんな気がしました。早くそのページが再生されるように心から応援しています。 (あさひ保育園 田代 真紀 保母)

• 何があっても安心!! と思っていた我が家が少し傾き、家の前でガスもれがあり、ピクピクと生きた思いのしなかった1月17日でした。 (あさひ保育園 吉成 純子 保母)

• 仮設園舎での卒園式、入園式。子どもたちは「ただいま！」と言ってくれました。一日も早く園舎を再建しなければと思いました。 (本願寺派湊川保育園 藤井 基 園長)

• 職員の通勤の問題もあったが、子どもたちが避難所で不安な思い、遊び場がないのを実際に見て、生活の場を与えてあげたいという思いからの再開であった。

(友愛幼児園 吉田 敦子 保母)

• 余震が続くなか不安が一杯だったけれど保育再開。でも子どもたちは、元気に「おはよう!!」と言ってくれた。心の中には怖かったことを思いつつ。 (友愛幼児園 篠原 幸子 保母)

• 水が自由に使えないことは園生活も食事を作ることに一番大変だった。最小限の水の使い方の工夫をすごく考えさせられました。 (友愛幼児園 濱田 陽子 栄養士)

• 子どもの遊びのなか例えばごっこ遊びのなかにも「地震ごっこ」などが見られ子どもの心に大きな影響をおよぼしていることを改めて感じました。 (友愛幼児園 松本 典子 保母)

• 震災すぐの開園で給食作りは大変でした。調理や食器洗いの水の調達、火力の弱いガスボンベでの煮炊き等々皆様の協力でできました。 (舞子保育園 伊藤 芳子 調理員)

• 水ガスが使えない食事づくりの工夫が第一の課題でした。食器の洗浄の仕方、献立（子供達に温かい食べ物を）とみんなで協力し考えた毎日でした。 (友愛幼児園 川嶋久美子 栄養士)

• 市場の原理に重心をおくこの園の福祉は常に危機に晒されている。だから震災は更に危機を増幅させた。軸足は人間に移動させにゃ。 (友愛幼児園 村山 盛嗣 園長)

• 一週間の休園の後、保育再開となりましたが余震のたびに怖い思いをしました。大地震が保育中であつたらと考えると、ゾッとします。 (頌栄保育園 林 淑英 保母)

• 保育が再開できたものの余震が多く、やはりその中での子どもたちへの配慮には気を使った。しばらくは毎日が緊張と不安が続いた。 (頌栄保育園 中森 良子 保母)

• 園児、職員が全員無事だったことと、余震の心配をしつつ修復の目途もなかなか立たない中でも、間もなく保育を始められたことは感謝でした。 (頌栄保育園 原田寿美子 園長)

• 無事であった子どもたちの顔に再び合うことができた時は、本当にうれしく、命の尊さを思い、足元からの不安がなくなるよう祈った。 (頌栄保育園 飯干 幸子 保母)

• しばらくは園庭にも出られず使えない保育室もあったが、無事子どもたちと再会できたことを喜び、不安がらせないように心がけた。 (頌栄保育園 清水嘉津子 主任保母)

防災マニュアル

—もしもの時にそなえて—

今までの避難訓練や防災訓練の方法が、このたびの震度7、わずか20秒の揺れの中でどれだけ生かされるだろうか。また、日中発生していたとしたら、多分大半の人が身動きできない状況に陥ったと思われる。

しかし、私たち保育に携わる者は、子どもたちの安全と保護を第一義に考えて行動を起こすためにも、常に訓練をおこたらず、災害発生時に備える必要があるのではないだろうか。

貴重な体験をした神戸市私立保育園連盟のメンバーの地震対策とその後の対応をまとめてみた。

1 防災訓練・避難訓練の見直し

- ① 抜き打ちに月1回以上実施する。
- ② 避難訓練と防災訓練の回数は半々ぐらいにして実施する。
- ③ 職員は各部署の担当を常日頃から確認し（表1のような役割分担）、各自の役割を徹底的におぼえる。
- ④ 園長は避難時には必ず、園児・職員の住所、電話番号、連絡先などを記したものを持って出る習慣をつける。
- ⑤ 担任は園児の連絡先などを添付した出席簿を持って避難誘導し、再度園児の確認をした時は、その時刻を記録する習慣をつける。

【注】 余震が続いたり、混乱する中で子どもたちがどういう行動に出るか予測することは不可能であるため、分刻みにでも確認していく必要がある。

+++++

• 思いがけない目覚めとなった1月17日。神戸は一変したけれど、明日の神戸を担う幼な子と共に、この日を忘れず大切に歩んでゆきたい。
(あさひ保育園 中山 久美 保母)

• 私自身、震災のショックの中での保育再開。子どもたちの姿を見て、気持ちまで震災に負けてはいけなさと励まされたような気がした。
(出合保育園 藤丸 晴美 保母)

• カタンという物音にも敏感な子どもたちに囲まれ、常にテーブルを出し安全に気を配りながらも、大きな揺れが来ないことを祈り続けた。
(出合保育園 宮永有紀子 保母)

- ⑥ 震度7のような地震発生の場合、安全な避難場所は皆無と考えてよい。担任はとりあえず揺れがおさまるまで、室内の落下物や転倒物のない場所に子どもたちを集め、上から布団・毛布などをかぶせるか、脚の丈夫な机の下にもぐらせて待機させる。

【注】落下物・転倒物のない安全な空間を保育室、園庭、廊下などに安全地帯として位置付け、緊急時の待避場所としておく。

- ⑦ 実際には、職員だけでの園児全員の完全な避難誘導は困難と思われる。したがって、日頃から地域住民とのコミュニケーションを密にしておく。

気象庁震度階級

震度	名称	説明
0	無感	人体に感じないで地震計に記録される程度
1	微震	静止している人や特に地震に注意深い人だけに感ずる
2	軽震	大勢の人に感ずる程度のもので、戸障子がわずかに動くのがわかるぐらい
3	弱震	家屋がゆれ、戸障子がガタガタと鳴動し電灯のようなつり下げ物は相当ゆれ器内の水面の動くのがわかる
4	中震	家屋の動揺が激しく、すわりの悪い花瓶などは倒れ、器内の水はあふれ出る。また歩いている人にも感じられ、多くの方は戸外に飛び出す
5	強震	壁に割れ目がはいり、墓石、石灯ろうが倒れたり、煙突、石垣などが破損する
6	烈震	家屋の倒壊は30%以下で、山くずれが起き、地割れを生じ、多くの人々は立っていることができない
7	激震	家屋の倒壊は30%以上におよび、山くずれ、地割れ・断層などを生じる

+++++

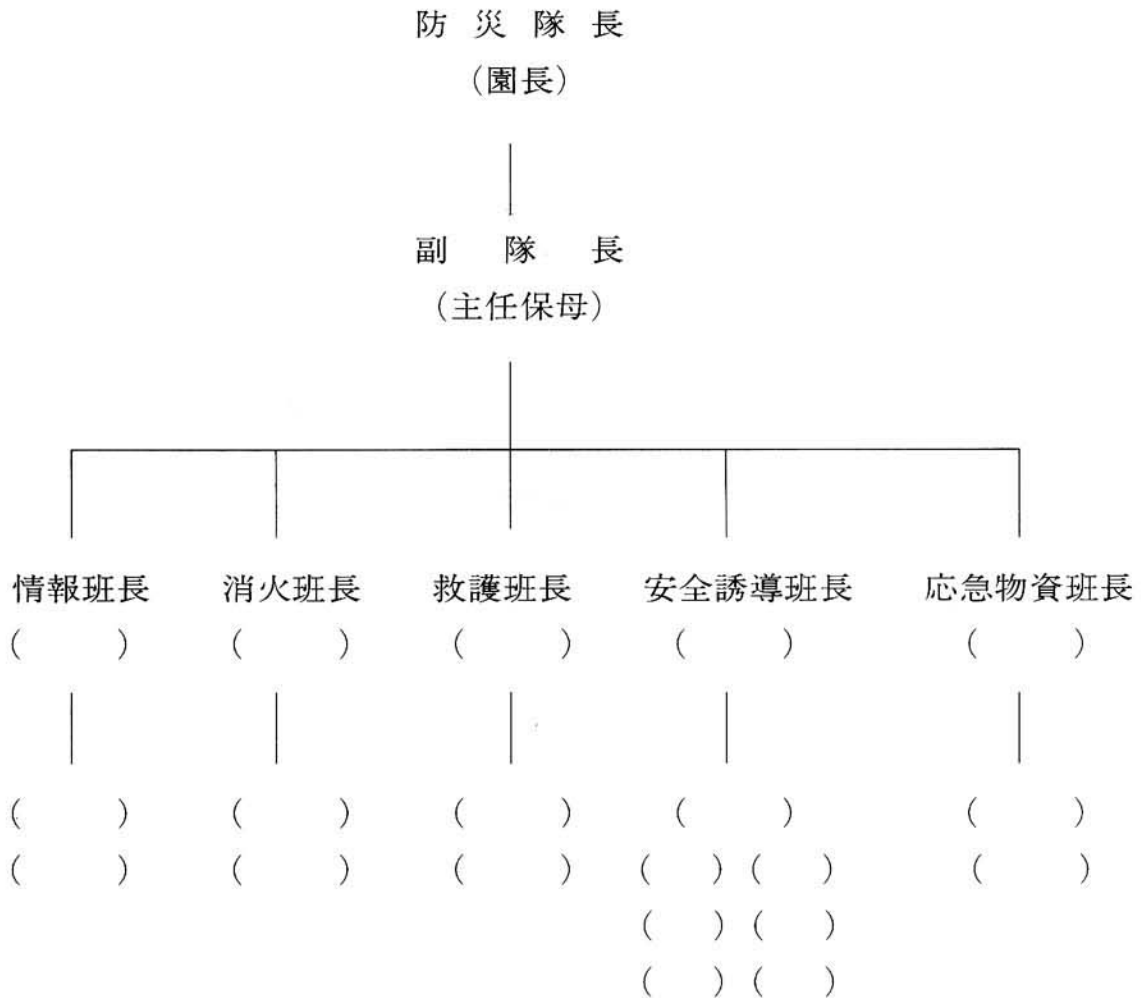
• 毎日のように、職員で話し合いの場を開き一人ずつの意見をのべ合った。協力・団結力を感じ、この園の職員で良かったと思った。
(竹の台保育園 春尾 慶子 保母)

• 様々な不安を抱え、我が子を預けて仕事に行かれる父、母の姿を見て、私たちにできることは「安心できる園であること」と再認識しました。
(竹の台保育園 北島早記香 保母)

• 余震の続く中での保育再開、生かされている喜びと、かけがえのない命を守る責任と尊さを再認識し、保母であることを誇りに思った。
(竹の台保育園 高島知加子 主任保母)

2 ○○保育園自衛地震防災活動隊編成表

<表1>

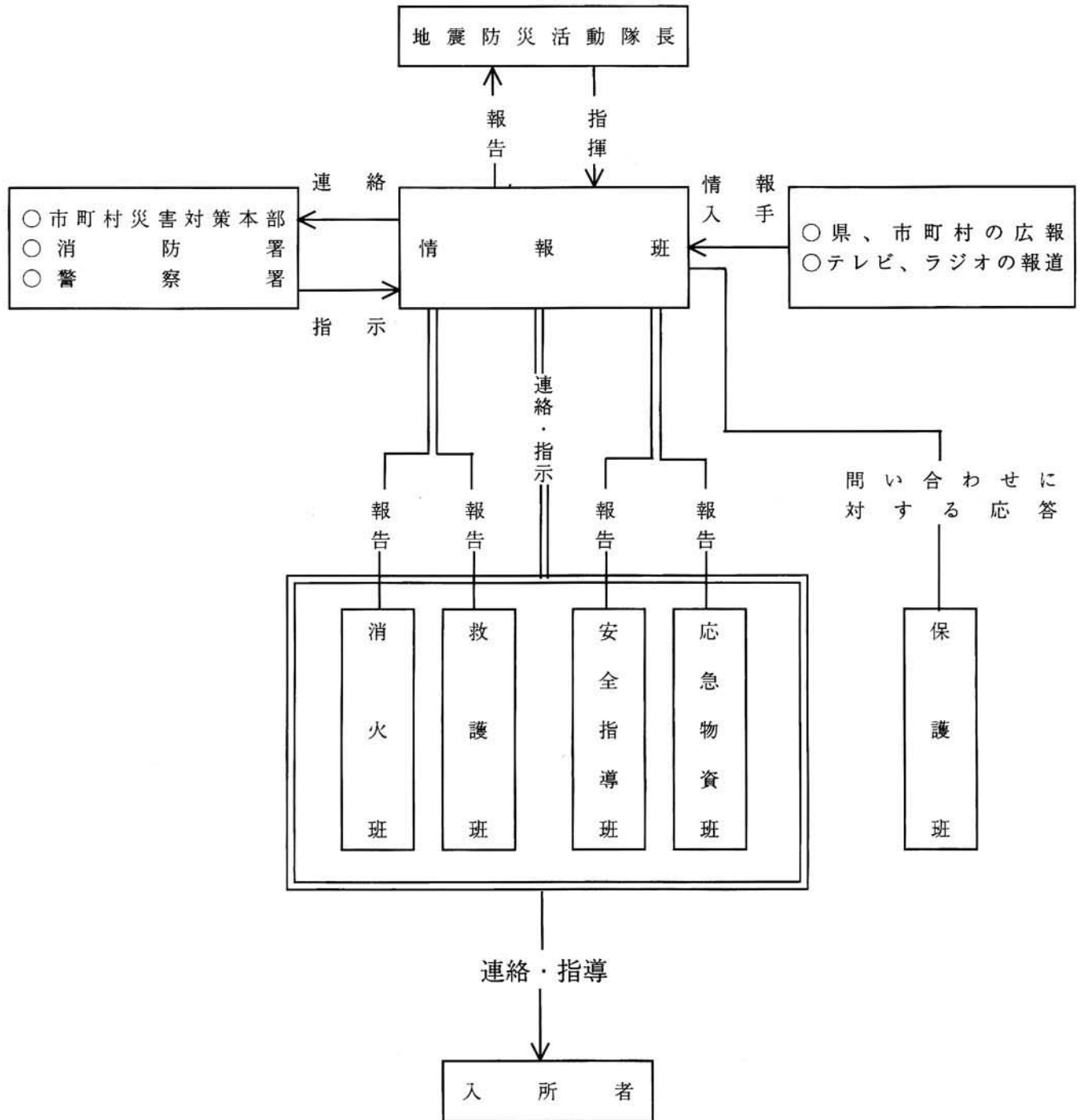


【注】決められた部署の役割を的確に果たし、全体の状況にも目を配り、敏速な行動により園児の安全に努める。

+++++

- 生涯忘れられない激震の恐怖！大声で無事を確認し合って命拾いをした。貴重な体験を忘れることなく一日も早い復興を祈っている。
(あい保育園 安藤ヒロミ 保母)
- しばらく子どもたちの遊びに地震ごっこがはやった。積木を崩して地震ヤーと遊ぶ子、大変に心が痛んだ。子どもたちの心のケアを痛感した。
(あい保育園 廣瀬登美子 副園長)
- 冷静に行動できず不眠不休対応の震災から多くのこと学ぶ。エスカレートする自然破壊に地球からの忠告にも思えた恐怖の朝忘れなない。
(まゆか保育園 宮本 昌代 調理員)

3 地震発生時の情報・指示の伝達例



+++++

- 12月末から産休中だった私は、予定より早く出産、4月から職場に復帰、他の保育園で働き我が保育園の良い所悪い所を知りました。
(天隣乳児保育園 後藤真由美 保母)
- この震災で保育園が再開するまでの間、他の園で働くという機会ができいろいろと勉強になりよい体験ができたと思います。
(天隣乳児保育園 前田 斉子 保母)
- 震災後数ヵ月、他の園の支援に行った。たくさんの先生や子どもたちに出会い、自分の今までの保育や人間性などを反省させられた。
(天隣乳児保育園 中村 ゆみ 保母)

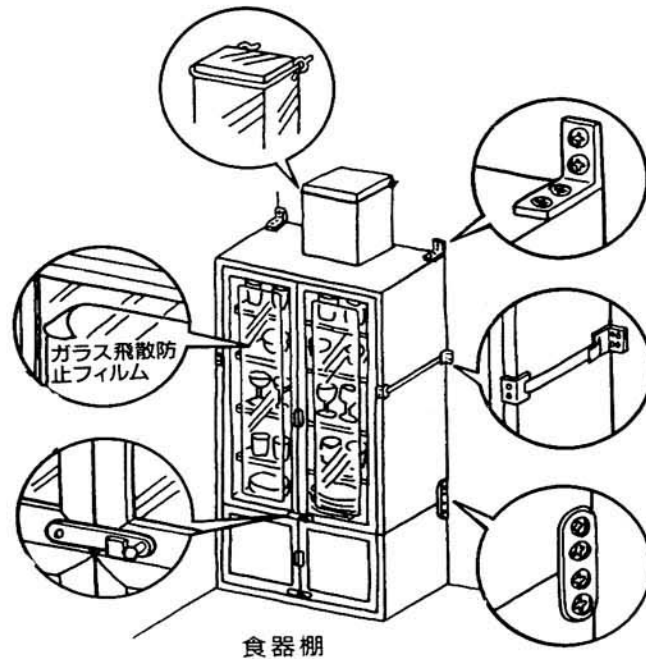
4 園舎・保育室・その他建造物の見直し

- ① 基礎を頑強にする。鉄筋コンクリート造りの場合にも2階建てぐらいが理想。土地が十分にある地域では平屋建てが一番である。
- ② 園舎周辺のフェンスは、基礎のしっかりしたコンクリートよう壁が最良。逆に軽量のネットフェンスも良い。ブロック塀の場合は基礎をしっかりと、ひかえ壁を十分にとるとともに鉄筋を多く入れたものにする。
- ③ 窓、引違い戸のガラスは、安全ガラスまたは網入りガラスに替えるか、強化フィルムを貼る。
- ④ 1、2階の腰高窓は、衝撃物がそばになれば普通ガラスでも破損の心配はない。ただし、天窗やはめ殺し窓ガラスは破損大であるため、模様替えするか網入りガラスに入れ替える。
- ⑤ サッシ戸の鍵の戸締りは必ずロックをする。
(振動でひとりでのにカギが開き、戸が開く)
- ⑥ 照明器具、空調設備機器の取り付け部の安全性を日頃からチェックしておく。
- ⑦ 可能ならば地下室を設置する。
- ⑧ 園庭にプールを常設し、水を確保する。
- ⑨ 井戸を掘る。(地域の共同井戸でもよい。頁163に参考資料)

ストロー型浄水器

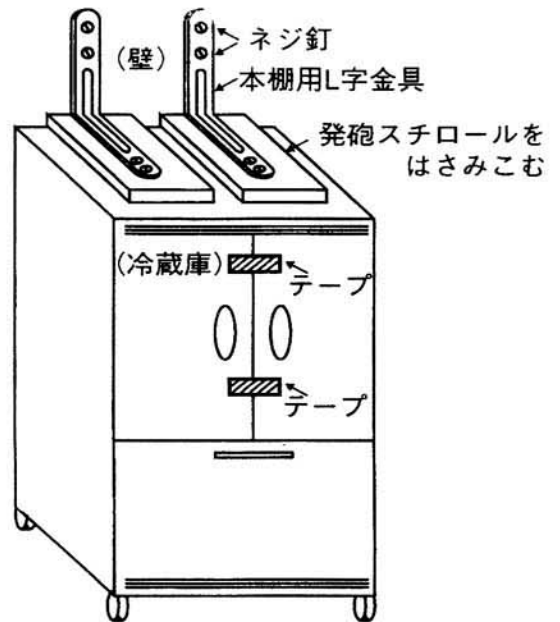
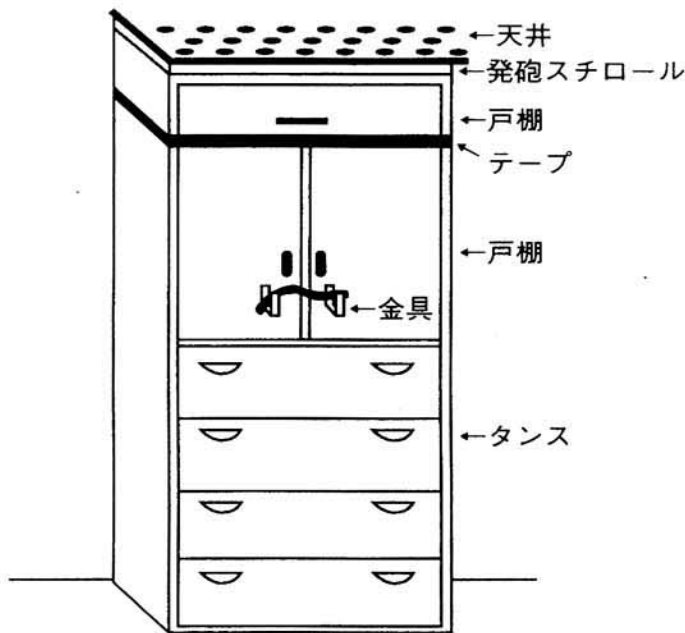
活性炭などを詰めたストロー式の簡易浄水器。コップ約千杯分の浄水機能があり、付属の粉末除菌剤を併用すれば川やプールの水も飲料水に変わる。

- +++++
- 3階が2階になってしまった園、ピアノが倒れ、テレビが落ち、傾いた保育室。その日は早出、一日中、電話をかけ続けた。
(天隣乳児保育園 宮田三枝子 保母)
 - あの大震災が昼間に発生し、家族が、職場に学校にとバラバラだったらとよく考える。早朝だったのが、私にとっては救いでした。
(あさひ保育園 田中 桂子 調理員)
 - 今まで当然の様に過ごしていた生活が、どんなに幸福なことだったか改めて痛感した。今後資源を大切に、日々の生活に感謝します。
(あさひ保育園 瀬尾 千恵 保母)



食器棚

(釘を使わないで固定)



(冷蔵庫を傷つけない)

+++++

• 表面上和やかに過ごしていた近隣の人たちの嫌な面々が見えていざという時に人間の本性が出るものだ痛切に感じた大震災だった。
(あさひ保育園 森川志穂里 保母)

• 悪夢であれと願いつつ。炎の海の中に消えた友。変り果てた長田の街並。呆然と立ちつくす。くやし涙のあの日。そうあの憎き1月17日。
(あさひ保育園 知賀 幸子 保母)

• 絶対に忘れることのない阪神大震災。多数の被害の中で私たちが一番感じたのは人々との支え合いで心を温めてくれたことです。
(あさひ保育園 陣在 君佳 保母)

5 備品・機材その他の対策について

① 落下物対策（時計、額、照明器具、扇風機ほか）

- ・ロッカー、本棚、ピアノなどの上に物を積み上げない。
- ・時計、額、つり戸棚などの壁づけのものは必要最低限にする。
- ・天井づけ、壁づけのいずれの場合も固定状態の確認と、天井や壁の内部の構造を確認しておく。
- ・釘、ビスの太さ、長さ、古さを調べ、丈夫なものに取り替える。
- ・天井づけの照明器具、空調設備機（扇風機を含む）などは、取り付け部位を時々確認する。
- ・本棚に並べてある本でも落下してくる。ガラス戸がある場合、本の重み本の角でガラスを割って外に飛び出してくる。本棚は大人の腰高までくらいの高さのものが最適。
- ・作り付け戸棚でも高い所のものは収納品がすべて落下する。

【注】落下物が予想されるような場所で午睡させない。

② 転倒物対策（ピアノ、ロッカー、本棚、寝具戸棚、大型食器庫、冷蔵庫、テレビ、コピー機、パソコン、水槽ほか）

- ・壁、柱にボルトなどの金具で固定。
- ・L字T字金具で固定。
- ・キャスター付き備品類は常にストッパーで固定する習慣をつける。
- ・大型備品は出入口近くに置かない。
- ・転倒の可能性がある備品のそばで午睡させない。特に、本棚の近くはすべての本が飛び出しながら倒れてくるので非常に危険。
- ・コピー、パソコン関係は、使用后必ずフロッピーに入力し、机の引き出しなどに保管。1階に置く方が良い。台座を固定。

【注】専用容器に入れておいても、地震発生時小型の物は飛んでしまっど

+++++

• 色は匂えど散りぬるを我世誰ぞ常ならむ…多くの命と物を無くした私たち…しかし若者は愛に目覚め奉仕の宝を得た。これ神の慈悲か。
(あさひ保育園 舟橋 博 園長)

• 水くみを一緒にしたり、食べ物をいただいたり。今まで以上に近所の人々と親しくなれた。なにより、それが得られたものとなった。
(青谷愛児園 長谷江利子 保母)

• 奥尻・普賢岳とテレビに映る光景はまさに別世界。実体験することで初めてその驚異をまのあたりにする。寂しいことだと思う。
(青谷愛児園 赤藤 隆 保父)

ここにいったかわからなくなる。

- ・水槽は保育室内や避難経路には絶対に置かない。

【注】水とガラスの破片が飛び散って、子どもたちの恐怖心をあおる。

③ 書類対策（重要書類、一般書類、写真、ネガ、アルバム）

- ・重要書類は火災に強い大型金庫に収納するのがよい。
- ・持ち出し書類として一カ所にまとめて保管しておく。
- ・用済み次第、引き出し式のロッカーに入れる習慣をつける。
- ・本棚形式のものは飛び出しやすい。
- ・机上に積み上げている物は散乱して收拾がつかなくなるから注意。
- ・写真ネガは火災にあった卒園児の思い出の分まで保管できたら最高。過去の物は年度毎に整理しておく。

6 医療品対策

- ① 傷対応薬—オキシドール、消毒薬、きず薬、皮膚のスキンケア用軟膏、目薬、きずテープ、虫さされ薬、湿布薬、ガーゼ、脱脂綿、包帯、三角布、タオル、ハサミ、爪切り、ピンセット、トゲ抜きなど

【注】十分な数量を用意した方が望ましいが、有効期限を時々確認すること。

各保育室に置くようにするのがよい。

- ② 常備薬対応—胃腸薬（腹痛止め、下痢止めを含む）、解熱・鎮痛薬、風邪薬など

【注】使用期間の日付の確認を年2回ぐらい行なう。

- ③ その他—マスク、眼帯、生理用品、紙おしめ

【注】近隣住民や保護者のためにも、子ども用だけでなく大人用の常備薬も置く。

+++++

・句帳より、廣瀬水車「園児らと地震に傷みし雛飾る」「梅雨の蝶地震に怯えしごと飛び来」「つばくろも飛ばず神戸は瓦礫中」
(あい保育園 廣瀬 元良 園長)

・毎日の通勤途中、仮設住宅の横を通り抜けます。ある日老人が無造作に積まれた土を一生懸命ふるいにかけておられました。花でも作られるのでしょうか。この地に生きていく一歩を踏みだされたような気がしてうれしく思います。
(あゆみ幼児園 高見かず子 保母)

・あの恐怖の30分前、風のない中で、木の葉が舞うように雪が降っている様が、大地震の前兆ではないかと今も脳裏に焼きついている。
(あゆみ幼児園 井塚 栄子 主任保母)

7 情報収拾対策

- ・ 情報提供に新聞、ラジオ、テレビ、ボランティア情報紙などの活用。
- ・ 閉じ込められず、積極的に情報の収集につとめる。
- ・ 未確認情報を口外しない。
- ・ 職員は自己報告をする訓練、保護者にも日常的に自己報告の姿勢を持つように指導していく。
- ・ 在園児、職員、理事他関係者の安否確認のために正確な名簿作りが必要。

8 食料品備蓄対策

飲料水—ミネラルウォーター 2～3 日分

食料—缶詰（缶切り）、乾パン、干物類、米、調味料、ふりかけ、梅干、海苔、チーズ、菓子類

（時々新しいものと入れ替える）

熱源—プロパンガス（こんろ）、カセットこんろ、まき（かまど）、新聞紙

9 その他

- ・ 照明用として懐中電灯、ローソク、マッチ、ライター、電池、電池不要の非常用ライト
- ・ 自家発電機（ガソリン）—照明、動力として活用
- ・ 自転車
- ・ 衣料用として、下着（入浴出来ないのので、パンツ類は多い目に）、くつ下、雨具（防寒）、毛布（寝袋）、ヘルメット（ずきん）、タオル
- ・ スリッパ、ポリ袋、石けん、紙おむつ、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ
- ・ つるはし、スコップ、ロープ、針金、担架、ビニールシート、ナイフ、のこぎり、かなづちなどの大工道具一式を出しやすい場所にまとめて保管

+++++

● 20 秒のあの一瞬に多くの命が奪われた。こんな残酷なことが起きることもあるのだと自然の計り知れない威力を改めて感じた。
（あゆみ幼稚園 阿曾 恭子 園長）

● 震災後の困難な状態の中で、子どもたちの笑顔を一日でも早く取り戻すよう全力を尽くすことだけが、私にできる精一杯でした。
（げだつ保育園 井田 恵子 栄養士）

● 震災後給食を作る不安がありましたが数多くの救援物資を頂き暖かい給食を出すことができ、子どもたちの喜ぶ声を聞き涙ぐんでしまいました。
（げだつ保育園 盛 香枝 栄養士）

- ・障害児、てんかん、アトピーほかの持病を持つ子をかかえる家族や保育園は、環境整備や食料飲料水の調達を十二分に考慮する

【例】薬を常日頃から余分に持っておく

除去食用の保存食（又は材料）を持っておく

子どもの周辺の状況を一日も早く平常状態に戻す

- ・教育施設に防災林が必要。給水タンク、あるいは井戸が欲しい
- ・常備水、防火用として園庭のあちらこちらに水を張った防災バケツを置く
- ・救急活動訓練を日頃から行うと共に、近くの病院あるいは嘱託医と常にコンタクトをとっておく
- ・職員の雇用は各地に分散しているのが良い。徒歩で出勤できる職員雇用も大事。（近くは即戦力となり、遠くは種々の情報提供・救援物資の配送源となる）
- ・家庭訪問の大切さ

【備考】緊急時は職員が足で安否の確認をしなければならないが、全壊、全焼した家屋跡を探すのに住所だけでは到底探し得ない。

- ・情報收拾、伝達のためにトランジスタラジオ、ハンドマイク、メガホン、携帯電話、写真機などはわかりやすく、身近な場所に置く。
- ・緊急時、一般電話は所有電話機に異常がなくてもつながらない。公衆電話は通じる。しかし、カード利用できない時もあるので、10円玉とカードを常に持っておく必要がある。
- ・公衆電話でも、市外あるいは遠距離はつながりにくい。コレクトコール（106をダイヤルして交換手を呼び出し、掛ける方法）を利用すると早くつながる。ただし、10円が必ず要ることと、先方に割高料金を支払ってもらう必要がある。先に入れた10円は必ずもどってくるので10円玉が一つしかない時はこの方法が最高。

【参考】有線電話は、平常時は各地区毎の使用頻度によって1割～5割の利用

+++++

・水やガスの出ない不自然な生活…そんな環境の中でも元気に毎日登園してくる子どもたちの姿を見ると、逆に元気をもらいました。（げだつ保育園 定本 祐子 保母）

・環境は一転しましたが友達と会えて嬉しそうにかけ回っている子どもたちを見て、園では安心してのびのびと遊んで欲しいと思いました。（げだつ保育園 赤木 博美 保母）

・2週間後、不安一杯の中、保育再開。全国からたくさんの救援物資が届き、とても心強く、子どもたちの笑顔にも勇気づけられました。（げだつ保育園 磯部 一江 保母）

率で交換機にセットしている。緊急時、利用率がそれを上回る事になると交換機の機能がパンクしてしまうため、コンピューターが作動し、全体に通話できない状態にしてしまう。逆に消防署、警察署、官公庁関係の回線は全開になるようコンピューターに指示している。

公衆電話は別回線で100%通話出来るようにしているが、これも多くの回線が一度に使われると制御することになっている。

交換手呼び出すコレクトコールは交換手さえ出れば確実に利用することが出来る。

神戸市の場合、1999年をメドに通信コントロールセンターを設けて通信網を円滑に作動させられるように工事を進める予定。期待したい。無線電話である携帯電話の場合、アンテナの送受信範囲が限定されている。緊急時には災害地区内は、受信側にも携帯電話がなければ通じないなどの規制があるが、PHS (Personal Handy phone System) のアンテナ設置箇所が早急に全国的に張り巡らされ、安価で、しかも遠距離にも利用できるという情報を得ている。これも期待したいものである。

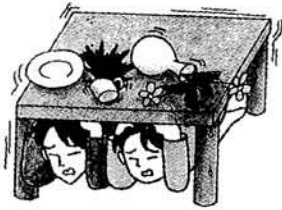
+++++

- ガス・水道が止まった状態での保育再開。紙おむつなど、たくさんの救援物資が届き、全国の真心が有難く、大変勇気づけられました。(げだつ保育園 塩見紀美栄 保母)
- 長田区のニュースを見て保育園の無事を願いつつ保育再開にこぎつけ元気な子どもたちの姿を見て胸にジーンとくるものを感じました。(げだつ保育園 高田 章子 主任保母)
- 地獄の様な阪神大震災。今でも夢の様な気がします。でも6カ月たった今、子どもたちから地震の恐怖も消え、プール遊びに無中の毎日です。(雄岡山保育園 片山のぶ子 調理員)

ぐらっときたら！

まず我が身の安全を図れ

なにはともあれ生命が最優先。地震が起きたらまず第一に身の安全を確保すること。



すばやく火の始末

～あわてず、さわがず冷静に～

「火を消せ！」とみんなで声をかけ合い、ガスコンロやストーブなどの火を確実に消す。



非常脱出口を確保する

とくに鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、閉めたままだと建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがある。



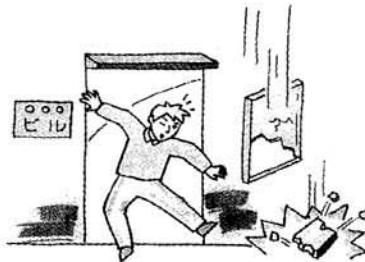
火が出たらまず消火

「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求める。煙や炎にまどわされないこと。



あわてて外に飛び出さな

屋内の方が比較的安全。様子を見て身の危険を感じたら屋外に避難する。



正しい情報をつかみ、余震を恐れるな

うわさやデマに振り回されない。ラジオやテレビで正しい情報を。



ビルの中

ロッカー等の転倒に注意、備品のない廊下の方が安全。外は落下物で危険。室内にいて様子を見る。



住宅街

ブロック塀や石垣の倒壊、瓦等の落下物に注意し、避難する。

商店街・ビル街

扉をカ/ワ等で保護し、近くのビルや広場に避難する。(ガラスの破片・看板等の落下物からの回避ポイント)

野外にいたら

電車や地下鉄の車内

勝手に車外にでない。乗務員の指示に従い、落ち着いて行動をする。

地下街

耐震構造なので倒壊の心配はない、怖いのは火災。係員の指示に従い壁づたいに避難する。

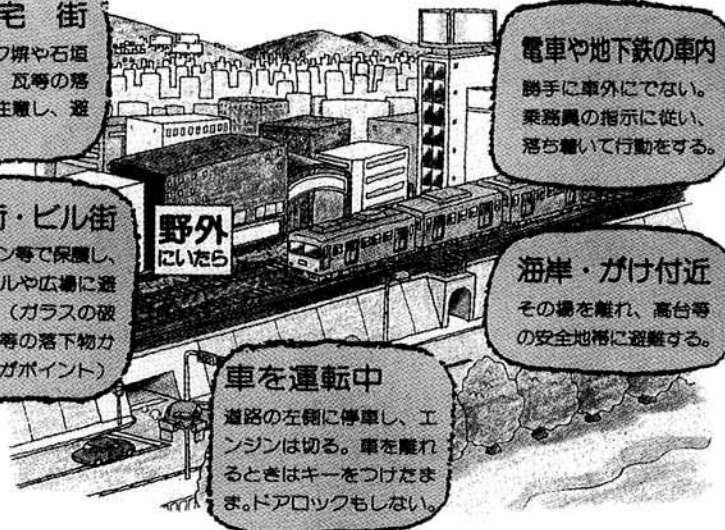


海岸・がけ付近

その場を離れ、高台等の安全地帯に避難する。

車を運転中

道路の左側に停車し、エンジンは切る。車を離れるときはキーをつけたまま。ドアロックもしない。



※神戸市消防局から出されたパンフレットである。地震の知識に乏しかった神戸市民には、今回の体験からなるほどとうなずけることが多い。職員の知識として徹底したいものである。

地震対策

Check!

●壁づけのものは壁も内部構造にあった釘、ネジを選び時々安全確認を行う。

●観音開きは両方扉が開かないような金具を工夫してとりつける。

●コンロの上の棚に燃えやすい物を置かない。

●コンロなどの安全管理をきちんとする。

●窓ガラスは網入りか強化ガラスにする。

●壁に落下しやすいものを掛けていないか。

●ピアノ・ロッカー・本棚等の上に物を置かない。

●ガラス戸付近に角のある物を置かない。

●出口付近に物を置かない。

●ピアノ・本棚などの転倒防止を図る。

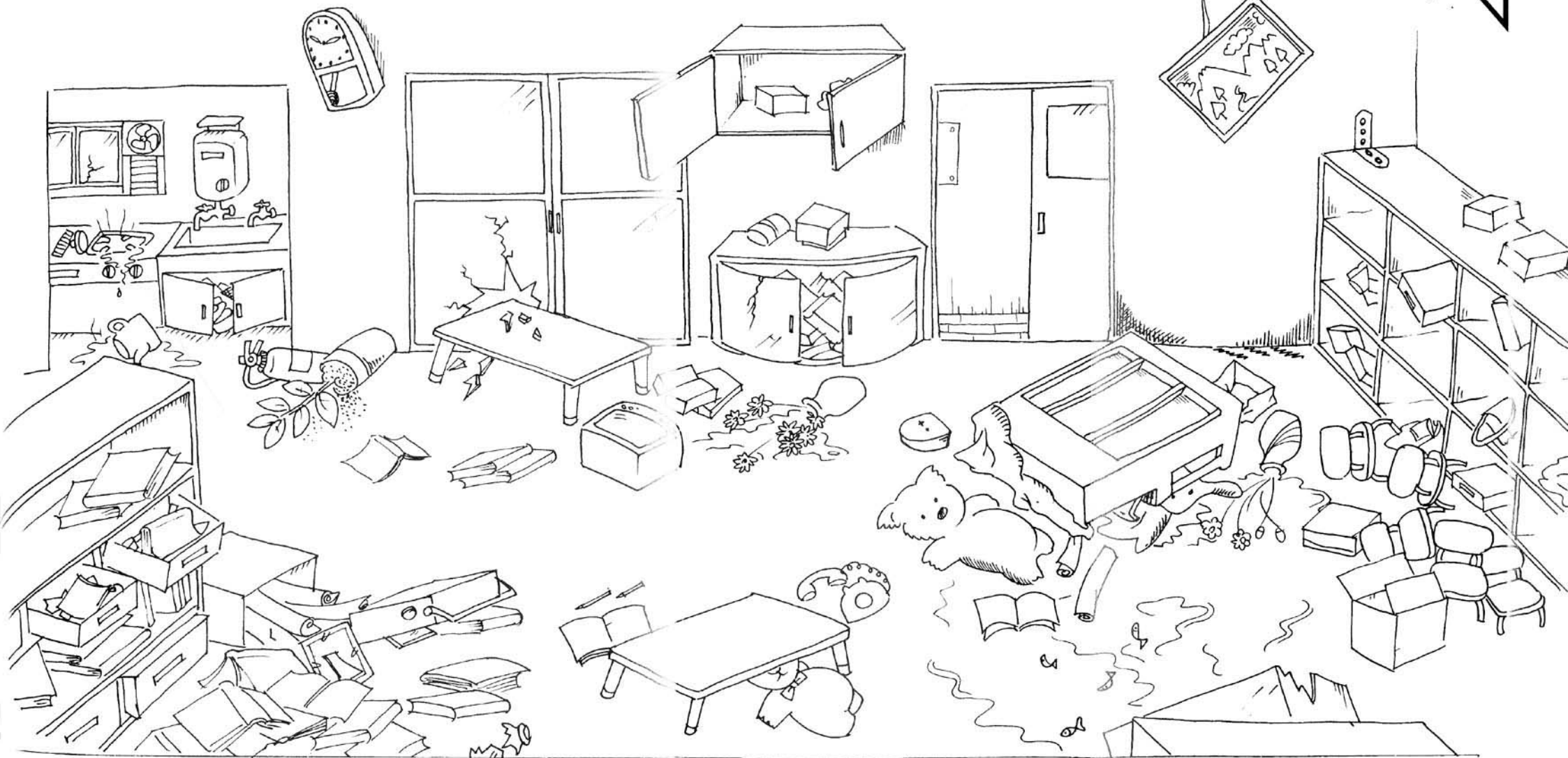
●消火器は決められた場所におかれているか。

●子ども達は落下物の心配のない場所で遊ばせる。

●保育室内や避難経路に水槽を置かない

地震对策

Check!



10. 「地震」対「人間」の時間割

地震対策として項目ごとにあれもこれも大事と、対策を行なうべき順序を決めずに検討してきたが、地震に被災してから時間の経過によって、災害状況や問題点が変わり、それぞれの対策も変わってくると思われる。財団法人市民防災研究所では、そこに着眼して“地震対人間の時間割り”と名付けた対策を打ち出した。参考までに紹介する。

第1段階 激しい揺れの最中（阪神 約20秒、関東約2分）

- ・生命を守る時間
- ・コンロの前にいたら、火の始末をしてすぐ離れる

第2段階 揺れが収まって（約1分間）

- ・しそこなった火の始末を忘れずに
- ・初期消火をして、わが家、わが職場を守る

第3段階 外へ出て様子を見る（約15分）

- ・近隣の人々と協力して、近所の火災の消火をして、わが町を守る

第4段階 安否を確認（約半日～1日）

- ・家族（園児）の安否
- ・近隣の助け合い
- ・ケガ人の手当てをする緊急対策の時間

くこの時期になると、様々なデマが飛び交う。くれぐれもデマに惑わされないように>

第5段階 とりあえずの生活（約半日～）

- ・ライフラインの途絶など、不便を強いられる生活環境の中で、知恵と工夫と努力で生活を守る

第6段階 徐々に復興（3日目ぐらいから～）

- ・苦勞して守る生活に、復興が重なってくる

+++++

・震災から早や6ヵ月も過ぎ、新聞やTVで被災のニュースを見て、人間にとって大切な「助け合い」みんなの「力」の偉大さを知る。 (雄岡山保育園 世良田美恵子 園長)

・全焼により全ての物を失う。お金で買えない思い出を失う辛さを初めて味わい、その辛さを園の子どもたちの明るい笑顔に励まされている。 (大池保育園 中杉 幸夫 園長)

・内部に損傷はあったものの建物は建っており、保育も4月から通常に始められ世間では復旧の中、園で保育ができることを嬉しく思う。 (聖ミカエル保育園 藤本 幸子 保母)

地震対人間の時間割

<地震発生>	(崖崩れ、津波は待ったなし)	
激しい揺れ 阪神：約20秒 関東：約2分	↓ 体を守る	身の安全 火の始末
(概略の時間) 揺れが収まって 約1分間	↓ 家を守る	更に火の始末 初期消火
外へ出てくる 約15分間	↓ 町を守る	近隣の初期消火に協力
安否を確認 約半日～1日	↓ 緊急対策	家族の安否 近隣の助け合い
くれぐれもデマに惑わされないようにしたい		
とりあえずの生活 約半日～	↓ 生活を守る	とりあえずの衣食住
復興 3日目位から	↓ 徐々に復興	

(財) 市民防災研究所

+++++

- 家が幸い保育園に近いので、園長先生主任と共に水びたしの部屋の整備の手伝いをし、子どもたちが来られるようにしました。(聖ミカエル保育園 岡野 妙子 調理員)

- いつも、あたり前に使っていた水。何度も車で水くみに行っ、少しずつ節約して。もうムダ使いしないと決めたのに、ごめんなさい。(ゆりか保育園 岩佐 直子 保母)

- 悲しい辛いことが多くあったけど、「みんなに元気をあげたい」という子どもたちの意見から避難所を慰問。私たちが子どもたちも大切なことを学んだ。(ゆりか保育園 斉藤 真人 園長)

『参考資料』

井戸について

阪神大震災発生時、神戸市内では何ヵ所かで火の手が上がり、それが延々と何時間も燃え広がり、大惨事が更に悲惨な結果となったのである。

その原因の一つは防火水槽の一部または採水管が損傷を受け、減水や吸水不能となったり、消火栓がガレキの下敷きになってしまったり、近くに川がなかったり、防火用取水が不可能になったことである。

地震で幸い倒壊をまぬがれた家屋の主人は、家が無事だったので特に避難する必要もないため荷物の持ち出しをしないまま、気持ちを落ち着けていた矢先に火があちらこちらから迫ってきて、全く何一つ出せずに焼け出されてしまった。

なんらかの方法で自衛消火活動を行っていたなら被害はもっと少なく済んでいただろう。

これらのことを考え合わせ、火災時の吸水用、あるいは生活用水用（水洗便所、洗い水など）として使える井戸（水）を確保しておく必要があると考える。

井戸は地形によってどれ位掘れば水脈に当たり、井戸として利用（1分間に20リットル取水出来ること）できるか、専門家でもなかなか難しいらしい。

ほんの1メートル左右にずれただけで水脈から離れることもあり得る。

専門家は岩盤の上、あるいは粘土層の上部または下部に水がたまると考えて、その辺りに井戸の底部を持つてくるとのこと。

現代では井戸掘りは地質調査を請け負っている業者が依頼に応じている。

以下は地質調査技士 西條巧一氏におたずねした簡単な井戸の知識と必要経費である。

+++++

- 一番考えさせられたことは“水”でした。食事の面ではもちろん衛生面でも水というものは、とても大切なものであると強く感じました。
(神戸保育園 山本 雅子 栄養士)
- 電車から降り、保育園に近づくにつれ震災のひどさに驚き、失望した。そして起こりえることを考えるとやる気と同時に胸が熱くなった。
(神戸保育園 奥野 佳代 栄養士)
- ガス・水がとまった中での保育。くじけそうな時もありましたが、子どもたちの笑顔に励まされ、のりきることができました。
(神戸保育園 後藤 暁美 保母)

種 類	掘 り 方	経 費
打込井戸	直径45mm仕上げ 鉄で打ち込む ポンプは地上に設置 ポンプは日立、シントー、ガデリウスの各社の物がある	掘り込み費 250,000円 地上ポンプ費 配管工事費 【注】それぞれ業者が違うため、全体費用は不明
枠井戸	直径1メートルの穴を掘り、直径75センチのコンクリート仕上げ 15メートルぐらいまでで水がたまるような集水道（水をよび込む井戸）にあてればこの方法が一番安価で工事もしやすい 穴底に玉ジャリを充填する ポンプは井戸の中でも地上でも取り付けできる	10メートル掘り込み費 2,000,000円 ポンプ費 【注】地上か水中で費用が違う
深掘り井戸	① 直径10～30センチの塩ビパイプを掘り下げていく。塩ビパイプの中にたまった水は揚水管（ステンレス製）を通して地上に出る ウインチ工法 回転させながら掘る。50メートルぐらいの深さのものに使用 パーカッション工法 たたいて掘る。地層が堅い時に有効。150メートルぐらいの深さのものに利用 ② ダイヤモンドピット トリコンピット（回転のみ） オーデックスハンマー （たたく方法と回転する方法の両方をするのではよい） ダイヤモンドを先につけている ③ 10メートル～50メートルぐらいの場合はぶっつけ掘りするが、50メートル以上掘らなければ無理の予想の時は電気探査をかけて大体の見当をつけてから掘る 【参考】150メートル位でもオーデックスハンマーを使えば最短で約1週間あれば掘り上げることが出来る。但し、①②③の掘り方を利用する場合は、井戸の周辺10㎡ぐらいのやぐらを組むための空地が必要である	掘る費用 10メートル 1,200,000円 40メートル 4,000,000円 50メートル 5,000,000円 100メートル 8,000,000円 水中ポンプ費 （塩ビパイプの中に水中ポンプを入れる） 配管工事費

+++++

•園が再開し、子どもたちは友だちに会えたことをとても喜んでいました。そんな姿を見ていると皆無事で本当に良かったと思いました。
（ポートピア保育園 岩崎 笑子 保母）

•5歳児担任だった私の頭の中は卒園式のことだけだった。千葉から一人でボランティアに来てくれた大山保父との出逢いに励まされた。
（ポートピア保育園 小田 ユミ 保母）

•救援物資から我が子に合うものを捜していた母親に「お母さん！助け合いやなあ。」といていた4歳男児。子どもたちも色んなことを学んだね！
（ポートピア保育園 山本 まり 保母）

•北区は被害が少なかったがそれでも子どもたちの元気な顔を見てホッとした。父兄や子どもたちが安心できる場でありたいと思った。(頌栄保育園 久本 有香 保母)

•泣き叫ぶ緊急入所児、園舎の工事、仮設教室建設。様々な状況の中でも園児達の笑顔に触れ奮起し、仕事に生かされていると思った。(学が丘保育園 筒井 裕子 保母)

•地震後、1月も過ぎると登園してくる子どもも増えてきました。「先生、おはよう！」と元気な声が増えていくことが嬉しかったです。(学が丘保育園 近藤 美紀 保母)

•余震が続くなか、子どもと一緒に夢中になって劇あそびごっこに取り組んだので、怯えずに生活発表会という大きな山を乗り越えた。(学が丘保育園 田中 扇子 保母)

•「保育園の先生やAちゃん大丈夫かな？」余震の続く暗闇の中でMちゃんはそう言ったらしい。元気な姿で登園してきた時は胸が熱くなった。(学が丘保育園 箕浦 純子 保母)

•体験したことのない不安、戸惑いのなかで、右往左往した状態だったが、子どもたちと生活発表会に向かって打ち込むことで前進することが出来た。(学が丘保育園 王子 昌子 保母)

•この世のこととは思えない程の揺れを感じさせられました。神戸市民の一員として復興活動に、少しでも参加させて頂きたいです。(日輪寺保育園 河野 尚子 保母)

•震災直後から生活水の確保で井戸水をもらったり、給水車を待つ生活が続き、蛇口から水が出た時の喜びは計り知れないものがありました。(日輪寺保育園 福井美智代 保母)

•保育園に子どもたちが、元気に登園し、一日が過ぎていくと言う、これまで何気なく思っていたことがどれ程、幸せなことか、改めて感じます。(日輪寺保育園 奥村ゆかり 保母)

•この震災により、生かされた命を何かに役に立てたい、と思うと、これからのこの仕事への意欲は、中途半端なものにはしたくない。(ルンビニー愛児園 安福友果子 保母)

•26日より保育園を再開し少人数ではあったが子どもたちの元気な顔を見た時には喜びと命の尊さを本当に実感した。みんな元気でよかった。(大慈保育園 高橋登美子 事務)

•保育再開の時、緊張と不安と歓びであった。出席人数こそ少なかったが、ニーズの逼迫性に答えられ、社会福祉のすばらしさを感じた。(大慈保育園 高橋 光公 園長)

•余震におびえながら保育を再開したが、子どもが集まらず、何とも言えなかった。またにぎやかな笑顔がたくさんもどり、うれしい。(大慈保育園 神野 園美 保母)

- 家を失い、避難所から出勤した約2カ月。園再開は私にとって悲しみを忘れ、立ち直りへの希望と大きな励みを与えてくれました。
(丸山保育園 吉田 ふみ 主任保母)
- この震災で園児も少なくなり、一時は保育再開の見通しがつかず保母も不安になりましたが、皆で心と力を合わせ頑張っています。
(丸山保育園 野呂多恵子 保母)
- 余りにも無残なこの自然がもたらした光景!! 皆生きていた。長く厳しい再開への道程。春、子どもと会えた喜びと共に、強く歩き続ける。
(みのり保育園 平野 一永 主任保母)
- 突然の揺れ、断水、交通渋滞、余震、様々な恐怖を子どもと共に味わった。今なお子どもから出る「地震」という言葉に深い感慨を覚える。
(平野保育園 岸本 啓子 保母)
- 水が出ないまま園再開。トイレの水流しと大変なことも多かったが、改めて水の大切さなど今まで気付かないことをたくさん得た日々でした。
(平野保育園 松森美紀子 保母)
- 断水の中で強く感じたことは水の大切さでした。水がこれ程、生活を支え、保育に不可欠な物であったか、ということを実感しました。
(平野保育園 岩鼻 恵子 保母)
- 押し寄せる余震の恐怖に耐えながら、子どもの安全確保に四六時中緊張の連続。子どもらと水や全ての物、命の大切さを改めて学び直す。
(平野保育園 石本真由美 保母)
- 突然襲った断水。トイレ、食事だけではなく、衛生面や精神的な苦痛を子どもたちとともに経験し、自然災害の恐さを、思いしらされた。
(平野保育園 益岡 佳子 保母)
- 大震災から水道の使えない生活、余震の続く中子どもたちの無邪気な笑顔に励まされ、全園児が無事であったことが一番の救いでした。
(平野保育園 辻 真由美 保母)
- 保育再開で無事に子どもたちが元気に登園してくれたことが本当にうれしく思っています。登園出来ない子も連絡で無事。安心したことです。
(けやき保育園 河田真由三 保母)
- 一番困ったのは手洗い水でした。職員がバケツを持って川に水を汲みに行ったが、卒園児が一日中水汲みしてくれて胸が熱くなりました。
(けやき保育園 溝田 勲 園長)

編集をおえて

あの日と同じ寒い冬を再び迎えた。一年という歳月は、人々を二分した。いまだ震災の傷が癒えないまま“被災”の二文字を背負い続けている人たちと、時の流れに“震災”をのせて、過去へ運び去ろうとしている人たちとに……。

黒川会長が、全私保連の第99回理事会で、「……震災の記録を残し、防災マニュアルを作りたいと思っている……」と、全国の方から温かい手をさしのべていただいたお礼に、神戸の震災体験を何らかの形にして、みなさんのお役に立つものにまとめたい、と記録誌発行の約束をしたのが、地震後4カ月たった5月のこと。

園の復旧などで大変な中、10人の編集メンバーで、とりあえずスタートしたのが7月のはじめであった。

すでに、いろんな分野、職域から大地震の記録、報告集が数十冊も出回っていたが、保育界からのレポートという視点でまとめていくことになり、年度内の校了をめざしてがんばった。

私たち関係職員すべてが、直接あるいは間接的に被災者であることから、60字寄稿を企画、各頁の下段と各項のおわりに掲載した。また、全壊園の園長さんに手記を書いていただいた。

感傷におちいらず、悲しみ、絶望、困難をのりこえて、犠牲となった方たちの分まで生きようとする被災地の前向きな姿を、少しでもお伝えすることができれば幸いである。

二度とあってはならないが、天災は忘れた頃にやってくるとよく言われる。私たち神戸の体験を、どうぞ、しっかりと心の片隅に刻み込んでおいてもらいたい。

地震列島といわれる日本であるが、地震だけを考えていては駄目である。

ついこの間、事故のあった「もんじゅ」の例や、原発やコンビナートのある所で、もしあのような地震がおきたら…、と考えると空恐ろしくなる。

“防災”は、災害がおこってしまったからの対応はもちろんだが、未然に被災を小さくするためにこそ役立てるべきではないだろうか。

日々、現場で託されたいのちと向かい合っている私たち、このたびの阪神大震災で、保育という仕事の重みを再確認せずにはいられない。そんな思いを私たちだけにとどめないで、全国の仲間を広げることが、この冊子の発刊の意義でもある。

最後になったが、犠牲となられた方たちの霊が安らかであらんことを祈りたい。また、編集委員を助けてくれた連盟の道行事務局長と佐藤、赤神、二人の事務局員に心から感謝したい。

1996年1月17日

編集委員一同

明日へのマーチ
—阪神・淡路大震災の記録—

1996年1月17日

発行 (社)神戸市私立保育園連盟

〒650 神戸市中央区橘通3丁目4番1号

神戸市立総合福祉センター内

TEL 078(361)3889

FAX 078(361)3918

編集：「明日へのマーチ」編集委員

黒川 恭真(明照保育園) 渡邊美津子(神戸保育園)

横山 昭(北須磨保育園) 西舩 通子(ポートピア保育園)

藤田有美子(青谷愛児園) 箕浦 志保(学が丘保育園)

舟橋 博(あさひ保育園) 東條 義子(太陽の子保育園)

阿曾 恭子(あゆみ幼児園) 小池 泰代(つぐみ保育園)

印刷 (有)共同出版印刷

〒650 神戸市中央区中町通4丁目1番19号

TEL 078(351)5781

震災記録誌「明日へのマーチ」の文中、誤植のおわびと訂正

年度変わりで、多忙を極める昨今、お元気でご活躍のことと存じます。

さて、先般、配布させていただきました震災記録誌「明日へのマーチ」に、以下のような誤植がございました。数回の校正にもかかわらず、このような間違いがおきてしまいましたこと心よりおわび申し上げる次第でございます。

大変、お手数をおかけ致しますが、お手元の本のまちがい箇所を訂正していただきますように、お願い申し上げます。

ページ	誤	正
14 地図	(6) 子 長田区の新生寮保育所に	粉 全壊園のしるしの×を入れる
”	栢谷保育園	つぐみ保育園
32	(11) 潜む	潜る
41	(中) 価値感	価値観
55	(10) かなぎり声	かなきり声
56	(3) 場所の	場所に
105	(1) 水熱唯不来	水熱雖不来
142	(8) この園の	この国の
”	(12) 再び合う	再び会う
155	(下) 無中の	夢中の

() 内の表記、脚注の場合は上、中、下、ページ全体の場合は上からの数です。